様　式

自己点検・自己評価報告書

令和７年４月１日　　～　令和８年３月 31 日

令和 8 年 3 月 31 日現在

東洋医療専門学校

令和８年６月 12 日作成

目　次

基準１　教育理念・目的・育成人材像等…1

1-1　理念・目的・育成人材像は定められているか…3

1-2　学校の特色は何か…4

1-3　学校の将来構想を抱いているか…5

基準２　学校運営…6

2-4　運営方針は定められているか…7

2-5　事業計画は定められているか…8

2-6　運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか …9

2-7　人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか…10

2-8　意思決定システムは確立されているか…12

2-9　情報システム化等による業務の効率化が図られているか…13

基準３　教育活動（歯科技工士学科）…14

3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか…15

3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか…16

3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか…17

3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか…18

3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか…19

3-15　授業評価の実施･評価体制はあるか…20

3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか…21

3-17　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか…24

3-18　資格取得の指導体制はあるか…25

基準３　教育活動（救急救命士学科）…26

3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか…27

3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか…28

3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか…29

3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか…30

3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか…31

3-15　授業評価の実施･評価体制はあるか…32

3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか…33

3-17　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか…36

3-18　資格取得の指導体制はあるか…37

基準３　教育活動（鍼灸師学科）…38

3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか…39

3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか…40

3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか…41

3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか…42
3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか…43
3-15　授業評価の実施･評価体制はあるか…44
3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか…45
3-17　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか…48
3-18　資格取得の指導体制はあるか…49

基準３　教育活動（柔道整復師学科）…50
3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか…51
3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか…52
3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか…53
3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか…54
3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか…55
3-15　授業評価の実施･評価体制はあるか…56
3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか…57
3-17　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか…60
3-18　資格取得の指導体制はあるか…61

基準４　教育成果（歯科技工士学科）…62
4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか…63
4-20　資格取得率の向上が図られているか…64
4-21　退学率の低減が図られているか…65
4-22　卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか…66

基準４　教育成果（救急救命士学科）…67
4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか…68
4-20　資格取得率の向上が図られているか…69
4-21　退学率の低減が図られているか…70
4-22　卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか…71

基準４　教育成果（鍼灸師学科）…72
4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか…73
4-20　資格取得率の向上が図られているか…74
4-21　退学率の低減が図られているか…75
4-22　卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか…76

基準４　教育成果（柔道整復師学科）…77
4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか…78
4-20　資格取得率の向上が図られているか…79
4-21　退学率の低減が図られているか…80
4-22　卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか…81

基準５　学生支援（歯科技工士学科）…82

5-23　就職に関する体制は整備されているか…83
5-24　学生相談に関する体制は整備されているか…84
5-25　学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか…85
5-26　学生の健康管理を担う組織体制はあるか…86
5-27　課外活動に対する支援体制は整備されているか…87
5-28　学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか…87
5-29　保護者と適切に連携しているか…89
5-30　卒業生への支援体制はあるか…90

基準５　学生支援（救急救命士学科）…91

5-23　就職に関する体制は整備されているか…92
5-24　学生相談に関する体制は整備されているか…93
5-25　学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか…94
5-26　学生の健康管理を担う組織体制はあるか…95
5-27　課外活動に対する支援体制は整備されているか…96
5-28　学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか…97
5-29　保護者と適切に連携しているか…98
5-30　卒業生への支援体制はあるか…99

基準５　学生支援（鍼灸師学科）…100

5-23　就職に関する体制は整備されているか…101
5-24　学生相談に関する体制は整備されているか…102
5-25　学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか…103
5-26　学生の健康管理を担う組織体制はあるか…104
5-27　課外活動に対する支援体制は整備されているか…105
5-28　学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか…106
5-29　保護者と適切に連携しているか…107
5-30　卒業生への支援体制はあるか…108

基準５　学生支援（柔道整復師学科）…109

5-23　就職に関する体制は整備されているか…110
5-24　学生相談に関する体制は整備されているか…111
5-25　学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか…112
5-26　学生の健康管理を担う組織体制はあるか…113
5-27　課外活動に対する支援体制は整備されているか…114
5-28　学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか…115
5-29　保護者と適切に連携しているか…116
5-30　卒業生への支援体制はあるか…117

基準６　教育環境（歯科技工士学科）…118

6-31　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか…119
6-32　学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか…120
6-33　防災に対する体制は整備されているか…121

基準６　教育環境（救急救命士学科）…123

6-31　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか…124
6-32　学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか…125

6-33　防災に対する体制は整備されているか…126

基準６　教育環境（鍼灸師学科）…128

6-31　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか…129

6-32　学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか…130

6-33　防災に対する体制は整備されているか…131

基準６　教育環境（柔道整復師学科）…133

6-31　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか…134

6-32　学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか…135

6-33　防災に対する体制は整備されているか…136

基準７　学生の募集と受け入れ…138

7-34　学生募集活動は、適正に行われているか…139

7-35　学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか…140

7-36　入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか…141

7-37　学納金は妥当なものとなっているか…142

基準８　財務…143

8-38　中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか…144

8-39　予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか…145

8-40　財務について会計監査が適正に行われているか…146

8-41　財務情報公開の体制整備はできているか…147

基準９　法令等の遵守…148

9-42　法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか…149

9-43　個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか…150

9-44　自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか…151

9-45　自己点検・自己評価結果を公開しているか…152

基準１０　社会貢献　153

10-46　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか…154

10-47　学生のボランティア活動を奨励、支援しているか…156

基準１１　国際交流　157

11-46　グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか…158

基準１　教育理念・目的・育成人材像等

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は、職業人教育を通じて社会に貢献することをミッションに、昭和５４年４月大阪市都島区に　財団法人　東洋歯科技工学院を運営母体とし、厚生省の指定を受け、付属東洋歯科技工学院を開校。建学の理念を「実学教育」「人間教育」「国際教育」の『３つの教育方針』とし、「学生」「就職先」「高等学校」「地域の方々」から信頼される『４つの信頼』の構築を運営目標とし、２０余年に渉り歯科技工士の養成を行ってきた。 平成１２年４月、この歴史有る教育実績を基に、現在地（新大阪駅近隣地）に校舎を新築移転し、学校法人　東洋医療学園を設立、校名も新たに付属東洋医療専門学校として開校した。現在、学校長として千里救命救急センター名誉所長太田宗夫先生に指導をいただいている。学科構成は、実績のある歯科技工士学科の一層の充実を図り、高齢者への大切な福祉である、より機能性の高い補綴物の製作、並びに新しい技術を伴う審美歯科の基礎的な知識・技術を修得、併せて問題解決能力のある歯科技工士の養成を目指し、全国で初の３年制の「歯科技工士学科」（定員３０名）を開設。また新たに現在の日本で求められる救急医療の分野で、患者の蘇生率がまだまだ低い日本の現状を鑑み、救命率を上げることの必要性から、大阪府下では最初の「救急救命士学科」昼間部（定員８０名）を西日本で初の３年制学科とし、また全国初の夜間部（定員４０名）を設置、現在では全国で最も養成規模の大きい１学年１２０名の救急救命士学科とし、西日本に広く人材の養成を行っている。 平成１４年４月より、昼間部・夜間部ともに３年制で、１学年各３０名定員の「鍼灸師学科」を増設。現在、日本に於いては唯一の中国　浙江中医薬大学との併習制度を実施、本校３年間の授業内容を全て取得単位と認めて頂き、４年生、５年生を同大学で学び「中医針灸学士」の学位が授与される制度となっており、過去多くの卒業生が留学している。	本校は歯科技工士学科（３年制）・救急救命士学科（３年制）・鍼灸師学科（３年制）・柔道整復師学科（３年制）の４学科からなる専門学校であり、基本的に共通の教育システムに基づき教育がなされている。国家試験の合格はもちろん、基本的知識・技術・医療人としての心構えと豊かな人間性を備えた歯科技工士・救急救命士・鍼灸師・柔道整復師を養成するための、より効果的な教育を行う為に、独自の教育システムで教育を行っている。即ち、「自己変革教育システムＰＩＢＡＰ（ピバップ）」。自己発見の場として入学前から教育が開始される入学前教育（Ｐ：プレスクール）。１年生の４月から９月まで、基礎学力のレベルを整え、専門基礎にスムーズに移行、又、医療人としての目的意識をしっかり身につけ、目標を明確にする自己変革意識の動機づけとして大切な導入教育（Ｉ：イントロダクション）。１年生の１０月から２年生の３月まで、学びの基盤を固め、その上で基礎教育による知識、技術を築き上げ自己変革意識の定着を図る基礎教育（Ｂ:ベーシック）。３年生４月から卒業まで、身につけた専門基礎知識、技術を基に、総合的に理解を深め国家試験に対応させる応用教育（Ａ：アプリケーション）。卒業してから業界人として継続的にキャリア形成を図り、末永く自己形成をしていくために卒後研修などの継続教育（Ｐ：ポストグラジュエート）と本校では、入学前から在学中は基より卒業後までをフォローする時系列な教育システムと、専門分野で実践できるよう応用力をつけ、ひとりひとりの主体性を尊重し、自ら考え行動できる自立能力を養う問題志向型教育システム（ＰＯＥＳ教育システム＝Problem Oriented Education System）を取り入れ、両教育システムを組み合わせ、自己変革意識の育成を図り、自己確立を目指している。このように、目標に到達するまでに各時期において教育目標を設定し、学習者の実態に応じて段階的にステップアップさせ、知識・技術を積み上げるだけでなく、主体性を持ち、継続教育を実践し、業界でリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指している。

なお、平成１７年４月より昼間部・夜間部ともに１学年につき昼間部６０名、夜間部３０名の定員で「柔道整復師学科」を増設し、医療関連資格の中で開業権のある学科の充実が図られました。４学科共に国家資格のある厚生労働省の指定学科で、特に、国家試験には全員の合格を目指し、各業界が求めるニーズに添った優秀な医療系スペシャリストの養成を目指しています。 また、平成 25 年 4 月 1 日より公益法人法の改正に伴い、姉妹校であった社団法人新歯会附属の新大阪歯科技工士専門学校並びに新大阪歯科衛生士専門学校を受け入れ、法人名も新たに「学校法人新歯会東洋医療学園」とした。 さらに令和 2 年 3 月 1 日より運営基盤、教育環境の更なる充実を目的に系列グループである学校法人大阪滋慶学園と合併し、法人名も「学校法人大阪滋慶学園」とした。	【教育理念・運営目標】 「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションとし、「建学の理念」である「3 つの教育方針」即ち、 実学教育・人間教育・国際教育を実践し、運営目的である「４つの信頼」即ち、学生本人、就職先及び各業界、高等学校、地域から信頼される学校、学科を目指し、強い滋慶ブランドを構築する。 【育成人材目標】 広い視野を持って現実を見つめ、豊かで柔軟な感性と人格を身につけ基本的知識、技術を発展的に捉え、常に新しい技術を追求し、未来を見つめる「心構え」即ち「主体性」を持った社会に必要とされる職業人育成を目指している。この「主体性」の修得こそ本校が目指す教育であり、グループ共通の３つの教育方針「実学教育」「人間教育」「国際教育」を柱に「主体性」を持って、現代の社会で自己の未来を切り開いていく創造的能力と、勇気と信念を持った人間の育成、各業界でリーダーとなれる人材の育成を教育の目標としている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	**記載責任者**	古谷　圭司

1-1　理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
1-1-1　学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	理念・目的・育成人材像は、明確に定め教職員、学校関係者が共有すべき最も大切なものであると考えている。	建学の理念を実学教育、人間教育、国際教育の「３つの建学理念」として実践し、運営目標である「４つの信頼」即ち、学生、業界、高等学校、地域からの信頼構築を目指している。	非常勤講師に対する教育理念、教育目的をさらに明確にすることを課題とし、意識統一に取り組んでいる。	・教育指導要領 ・学生便覧 ・学校案内 ・HP
1-1-2　理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	理念・目的・育成人材像は教育成果として実現することを目標としている。入学前から卒業後までの教育を体系的に捉える教育を方針としている。	学生・教職員全員に配布する学則及び、学校案内、学校 HP にも記載している。教育理念・教育目的・育成人材像をシラバスに落とし込んでいる。	年度始めに全体講師会議を実施、理念、目標，育成人材増について重ね重ね説明し協力を求めている。	・シラバス
1-1-3　理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	理念・目的は不変のものであるが、実行方針、実行計画は時代の変化に対応して適宜見直す姿勢を持つ。	毎年、見直し改定した実行方針、実行計画を事業計画書に記載し、前年 12 月末に全教職員への発表日を設けている。	社会の変化、制度の変化により改定された内容の周知徹底を図るため、毎月の全体会議、事業計画発表会を行っている。	・事業計画書
1-1-4　理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	学生・教職員および関係者に周知を図り、また、広く学外に公表し、その上で、実践すべきであると考えている。	学生・教職員全員に配布する学則及び、学校案内、学校 HP にも記載し広く公表している。	特になし	・教育指導要領 ・学生便覧 ・学校案内 ・HP 他

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
明確に定められた理念・目的・育成人材像をベースに学校は運営されている。各業界のスペシャリストを輩出する養成機関として、社会に質と量を保障できる教育を実践しなくてはいけない。	「職業人教育を通して社会に貢献する」ことが、全教職員の共通ミッションである。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	古谷　圭司

1-2　学校の特色は何か

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
1-2-5　学校の特色として挙げられるものがあるか	１）運営方針、教育理念が確立し、全教職員の方針が共有されていること。 ２）教育成果、運営成果を高める為のシンクタンクが存在すること。 ３）限られた教育機関で教育成果を高める為の独自の教育システムが有ること。 また、国家試験合格に向けた独自のWEBシステムがあること。	１）前述より教育目標を「４つの信頼」とし、実現の為の教育理念を「３つの建学理念」とし、教職員全員が共有している。２）教育成果、運用成果を高めるために『滋慶教育科学研究所』を設立、教職員の研修、又、学会を開催し成果を上げている。 ３）教育効果をあげるために前述の独自の２つの教育システムを取り入れている。 時系列な PIBAP（ピバップ）教育システムと問題解決思考型の POES 教育システムの 2 つである。また、WEB での国家試験対策にも力を入れている。	学生の基礎学力の乖離を如何に対応し公平な成果を達成させられるかが課題でその為の対策、取り組みが特色でもある。	・学生便覧 ・学校案内

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
3 つの建学理念（教育理念）・４つの信頼（運営目標）をベースに、育成人材の目標達成のため、独自の教育システム（PIBAP）を実践し、学生個人の自主性強化のため POES 教育システムを導入し、社会に貢献し各業界でのリーダー的存在になれる人材育成を目指している。	

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	古谷　圭司

1-3　学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
1-3-6　学校の将来構想を描き、3～5 年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	地域 NO 1 の学校、学科を目標とし、5 年後の将来像を見据えた中期的構想が重要と考えている。社会の変化・業界の変化に対応し、ブランド力のある学校を目指していく。	グループ全体で 5 年ごとに立案される本年は第 7 期 5 ヶ年計画の 5 年目を迎えている。毎年、次年度及び 5 ヵ年の事業計画書を作成し、教職員全員に周知している。 具体的には「存在意義のある学校としてのブランドの確立」のため 4 つの信頼を実践していく。「各学科における職域の拡大」のためマーケティングに基づくイノベーションを行い、新たな活躍フィールドを開拓していく。「情報開示の充実」やオープンな運営を目標とし、自己点検自己評価を実施し、学校環境の更なる改善を目指す。	中長期的構想の具現化のためのベース作りが必要とされる。そのためには、個のエネルギーを高める必要がある。教職員が自己研鑽に励み、5 年先、10 年先を見据えていく姿勢が重要である。グループで行われる研修や外部研修に積極的に参加し、得た知識技術を現場にフィードバックし、教育を実践していくことで、その完成度は高まってくることと考える。理念やコンセプトを同じくした成熟した個のエネルギーのグローバル化が学校のブランド力となることと考えている。	事業計画書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
グループ全体の 5 ヶ年計画をベースに学校全体の組織目的・運営方針を決定し、それをもとに各セクションことで実行方針・実行計画を毎年作成している。事業計画発表会で教職員全員に周知を図っている。	

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	古谷　圭司

基準２　学校運営

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
滋慶学園グループ５ヶ年計画に基づき、学校運営の基軸として毎年事業計画が作成されている。 事業計画では、組織図、職務分掌、人事採用、人事研修、広報計画・広報スケジュール・イノベーション、新規事業、教育スケジュール、就職スケジュール、学校行事、インセンティブ、意思決定、業績評価、将来像、収支予算などが明確に定められている。 理事が基本方針（組織目的・運営方針）を示し、各セクションで実行方針・実行計画についての協議が行われ作成されている。 作成された事業計画は、学校運営会議、法人理事会の決裁を受け、承認を得るものとなっている。	学校運営の基本概念として以下の組織目的を定義している。 1　職業人教育を通じて社会に貢献することをミッションとし、建学の理念である３つの教育方針、即ち、 実学教育・人間教育・国際教育を実践し、運営目的である「４つの信頼」即ち学生保護者、高等学校、産業界、地域からの信頼の具現化を目指す。 2　３つのポリシーに従い、入学前から卒業後までを見据えたフローの人材育成を実践する。 3　指定定員を養成し、質保証された有資格者の輩出により産業界に貢献する。 4　滋慶学園グループの各セクションと協力し、ガバナンス体制の強化に協力する。 5　合理的な運営を図り、満足度の高い職場を目指す。 6　教職員全員がキーパーソンとなり、主体的に働く環境にする。 7　DX による新しい価値に関心を寄せ、その理解と変容を享受する。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎

2-4　運営方針は定められているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-4-1　学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	学校運営方針は、滋慶学園グループ共通の 5 カ年計画に基づき、明確に定めている。	事業計画書において明示されている。	各セクションにおいての作成段階の協議をさらに深めていく努力が必要である。	事業計画書
2-4-2　学校運営方針は教職員に明示され、伝わっているか	運営方針は全教職員が共通認識として持つべきものと考えている。	毎年、次年度事業計画書を使用し全教職員が参加する事業計画発表会が開催されている。	全体での会議や研修だけでなく、各セクションでのミーティングにおいても確認が必要である。	事業計画書
2-4-3　学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	運営方針をもとにした各種規定を定めることにより、さらに合理的な運営を目指している。	各種規定（機密文書規定・個人情報保護基本規定・教職員慶弔見舞金規定など）が定められており、教職員がいつでも閲覧できるようになっている。	就業規則や規定に関しての共通認識と理解がさらに必要である。そのための研修も定期的に実施していく。	就業規則

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年末に行われる事業計画発表会で学校運営方針や各セクションの運営方針が発表され全教職員が共有している。また各月に開催される全体会議において運営方針に沿った話し合いが行われている。共通認識が最重要課題である。	

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎

2-5　事業計画は定められているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-5-4　学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められるべきだと考えている。	組織目的・運営方針をもとに各セクションの実行方針・実行計画が定められている。	環境の変化による迅速な計画変更など、スピード感のある対応が今後さらに求められる。	事業計画書
2-5-5　学校は事業計画に沿って運営されているか	学校は事業計画に沿って運営されるべきものと考えている。	事業計画発表会で昨年度の振り返りを行い、適宜見直しを図り次年度の計画を立てている。	事業計画における個人認識の共通化を今後さらに図っていきたい。	事業計画書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業計画書及び事業報告書は毎年作成されている。毎年行われる事業計画発表会で前年度計画の成果を振り返り、次年度の計画を発表することで、全教職員の共有が図られている。	事業計画の内容 ① 組織目的 ② 運営方針 ③ 定量・定性目標 ④ 実行計画 ⑤ 組織図 ⑥ 職務分掌 ⑦ 部署ごとの計画及びスケジュール ⑧ 業績評価システム・意思決定システム ⑨ ５年後の将来像 ⑩ 収支予算

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎

2-6　運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-6-6　運営組織図はあるか	組織図は明確にすべきものと考えている。	組織体系を組織図で表している。	特になし	事業計画書
2-6-7　運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	組織運営の意思決定システムは目標達成に効率的なものを目指している。	目的によって主催者・対象者をわける方法(会議などの種類)をとり意思決定システムを構築している。	意思決定の内容は会議やミーティングなどで伝えられているが、より周知をはかるシステムが必要である。	事業計画書
2-6-8　組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	職務分掌及び責任の所在は明確にすべきものと考えている。	職務上の役割は職務分掌に明記されており、各セクションでリーダーシップとフェローシップが作用するよう定めている。	特になし	事業計画書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
組織図どおりに運営が行われている。組織図は毎年作成される事業計画に盛り込まれており、適宜改変されている。意思決定機能については決定目的別の会議やミーティングシステムが構築されている。	

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	柿原　伸一郎

2-7　人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-7-9　学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	教育は指導教員の質と意欲が大切であり、事務職員は教育環境を整える役割が有ると考えている。そこで、職業教育の質の担保と向上に添った採用と適宜研修を行いスキル面とマインド面の育成を図っている。	具体的には、一般職は新卒採用を中心とし、専門職採用は経験豊かな中途採用や本校の優秀な卒業生を採用、又、研修は本校独自のものに加え、滋慶学園グループとして初任者研修始め、教育、広報、就職と業務に添った研修を実施している。	・特になし	・滋慶教育科学研究所の年間研修計画書
2-7-10　人事考課制度は整備されているか	職員の評価に関しては、人事考課制度を採用し、自己評価および上司、同僚からの評価を踏まえ、年度ごとの課題設定を目標としている。	各人の目標シートと人事考課シートによる仕事の質、仕事の量、又は能力、情意に関し、聞き取り、上司と責任者の２名で評価している。	・学校教育は、仕事の役割の異なる分担型の仕事である上、定量評価が非常に困難である。 ・評価者による差が生まれないようにすることが課題である。	・目標シート ・人事考課シート
2-7-11　昇進・昇格制度は整備されているか	組織が小規模な為に、昇進、昇格は立場では無く、役割（配役）と考え、その役職に相応しく成長した段階で欠員があれば昇進、昇格を考えている。	コンプライアンスの関係上必要な役職は常に充足している。	・現時点では特になし	なし
2-7-12　賃金制度は整備されているか	年齢、キャリアも考慮し且つ人事考課シートや通常業務及びそれ以外での学園、学校への貢献度から決定している。	年齢やこれまでのキャリアを考慮した基本給と職能給、並びに、役職手当、調整手当を採用している。 賞与は夏季、冬季の２回支給	・職場が専門分野の異なる職務の集合体で定量評価が非常に困難である	・人事考課シート ・就業規則

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-7-13　採用制度は整備されているか	一般職は意欲のある優秀な人材の確保を目指し、毎年定期的に採用をしている。 専門職は計画採用と欠員採用の両建てで行っている。	毎年、滋慶学園グループとして一般職を中心に合同での求人を行っている。 専門職は、本校の情勢に合わせ卒業生又は、経験豊かな専門人材の採用をする。	特にありません	特にありません
2-7-14　教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	専門職はもとより、一般職を含め教職員の異動は的確に把握できている。	各学科共に学科長から、又、事務職員は事務局長又は次長から総務担当に連絡があり責任者に報告される。	特にありません	特にありません

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校運営に関する人事、特に、医療系の人事は、厚生労働省の指導要領に基づくコンプライアンスを満たし、学校運営に必要な事務職員を確保し、職務が過剰負担にならない、その上、マネジメントの真の目的である給与面からの教職員の生活の保障をし、職場満足度の高い職場環境造りが大切である。	人事面では、滋慶学園グループの組織の中で採用や一部人事異動が可能であり、人材の育成に関しては、本校独自の研修は基より、特に、グループ内に滋慶教育科学研究所を設置、広く教職員の人材の研修を行っていることが、成果と共に特徴となっている。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	古谷　圭司

2-8　意思決定システムは確立されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-8-15　意思決定システムは確立されているか	（学）大阪滋慶学園寄付行為に基づく理事会を中心とした意思決定システムが確立されている。	理事会・評議員会・運営会議・全体会議・各セクション会議を行っている。	特にありません	事業計画書
2-8-16　意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	大阪滋慶学園寄付行為に基づき、意志決定プロセスが制度化されている。	会議開催が制度化されており、それ以外にも適時開催されている。	特にありません	事業計画書
2-8-17　意思決定の階層・権限等は明確か	意思決定の階層・権限等は明確である。	階層・権限別の会議が制度化されている。	特にありません	事業計画書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
意思決定システムは目的別に方法（会議・ミーティング）が区分され、事業計画書に明文化されている。	

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	柿原　伸一郎

2-9　情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-9-18　業務効率化を図る情報システム化がなされているか	業務効率化を図るため全教職員がパソコンを使用し、メール、Teams、Garoon による連絡など常に効率化を目指している。	教職員はBOXなど共通のクラウドサービスを通じ、情報共有にも取り組んでいる。 またグループ､学内に DX 委員会を設置し、生成 AI を活用しや業務効率化にも積極的に取り組んでいる。	今後会議、発送物等においてのペーパーレス化、発送料のコストダウンも視野にいれ取り組んでいく必要がある。	特になし

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教職員全員にパソコンを貸与している。共通のクラウドサービスや生成 AI を利用し、さらなる業務効率化をめざしている。	

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎

基準３　教育活動（歯科技工士学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本学科は、「歯科技工士法」「歯科技工士法施行令」「歯科技工士法施行規則」ならびに「歯科技工士養成所指定規則」「歯科技工士養成所指導要領」に基づき教育活動を行っている。 カリキュラムについては、指定規則で規定されている教育内容以上の時間数を取得させると共に本校独自の指定規則外教科を設け、常に業界をリードする教育レベルを確保するよう運営している。 教育活動状況については、カリキュラムに基づき、シラバスを作成することで学生の到達目標の明示化などを図り、成績評価の客観性の確保等、常に到達レベルを見直し、位置づけを明確にしている。 授業評価については、各学年次の科目終了前に実施している学生による授業アンケートを中心に各教員にフィードバックし、教育内容の向上を図っている。 歯科技工士資格取得を大きな目標として教育を行い、国家試験合格率は創立以来２２年間常に１００％を継続してきたが、前年度途切れたため、学科会議において早期に検証を行い対策授業の強化に取り組み、受験者全員の合格に至った。継続を目指す。	１年生から２年生の中盤にかけては基礎教育に重点を置いた基盤固めを行い、３年生ではそれを基に臨床現場で対応出来得る応用力と技術力を備えるために一貫した教育指導を行っている。 歯科技工は、実習における技術指導に重きを置いている。個別指導においては模型や実習作品を介して、就職後に求められるコミュニケーション力の向上が図られるよう心がけている。 国家試験対策については、各定期試験および模擬試験結果をもとに、早期かつ的確に学生の習熟度・理解度の見極めを図り、低学力者の学力強化に力を注いでいきたい。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

3-10　(1/1)

3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-10-1　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	業界のニーズは、幅広くかつ即戦力であるため、基本的な知識・技能を中心に充実させるよう努力し、業界や就職先からも高い評価を受けるよう努める。	オールセラミッククラウン、ＣＡＤ－ＣＡＭ、顎顔面補綴など現在の業界の方向性を考えた実習を取り入れる他、即戦力を求められるため臨床模型実習を実践している。	パソコンの操作が苦手な学生もいるが、歯牙の形態や機能を基礎実習・講義で理解させながら、デジタル技工の基本操作を指導する。	シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
業界のニーズは非常に幅広く、求められる人材も多種多様である。また、卒後は、即戦力となれるよう、基本的な知識・技能の修得に力を入れている。加えて、入学当初から社会人基礎力の習得を目指して、人間教育の原点であるキャリア教育、コミュニケーション力の向上に力を注いでいる。	第一学年から実際に歯科治療に携わるスタッフによる特別講義や職場見学等を通して、歯科におけるチーム医療の一端を担える職業意識の高い人材の育成を目指している。外部講師、卒業生からの情報に基づいた指導をしていきたい。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-11-2　各学科の教育目標、育成人材像を達成する知識、技術、人間性等は、業界が求めるレベルに適合しているか、また、レベルに到達することが可能な修業年限となっているか	業界のニーズレベルに近づけるよう努力している。全国唯一の３年制教育をフルに活用している。	実技を中心とした教育内容であるためその作品で到達目標が確認できる。 客観的評価方法の研鑽に努めるとともに講師とシラバス、コマシラバスを再確認し実習指導に反映させる。	課題(作品)の完成度には個人差が生じるが、担当教員や講師にとる個別指導でフォローするよう努めている。	シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
3 年という教育期間の中で就業に必要な知識、技術のすべてを教授することは難しいが、重要な分野を明確にし、実技試験において評価の基準を明示し、学生に公表している。	実技試験の作品評価については、総評および個人講評を行い、技術の向上を促している。認定実技試験では、比較的高い評価を得ている。 第２学年では基礎実験から考察・結果・評価を行い、最高学年での課題研究では、問題解決能力の習得を目指して取り組み、卒業研究発表会を継続して開催し成果報告としている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-12-3　学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	本校独自の時系列なPIBAP(ピバップ) 教育システムと問題解決思考型の POES 教育システムで体系的に編成される。	教育指導要領に基づき講師会議で検討している。	特記なし。	教育指導要領 講師会議議事録
3-12-4　カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	業界団体や就職先との意見交換を行う。 材料メーカーからの新情報にも注視する。	全国歯科技工士教育協議会や歯科技工所協会、材料メーカーなど業界団体との意見交換を行っている。	特記なし。	講師会議議事録 メーカー提供資料
3-12-5　カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	業界のニーズを基に学科長を中心に作成したカリキュラム案を、学科全教員で協議する。	学科会議でカリキュラム作成に関する知識の共有を行っている。	2019 年入学生より単位が定められた新カリキュラムでの教育になる。	シラバス
3-12-6　カリキュラムを定期的に見直しているか	科目の重要性を勘案し、また、業界のデジタル化に伴い業界のニーズを反映できるよう定期的に検討する。	講師会議で担当講師と意見を交換し、カリキュラムを定期的に見直している。	業界のデジタル化が急速であるため教育の対応を加速する必要がある。 自宅での遠隔授業による教育も必要である。	講師会議議事録 シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
カリキュラムの編成については、国家資格取得を第一に、業界のニーズ、社会的なニーズ、人間としてのニーズなど、キャリア教育的な観点も取り入れつつ体系的な組み立てがなされている。	歯科材料メーカーの協力を得て、基礎から応用に至るデジタル技工の講義・実習を段階的に行っている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-13-7　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	カリキュラムはそれぞれ内容が独立して成り立つものであると同時に、科目間の連携も重要である。	シラバスにより科目ごとで指導内容や進行状況を把握できるようにしている。各科教科ごとに教員間のコミュニケーションを密にする。	特記なし。	シラバス 講師会議分科会議事録
3-13-8　各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	実習、講義に分けてシラバスが作成されている。	シラバスの作製は担当講師によるが、実習においては専任教員が講師の意見を参考に作製している。	特記なし。	シラバス
3-13-9　各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	シラバスには授業ごとの教育内容が記載されている。	シラバスに則って授業が実施されている。	特記なし。	シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
シラバスを作成することにより、学生にそれぞれの授業の目標や評価方法を理解させることができる。また、各教員が学生主体に効率よく理解させるよう工夫している。	今後もそれぞれの授業の位置づけを明確にしながら、連携を継続していこうと考えている。 教科目標と内容が解離しないよう留意し、改善に努めなければならない。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	大石　直之

3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-14-10　キャリア教育が行われているか	専門学校は職業教育の場であるだけでなく、自立して社会へ巣立っていけるキャリア教育をおこなうことは重要であると考える。	キャリアセンターを中心にマナー教育・就職ガイダンス等、キャリア教育をおこなっている。キャリアセンターと連絡を密にする。	日頃の各実習授業においても技術指導だけでなく、社会人基礎力の習得に繋がるような指導を心掛けている。	Hand-book of LIFE STYLE 滋慶学園キャリア教育ロードマップ
3-14-11　キャリア教育の実効性は検証されているか	キャリア教育の実効性は検証されるものである。	常に雇用側からの情報を収集し、実効性や不足している点を検証している。	実効性は就職後、仕事と向き合うことで判明すると思われる。見学先や就職先からの評価をもとに、改善につなげていきたい。	就職先訪問報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
キャリア教育の真価は業界の評価にあるといって良い。そのために卒業生の勤務先や、あるいは業界全体の情報に耳を傾けていかなければならない。	本校では教員だけでなく、キャリアセンターが積極的に情報収集を行い、企業説明会等でその伝達に努めている。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	大石　直之

3-15　授業評価の実施･評価体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-15-12　学生による授業評価を実施しているか	授業評価は重要である。 学生アンケートの実施 学生面談時の情報収集	学生アンケートで評価がよくないものに関しては改善策を話し合い、改善している。	特記なし。	学生満足度アンケート
3-15-13　授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	学生アンケートの実施 学生面談時の情報収集	収集した情報はフィードバックし、評価がよくない点については、改善策を学科内で話し合う。	特記なし。	学生満足度アンケート

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生の評価が業務の直接の評価であると考える。また評価が高ければ学生の満足度にもつながる。学生満足度アンケートを継続している。 今後も ZOOM 遠隔授業が再度必要になったとしても､対応できるよう学生の反応や習熟度をもとに、構成や効果等に工夫を加えて実施できるよう備えておきたい。	対面授業を基本とし、知識と技術を伝授しているが、teams 等での配信を有効利用し、より一層見やすく理解し易い授業の進行に努めていきたい。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-14　学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	資格を備え、教育力を備えた教員を確保する。	資格要件の確認だけでなく、実績・実力ある教員を採用している。	特記なし。	教員資格に関する書類
3-16-15　教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	講義科目、実技科目共に専門性、臨床経験を兼ね備えた教員で対応する。	講義科目、実技科目共に専門性、臨床経験を兼ね備えた教員で取り組んでいる。	特記なし。	教員資格に関する書類
3-16-16　教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	学生アンケートや面談時の学生の意見を参考に把握する。	より専門性の高い教員が教育に取り組んでいる。	特記なし。	教員資格に関する書類
3-16-17　教員の専門性を向上させる研修を行っているか	関連学会や全国歯科技工士教育協議会の研修会に積極的に参加すること。	教員各自がそれぞれの研修（遠隔講習会を含む）に積極的に参加している。	特記なし。	関連団体研修会開催書類

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-18　教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	基礎的な教授力については極めて重要であり、不断のインストラクションスキル向上を目指す。	学校全体としての授業評価アンケートを行っている。	評価委員会による検討。	学生満足度アンケート
3-16-19　教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	教員研修に参加するよう指導する。	全教員対象に学内研修や学外開催の研修に参加している。	体系的・定期的な研修グループで開催されているので教員が参加する。	教員研修参加報告書
3-16-20　教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	教育を進める上で、重要不可欠であるので、教員間の協議は不可欠である。	講師会議や学科会議において担当者間で打合せている。	専任と外部講師との授業の事前打ち合わせや、終了後の意見交換は重要である。継続していきたい。	学科会議議事録
3-16-21　非常勤講師間で適切に協業しているか	講師会議にて意思の疎通を行う。	講師会議（分科会）の開催。	各実習においてよく検討されている。	講師会議議事録

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-22　非常勤講師の採用基準は明確か	教員資格、適性等を勘案し採用する。	採用時に履歴書の他、資格を確認し面接等を実施して判断している。	歯科技工士学校養成所指指導要領を遵守する。	歯科技工士学校養成所指導要領 講師名簿

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
業務をおこなう上で最も大切なことはソフト面＝人材であり、良い人材を採用していくことはもちろん、さらに成長していける環境作りが重要である。そのための意識は専任教員・非常勤講師ともに高い水準を維持できている。今後も各場面での重要ポイントや指導方法などの改善点も共有していきたい。	教育指導における専任教員と外部講師のバランス調整や配置は重要だが、授業の役割を明確にすることで、効果的な教育を提供することができている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

3-17　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-17-23　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	学生便覧・内規・シラバスなどに明確に記載し、周知する。	出席と成績の両面から具体的な数字をあげて明示している。入学時・進級時にオリエンテーションで周知している。	教員にも学生にもさまざまな書類で周知させているため、相互の誤解もなく問題は発生していない。	学生便覧 試験・学習の評価内規 シラバス
3-17-24　他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	単位認定委員会が設置されている。	認定の基準は学科ごとに決められており、認定の可否は最終単位認定委員会により判断されている。	歯科技工士学科においては2019 年入学生より単位が定められた新カリキュラムでの教育を行っている。	単位認定に関する運用細則

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
評価も単位互換も明確な規定をもとに書類が作成されており、教員・学生ともに周知されている。これまで問題なく運用されているが、今後も教員・学生ともに共通の理解のもと運用していきたい。	単位認定においては、以前から検討・改善を行い構築された基準で、実施されている他学科と単位認定委員会で情報交換を行い、準備を整えていく。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

3-18　資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-18-25　目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	「歯科技工士学校養成所指定規則」に則ってカリキュラムが定められる。	本学科カリキュラムは、「歯科技工士学校養成所指定規則」に規定された内容以上の時間数となっている。	特に問題はない。	学生便覧
3-18-26　目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	国家資格取得が第一の目標である。国家試験が全国統一され出題基準も明確であるため出題基準を目標とする。	3 年次には選択必修科目で国家試験対策の科目を設けている。外部組織主催の模擬試験を受験し結果を基に全国的なレベルで評価する。	成績不良者に対してはカリキュラム外の補習授業が必要となっている。	学生便覧 シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国家試験取得は最大の目標である。学科がすべての学生を合格させるためのカリキュラム編成や態勢をとっていかなければならない。学科創立以来国家試験に関しては高い合格率を維持できている。 各担当者が出題基準を再確認し、定期試験や模擬試験の作問に反映している。	これまで蓄積してきた経験を活かし、適正な基準で行った分析・判断を基に対策授業が実施されている。各担当教員間で成功事例を共有することが出来ている。より効果的に活用していきたい。

最終更新日付	2026 年 6 日 12 日	記載責任者	大石　直之

基準３　教育活動（救急救命士学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本学科は、「救急救命士法」「救急救命士法施行令」「救急救命士法施行規則」ならびに「救急救命士養成所指定規則」「救急救命士養成所指導要領」に基づき教育活動を行っている。 学科の教育目標は、 ・国家資格[救急救命士]の取得　・本人の望む「資格を活かせる」就職 ・生涯学び続けることができ、指導的立場にもなれる[救急救命士]の養成 であり、さらに全学科共通の『自己確立システム「Ｐ．Ｉ．Ｂ．Ａ．Ｐ」』『問題解決指向型「ＰＯＥＳ」』から、(各学科の物) 救命士学科の独自性を発揮し、時期に応じた(保護者会・入学後・進級後のオリエンテーション時など)教育目標、問題点を明確にすることで成果を得ている。 カリキュラムについては、昼間部・夜間部共に指定規則第 4 条第 1 項の教育内容以上の単位数を習得させている。昼間部においては実習や公務員対策にゆとりを持ったカリキュラム内容とし、夜間部においては昼間働きながら効率よく同程度の内容履修できるものになっている。 主な就職先が消防機関であることから、常に教育内容を学科内で協議し、業界のニーズにあった内容になるよう努めている。教育活動状況では科目ごとにシラバスを作成することで学生の到達目標の明示化や単位認定の明確化などを図り、成績評価の客観性の確保等に努めている。 また、実際に消防機関で行われる訓練に参加したり、見学したりすることで実習内容の更なる充実に繋げている。 授業評価については年末に学生アンケートの実施を行い、講師会議などを通して講師への確認を行い、専任教員については学科内でフィードバック を行い教育内容の向上を図っている。 また、卒業年度においては担任毎に国家試験対策に対する学生アンケートの実施を行い、対策授業や補習などを魅力的な内容になるよう努力している。	就職については消防機関への就職がほとんどだが、2023 年に職域拡大されたことにより医療機関への就職も少しずつ増えてきている。卒業年度に国家試験対策と就職(地方公務員)試験対策の両立が必要であり、また消防学校の初任科教育に耐え得る体力・精神力を備えた人材の輩出が業界から求められている。 処置の拡大に伴いその都度カリキュラムの再検討をしている。 今後も処置拡大が考えられるため生涯を通じて学び続け、指導的立場になれるような学生教育の構築が急務である。 2025 年の病院実習については大きな問題もなく終了した。 コミュニケーション力については、外来講師（実習）を採用し現場力を付けるための想定訓練の強化を図った。 近年の法改正や処置拡大に対応し、学科独自のカリキュラムを定期的に見直している。また、ICT ツールやシミュレーション教育を積極的に導入し、学生の実践力向上を図っている。多職種連携やチーム医療を意識したコミュニケーション能力の育成にも取り組んでおり、消防・医療機関等の外部評価を受けてカリキュラムに反映する仕組みを整備している。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-10-1　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	業界のニーズは幅広くかつ即戦力であるため、基本的な知識・技術の習得を中心に充実させている。 就職先からも一定の評価を受けるよう努める。	「就職業務遂行予定」に基づき募集要項の取り寄せから消防訪問（来校や説明会での情報収集）によるニーズの把握、また、民間就職の調査などを行う。 職業実践専門課程の認可校として年 2 回の委員会「学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会」を実施し学科の取り組みと業界の要望との摺り合わせを行い教育に反映させている。	消防機関の場合、専任の救急業務体制でない本部も多く、消防業務内容を幅広く、基本的な知識・技術が求められる。 処置・職域の拡大に向けてカリキュラムの改定を行なう。 消防・医療機関・民間企業を訪問し、業界のニーズの把握に努め教育に反映させる。	・学生便覧 ・授業時間割 ・シラバス ・消防訪問報告書 ・補習要綱 ・消防募集要項及び民間求人票

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
業界のニーズは公と民間で異なるため、非常に幅広い。資格を取得しただけでは就職が(公務員試験の倍率が高く)困難である。したがって、救急救命士として基本的なことは勿論、社会人としても非常に高い一般知識・教養を求められる上にかなりの体力(体力試験)も要する。 国家試験の出題基準は 2 年毎に改定され､問題数の割合も変更となっている。このため、対策の変更を学科内で定期的に会議を実施し、現状と対策の改善点について情報共有している。業界の求める救急救命士の養成には更なる努力が必要である。	現状、公務員対策の更なる充実(一般教養・知識、SPI、体力、作文・自己 PR) 消防の場合、自治体の都合により消防学校が後期過程に成る場合もあり、初任科教育前に所属に配属となるため即戦力としての要素も必要である。 処置・職域拡大に向けて、業界の求める人材養成に向けての情報収集からカリキュラムの再構築の実施が常に要求される。 また、専門職採用の枠を受験する場合、国家試験の合否が採用の合否に影響するため受験地決定の指標を学科内で定めた。このことは、講師会議・保護者説明会で周知し、理解と協力を得ている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-11-2　各学科の教育目標、育成人材像を達成する知識、技術、人間性等は、業界が求めるレベルに適合しているか、また、レベルに到達することが可能な修業年限となっているか	修業年限に対応したカリキュラムの内容である。到達目標についてはシラバスなどで明記する。	処置拡大を受けてカリキュラムを変更、理解度を図るため、1 年生から国家試験対策模擬試験を実施。系列ごとに総括時間を設け、2 年の習熟度向上を図る。1,2 年の補習を充実させ国家試験に合格レベルの知識・学力の底上げをはかる。	標準化された病院前救護を考慮した実習内容のさらなる充実を図った。講師陣の充実及び専任教員の研修強化を行った。	・学科内資料 PIBAP ・POES ・シラバス ・学生便覧 ・指導要領 ・病院実習要綱 ・実習テキスト ・救急活動実施要領

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
3 年の教育期間の中で夜間部でも最低限の基本的な内容は網羅したカリキュラムとなっている。昼間部においてはさらに実習や公務員試験対策にゆとりを持った内容となっている。いずれの科目も到達目標・評価の基準を公表、実習においては客観的な評価が行えるよう効果測定の基準を設けている。	指導要項や学生便覧にも明確にしているが、標準テキスト第 10 版では章毎に到達目標が明確に記入された。講師依頼する時にテキストまたは担当分野のコピーを渡し到達目標からずれることのない様、授業計画を立てていただく。 実習に関しては、標準化された病院前救護、災害医療について修学年限に応じた実習の組み立てを行っている。処置の拡大がされ、定期的に変更されるガイドラインにも柔軟に対応でき、都度、効果測定についても見直している。実習テキストに沿って、実習マニュアルを作成し随時改定中である。2018.12 に専任教員で『救急活動実施要領』を作成し、以降学生全員に配布することとした。新入生に対しては、ある程度実習が進んだ時点で情報共有として配布している。内容についても随時追加修正をし、専任間で統一した指導が行えるようにしている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-12-3　学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	処置拡大の内容をうけて対応可能なカリキュラムとなっている。	講師会議などでの意見交換を反映させる。	修業年限 2 年終了までに国家試験合格レベルまで到達できるように 1,2 年模試の回数を増やし、必要に応じて補習の実施を行う。	・シラバス ・実習指導要綱 ・学生便覧
3-12-4　カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	消防訪問、消防職員来校時の報告や他施設との意見交換を踏まえて必要時学科内で協議する。	全国救急救命士教育施設協議会の総会・教員研修へ参加する。 JESC 救命チーム会での意見交換と情報の共有をしている。 消防・民間訪問を実施して学生への情報提供をしている。	外部との交流を積極的に持ち、カリキュラムへのスムーズな反映を目指す。 業界で活躍している卒業生の情報を反映する。	厚生労働省・総務省消防庁直近の法令、通知など 全国救急救命士教育施設協議会総会および研修会資料
3-12-5　カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	学科内での委員会で協議したものを学科内で共通認識を持つ。	将来的には全ての教員がカリキュラム編成に必要な知識を持つ。	委員会を積極的に活用し、知識の共有を図る。	教育指導要領 教育課程編成委員会資料
3-12-6　カリキュラムを定期的に見直しているか	必要時、学科内協議を行っている。	実施できている。	現状体制の維持と強化を行う。	3-12-4 のエに同じ

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
カリキュラムの編成は学科の教育目標を基礎に、資格取得に関わる指定基準を満たしている。全ての履修科目を必修とし、学生に統一した内容が教育できるようにしている。また、授業時間以外にセミナーや補習を設けて学生のレベルの統一化を図っている。	業界のほとんどが消防機関となる為、自治体ごとに異なる情報の共有が民間施設(病院、民間救急、警備系)より容易ではない。必要時、消防訪問を実施して情報の共有に努めている。 指定基準は満たしているが、学生のレベルが年々低下しているために基礎学力、文章作成力強化についての取り組みが必要と認識し実施している。 処置拡大・職域拡大に向けてカリキュラムを変更している。指導教員は拡大処置に対する研修会を済ませ授業に反映させて、学科内でフィードバック、共有している。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-13-7　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	適正な位置付けを目標としている。	科目については、学科内で協議し適正なものになっている。	今後も処置拡大等に対して、随時適正に変更していく。	・学生便覧 ・シラバス ・授業時間割
3-13-8　各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	到達目標、評価基準を明記している。	統一シラバスの作成。内容の統一化を図ることにより、各講師の講義内容(昼夜間部)が大きく異なることが回避されている。本校のホームページにてシラバス公開。	講師の理解は得られ内容の統一化には繋がっているが新任講師および新任・専任教員の徹底が必要である。	・学生便覧 ・シラバス
3-13-9　各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	各科目にシラバスを作成しその内容に沿って授業を行っている。	講師会議などを通して依頼している。専任の実習においては各担当で作成している。コマシラバスについては継続して外部講師への協力依頼をする。	今後も引き続き会議等を通じて周知していく。 専任担当の科目に対しても学科責任者から専任教員への継続指導が必要である。	・学生便覧 ・コマシラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各科目は適正な位置づけをされている。全科目において本校ホームページで公開。学生にもシラバスの重要性についてオリエンテーションで周知することを継続している。 コマシラバスについても必要性の説明と協力依頼(専任がまず作成)の継続が必要である。	2019 年度から”統一シラバス”を作成し、毎年更新とホームページ上に情報公開している。講師の変更などがなければ毎年一冊にして配布出来るよう準備を進める。 コマシラバスについては引き続き講師への協力を得て継続していく。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-14-10　キャリア教育が行われているか	実習などの際にキャリア教育を積極的に取り入れている。 臨地(外部)実習前に徽章授与式、接遇に関する授業を通し職業人としての自覚や態度を涵養する教育が必要である	滋慶学園キャリアロードマップの導入を行っている。 講師会議などで学校としてのキャリアロードマップの重要性を説明していく。	問題解決能力、社会的コミュニケーション能力の低下に伴う指導の強化を行う。	滋慶学園キャリアロードマップ キャリアセンター指導要領 滋慶学園キャリア教育ワーク
3-14-11　キャリア教育の実効性は検証されているか	訪問時に就職先(消防・医療機関・民間訪問)での様子を把握し、また卒業後も就職に関する情報・指導は在校生と同様に可能な限り対応できている。	就職先の管理者との友好な関係を構築している。消防訪問の継続、および消防からのガイダンスも可能な限り受け入れている。OB・OG ガイダンス、消防合同就職説明会をキャリアセンターと協力して実施し、消防就職者に関しては、高評価を得ている。(卒業生および消防訪問で情報収集) コロナ禍は消防での同乗車実習者数は減少していたが、現在 14 消防施設の受け入れが可能となっている。全学生が参加できるわけではないため、引続き学内でのカットモデルを用いた実習で現場想定訓練をさらに充実させている。 年度初めにキャリアサポートアンケート、学生面談を実施し、領域に応じた学生支援を行う。	救急用自動車同乗実習の受け入れ人数に限りがあるため、専任の授業で実践できている。講師会議などでも協力を得るよう努めている。 救急用自動車同乗実習での意識に学生の個人差がある。 同乗実習は受け入れ機関については近年協力的な機関も増えてきている。カットモデルの導入で、より現場の状況に即した実習が行えている。 POT 実習を適宜取り入れて効果的な現場想定訓練の実施が行なう。	同乗実習要項 POT 訓練症例集 KYT 事例集 キャリアサポートアンケート結果 救命救急 VR 導入資料 合同就職説明会資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
実習の中で職業人としての自覚や態度を涵養しつつ、専門知識・技術を生かすためのコミュニケーション、問題解決能力をつける指導を行えて効果を挙げている。グループ全体でキャリアロードマップを作成導入し、その重要性の認識を共通とした教育の実践を行っている。	元消防職員を専任に配置し、学科会議等で情報の共有を行っている。 消防・医療機関・民間訪問を要項に基づき実施し(就職関連・教育関連)新しい情報を取り入れ必要時教育や就職の為の指導に活かしている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

3-15　授業評価の実施･評価体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-15-12　学生による授業評価を実施しているか	学校全体で年 2 回の授業評価・学校生活・自己評価アンケートの実施	学科内で問題点のフィードバックを行い、必要時講師などへ改善を依頼している。 専任は結果を次回の授業や対策に改善できるよう努力している。	改善が見られない教員、講師に関しては学科責任者が対応するなどして解決策を検討できている。 講師会議などの機会に講師へ教授法改善の協力要請を継続していく。	学生授業アンケート結果
3-15-13　授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	授業評価の結果を踏まえたうえで、学科内・講師間での情報を共有しフィードバック体制の充実を図る。	結果を受けて努力目標を立てている。専任教員は FD 研修への取り組みを実施し教授法の評価を受けている。外部講師の教授法については学生アンケートの結果を講師会議等で伝えている。	学科としての評価基準やフィードバックの方法については行えている。 専任教員が研修に参加する機会を確保している。	学生授業アンケート結果

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生による授業評価から得られる情報は教育システムの確立・見直しに有用と考えている。ただし、医療系国家資格を取得する学科として学生の多様性問題(学習習慣の欠落、集中力の低下及び持続不能)による低評価も考えられるため内容の分析には十分な検討が必要である。	学科としては継続して授業内容の提案や改善に関する指導を行っていく。 専任教員は学生の満足度に関して統一した見解を持ち努力を怠らず互いに評価し合い改善を継続する。 学生アンケートの結果から講師への授業改善の依頼を講義開始前に実施している。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-14　学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	教授資格等、各要件を満たした教員を採用し、教育力充実を目指している。	講師採用時履歴書等で研究活動と教授内容の関連を把握する。医師・消防職員・救急救命士・病院救命士・看護師等バランスを考えた職員採用をしている。	専門の資格証明で採用することが多く今後、事前面接の徹底・救急現場対応数・模擬授業の評価などを含めた学科主導型の採用基準作りが必要である。	教員資格保有の書類 講師別資格、契約書類 学科内教員業務担当状況
3-16-15　教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	実際の現場で活躍経験はあるが教員期間が長ければ業界の知識技術から遠くなるため、教員の専門性の鮮度を常に把握するよう努めている。	業界の声を細かく情報収集し、常に自己研鑽していける人員が確保できている。実習時の人員確保を引き続き行っていき、質の担保に努めている。	採用教員の、教育力には個人差はあるが、他の教員の授業に参加するなどし、お互いに協力し補い合える環境を整えている。	専任教員研修実績報告
3-16-16　教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	把握はしているが、今後教員間での評価や指導、教授方法の均等化が急務である。	授業状態の把握を行っている。学科会議などで問題点を共有している。専門分野の研修への積極的参加し、内容については学科内共有に努めている。	各教員間の認識の違いを明確にし、都度解決策を協議する。	教員研修報告書 行事報告書
3-16-17　教員の専門性を向上させる研修を行っているか	専門生を深め、研究・学会などの参加は業務に支障のない限り推奨する。	予算会議において事前に予定されるものは予算を確保している。	年間予定の学会・研修においては専任教員に平等に参加してもらっている。 また遠隔でのセミナー（専門）についても適宜受講している。	年度研修学会参加申請書 プレホスピタルセミナー

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-18　教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	教員が持つインストラクションスキルについて授業現場での観察、学生による授業評価により把握に努めている。	・授業評価アンケートの実施 ・評価委員会の設置により、各自にフィードバックしている。 ・公開授業見学、リフレクション、コーチングなどに可能な範囲で参加している。	個人に関しては結果に基づく振り返り、講師会議等で改善のお願いをしている。	授業評価アンケート
3-16-19　教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	滋慶教育科学研究所［JESC］で行われる研修会に参加するように指導している。	JESA 教員研修会 大阪府初任者教員研修 救急医療財団教員研修 [JESC]の研修会等への参加 各種学会、救命士会、インストコース参加への協力を図っている。	左記研修を継続し、教員全体で共有する。また、FD 研修の受講を継続することでさらに充実させる。	［JESC］レポート 専任教員研修実績報告書
3-16-20　教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	実習に関しては専任教員および現職消防職員（主に卒業生）で実施できている。 専門科目に関しては講師との連絡を密にすることで努めていく。	実習に関してはマニュアルを随時改定している。 年度ごとに実習責任者を中心に改善に向けて協議している。今年度は実習の内容について精査し、充実度を上げていく。 講師に関しては、講師会議等での意見交換の結果を各講師に伝える。	講師に関しては個人差がある。今後も引き続き協業への働きかけが必要である。	実習予定表 講師会議議事録
3-16-21　非常勤講師間で適切に協業しているか	年 2 回の講師会議は重要で会議で出された結果を踏まえて改善していく必要がある。	講師会議への積極的な参加呼びかけと欠席講師への資料送付により方針の共有、改善への取り組みの実施協力要請をしている。	専門科目(特に医師)においては講師会議への参加が困難､送付した資料に目を通していただく働きかけを常に行っている。 公務員対策の講師については模試の情報内容の共有をしてもらっている。	講師会議資料

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-22　非常勤講師の採用基準は明確か	講師要件、適性等を勘案しながら採用する。	資格証明、履歴書などで把握し、基礎・医学基礎に関しては面接なども実施。 専門基礎に関してはその専門分野の職歴等を考慮している。	一部講師の高齢化が課題であり、随時、現講師と個別に相談後任を備えておく努力をしている。	教員資格証明 専門職資格証明 履歴書等

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の建学の理念「実学教育」に基づき、消防・臨床現場にいた教員で学科教員を構成してきた経緯があり、それぞれの現場での経験は豊富であるが統一した教育への努力が継続して必要である。また、現場を離れて年数がたつと日々の業務に忙殺され新しい取り組みが後回しになることがある。現状の業務と新しい取り組みとのバランスのとり方が今後の課題となる。いずれにしても各立場から「理想的な救急救命士の教育とは何か」を常に考え他者と協議しながら教育を実践していかなければならない。	業界が公であることから専門職教員の確保が困難（消防退職）である。 卒業生で中堅程度の教員、卒後１年目のチューターを確保し学生との距離感を近づける努力をしている。 今後も医師・看護師・救急救命士の引き続きの確保努力が必要である。資質の高い救急救命士の輩出のために協調できる学科体制作りに尽力する。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

3-17　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-17-23　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績の評価基準を明確に定め、教員・講師はその基準に沿って公正に評価している。	筆記試験、実技試験により成績評価を行っている。臨地実習においては評価基準を設け評価表にて成績とする。	同一科目の講師が昼夜間で異なる場合の公平性を保つことについて継続していく。 GPA 制度が導入され、必要に応じて成績の評価を行っている。	教育指導要領 学生便覧 成績評価表 科目シラバス
3-17-24　他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	単位認定委員会を設置し、一般教養分野のみ認定としている。	学科ごとの単位認定科目を定め、入学前オリエンテーションで告知、書類提出後学科で協議し単位認定委員会で承認される。	他の高等教育機関からの入学者は問題なく実施できているが、留年者が単位認定を受ける場合、意欲の維持が課題である。一般教養は、就職試験に関連が強いため、認定科目であっても、担任を中心として授業への参加を促している。	単位認定科目一覧 単位認定委員会議事録

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価においては学則において規定した内容で運営している。 単位認定においては単位認定委員会での規則に則り行えている。	卒業後、看護学校などへ進級する場合は各校の規定に基づいて必要な書類を個別に用意し対応している。 ただし、留年による基礎科目の単位認定においては就職試験に関連ある科目につき、授業への参加を勧めている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

3-18　資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-18-25　目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	「救急救命士学校養成所指定規則」によりカリキュラムの教育内容は規定されており、カリキュラムそのものが資格取得のためのものである。	指定規則以上の単位数を確保している。 就職試験に対応するための公務員対策の充実を図る。 現場対応の経験を伝授すべく実習時間、内容の充実、国家試験対策授業の充実により資格取得を目指す。	魅力的な授業の組み立てについて随時検討し、改善しているが学生の意欲に個人差が大きく今後は学生意欲の向上に向けての取り組みを継続していく。	指導要領 学校案内資料 学生便覧
3-18-26　目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	1,2 年次に国家試験対策に関連する科目はほぼ終了するが、3 年次には国家試験対策模擬試験を充分数実施しながら補習等を早めに開始する。	学科の事業計画に基づいて講師依頼の科目、及び専任対応の科目を把握し万遍に対策授業を組んでいる。 ・模擬試験の分析結果を基に国家試験対策センターによる講義を実施している。 受験後のサポートも実施している。 国家試験対策センターとも協力し、滋慶グループ内のチーム会で情報の共有を行っている。	1,2 年学力の向上に向けて模擬試験を増やして対応、低学力の学生に対するサポート体制をより早期化する。 J-Web の効果的な活用を図る。 学力低迷者に対しては、担任が補習を実施し、早期に本人・保護者への指導及び面談等を行う。	学科の事業計画

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
最終目標は国家試験合格であり十分な対策授業を行っているが、学力の低い学生に関しては担任を中心とした補習授業を充実させている。 また、受験時・受験後のフォローも徹底して行えており資格取得できるまで学科内国家試験対策委員、模試作成担当を中心に対応できている。	グループ内国家試験対策センター、学科内国家試験対策委員、既卒国家試験対策があり、J-Web ツールの紹介と活用した指導、対策ソフト等のハード面の充実。学力によるクラス分けを実施、グループワーク、補習などを工夫してモチベーションの維持と学び続ける力の習得を援助している。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

基準３　教育活動（鍼灸師学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師に関する法律施行令」および「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師に係る学校養成施設認定規則」にもとづき教育活動をおこなっている。 社会や業界から求められる人材像を基盤とした、明確な目標を定めた教育方針をもっている。 □　はり師・きゆう師資格取得 □　業界や社会のニーズに応じた人材の育成 カリキュラムはこれらの学科目標をもとに構成されており、目標達成にむけた効率的なカリキュラムに基づいた教育を実施している。 また、1 人の社会人として自立した行動ができる人間を育成するキャリア教育を、コミュニケーション力・社会人基礎力の向上を軸としておこない、社会的・職業的自立を目指しておこなっている。	国家試験合格を超えた実践的な応用力育成 本校の 3 年間カリキュラムは、単に国家試験に合格するための知識習得に留まらず、資格取得後、現場で臨機応変に対応できる応用力を兼ね備えるため、学生の思考プロセスを重視した指導を行っています。 人間力と専門知識のバランス重視 現代の業界ニーズは、コミュニケーション力を中心とした人間力が第一であり、技術・知識が第二とされています。この両者がバランス良く身についていることが重要です。そのため、指導は場当たり的ではなく、3 年間の大きな流れの中で計画的に行っています。キャリア教育と専門教育、双方の視点から指導できるよう心がけている。 社会ニーズに対応した多様な学びの提供 社会のニーズに対応するため、スポーツ分野や美容分野など、カリキュラム外でもセミナーなどを通じて多数の学習機会を提供する。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-10-1　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	業界の人材ニーズは社会人基礎力（マインド・スキル）・コミュニケーション力が備わった人材である。次に、基本的な知識技術が備わっており、幅広く柔軟、かつ即戦力となる知識・技術を備えていることである。人間性や社会性・技術や知識双方を備えた人材育成が重要であると考える。	コミュニケーション技法を中心とした人間教育・キャリア教育をおこなっている。知識・技術は基本をもっとも重点的におこない、また可能な限り幅広い内容でおこなうことにより、柔軟な思考を培うとともに、卒業後に遭遇するさまざまな場面に対応できるように指導している。	教育現場では、理想と業界の現実にギャップが生じがちです。この乖離を埋め、学生を啓蒙することが大きな課題だと認識している。業界の現状を正確に伝えながら教育を進めることを重視しており、その一環として学外臨床実習を積極的に実施し、これにより、学生は現場で実践的なスキルを習得し、理想と現実の折り合いをつけながら、社会で活躍する準備を進めていく。	求人票一覧 講師会議資料 実技担当者会議議事録 シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
業界のニーズのうち、知識・技術面はカリキュラムの構成で比較的指導していきやすいが、特に社会人教育・人間教育に関しては１つ１つ教授していけば身につくということではなく、3 年間の教育のなかで感覚的に理解させることが必要であり、それこそが難しさでもある。教育内容だけでなく、教員が日々の学園生活で仔細にわたって指導し、見本となれるようこころがけている。	消毒法や医療面接の技法など、教育の現場と臨床の現場では多少事情が異なることもあるが、養成校が高い水準を維持し、卒業生が業界をリードし業界を変えていく形を理想として学生を指導していきたい。また、業界の変化を見逃さず、教育も柔軟に変化させていきたい。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-11-2　各学科の教育目標、育成人材像を達成する知識、技術、人間性等は、業界が求めるレベルに適合しているか、また、レベルに到達することが可能な修業年限となっているか	科目ごと、学年ごと、そして卒業までの到達レベルをシラバス等で明示する。社会や現場で求められるレベルまで高めることが養成校の責務であり、自己満足に陥らないようにする。	3 年間を通じてそれぞれの目標を設定し、定期試験や模擬試験、認定試験・進級試験・卒業試験などにより確認している。また、卒業生のレベルが現場に適合しているか、随時就職先を訪問しヒアリングを実施している。	到達度に個人差が大きい。到達目標に達しない学生に対しては補習授業・個別指導をおこない、全学生のレベルを引き上げるよう努力している。	シラバス 学生便覧 『滋慶認定実技審査対応 ずっと使える！鍼灸臨床 BOOK』

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科で設定する教育到達レベルをクリアすることで、卒業後十分対応できるだけのレベルの内容を、シラバスや学生便覧により明示している。それらの項目を試験でクリアできることが進級・卒業の条件としている。	ニーズはさまざまではあるが、共通するのは最低限自立して業務がおこなえて、細かな指導が必要ない人材が求められているということである。3 年間で人間性・知識・技術をすべて高いレベルで習得することは容易ではないが、さまざまな手法でこれらを身につけさせて業界へ送り出すことが求められている。総じて卒業生は業界から比較的高い評価を得ていることから、現時点で到達レベルの設定に問題はないと考える。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-12-3　学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	短期的な目標をクリアすることにより、長期的な目標が達成できる、体系的なカリキュラムを編成する。	目標の達成度は個々異なるが、達成できない者もいる。補習や個別相談などでフォローし、全員の達成を目指している。	専任教員と非常勤講師との考え方の解離が存在することもあり、共通の目標として認識させることに難しさがある。講師会議・実技担当者会議等で理解に努め、できる限り解離を縮小させる努力をしている。	シラバス 学生便覧 講師会議資料 実技担当者会議議事録
3-12-4　カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	業界から情報収集をおこない、学生に対して情報を提供することで業界の動向を認知させる。業界の意見を直接聞くことができる機会をもつ。	非常勤講師や他校教員、卒業生からの情報収集、講師会議・外部施設における臨床実習・就職説明会・臨床実習専任教員による治療所訪問の実施、業団の会合参加など、多くの場で情報収集を試みている。教育課程編成委員会で有識者より意見や要望を聞き、教育内容に反映している。	業界の意見を収集する機会は十分に設けられているが、より迅速にカリキュラムに反映していかなければならない。適切な人材の選別が重要。	講師会議資料 実技担当者会議議事録 教育課程編成委員会議事録
3-12-5　カリキュラムを編成する態勢は明確になっているか	担当者の作成したカリキュラムをもとに、教員および講師、外部有識者らで議論し、改善を図る。	現状で不足している点を出し合い、それを克服するためのカリキュラム編成を随時議論し、実施している。	完璧なカリキュラムというものは存在しないが､近づけるよう努力する。改善できるアイデアがあっても、教授できる人材や情報が不足している。変化を感じ取り、反映させていくことが重要。	シラバス 学生便覧
3-12-6　カリキュラムを定期的に見直しているか	学生や業界の動向、国家試験の動向など年々変化しているため、常に問題点を話し合い、改善していく。	カリキュラム編成だけでなく、それぞれの科目ごとの内容を現状に則った形で変化させ、より理想に近い形に変化させる。	カリキュラム変更は新入生から適用されるため、導入までに時間的なずれが生じるが、常に時代の変化に合わせたカリキュラムの更新が必要だと考えている。	シラバス 学生便覧

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
カリキュラムが完璧であると思わず、日ごろから問題意識をもち、改善していくことが必要である。全体の養成目標に合致しているか、定期的に点検しなければならない。そのためには教員間、あるいは業界、学生や講師としっかり意見交換していかなければならない。	それぞれの科目が全体の目標から解離していくこともあり、日ごろからチェック・改善し、足並みを揃えていくことが重要。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-13-7　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	それぞれのカリキュラムの内容が独立して成り立つものであると同時に、縦、横のつながりをもたせるよう位置づけする。しかるべき時期にしかるべき学習ができるよう工夫する。	シラバス・教務日誌によりおたがいの指導内容や進行状況を把握できるようにしている。教育内容が時期を踏まえ、無理なく学習できるようカリキュラムが組まれている。それぞれの科目がほかの科目のフォローをできる授業内容をとっている。	それぞれの科目にどういう意味合いがあるのか、それぞれの指導教員が意識することが大切だが、教員間のコミュニケーションがおろそかになると意識が薄れることがある。コミュニケーションをとりおたがいの状況を確認しあうことが重要。	シラバス 教務日誌
3-13-8　各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	到達目標・評価基準など必要な項目がすべて記載されたシラバスを作成している。	全学生に配布すると同時に専任教員・非常勤講師もすべての学年のシラバスを閲覧できるようにしている。HP 上にも公開している。	内容は充実しており、また講義内容や評価方法などを周知させることができているため、特に問題はないと考える。	シラバス
3-13-9　各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	シラバスには各授業の教育内容を 1 コマごとに記載する。	大凡学生に明示しているシラバスに則って授業が実施されている。	各科目の 1 コマの授業に関して、シラバスには授業回数と授業内容のみが記されている。各自コマシラバスの作成も検討したい。	シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
シラバスを作成することにより、学生にそれぞれの授業の目標や評価方法を理解させることができる。また、各教員がばらばらに授業を進行させることがなくなる。学科の方針を理解させる上でも重要であるため、今後も作成・配布を続けていく。	それぞれの位置づけ・連携を今後も精査していくべきである。目標と内容が解離してはならない。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-14-10　キャリア教育が行われているか	専門学校は職業教育の場であるだけでなく、自立して社会へ巣立っていくためのキャリア教育をおこなうことも重要である。技術・知識・社会人基礎力は一体化して教育していかなければならない。	キャリア教育が特に必要とされる昼間部の学生に対して、コミュニケーション学の授業のなかでおこなっているほか、接遇マナー教育・就職ガイダンス・コミュニケーション教育・マネジメント教育、社会人直前講座・キャリア NAVI・退職職マナー講座などを通じておこなっている。	本校では、キャリア教育を特別な時間だけでなく、日々の学園生活そのものと捉えています。そのため、細やかな日常指導を通じて、学生が将来を考え、社会で直面する困難を乗り越えるレジリエンス（精神的回復力）を育成していく。	シラバス 滋慶学園キャリアロードマップ
3-14-11　キャリア教育の実効性は検証されているか	卒業後の実効性を、卒業生を通じて検証する。	卒業後、卒業生の就職先を訪問し、雇用側からの情報を収集することで実効性や不足している点を検証している。	実効性は卒業後に判明するものであり、そのためには卒業生の就職先からの情報がもっとも有効となる。できるだけ多くの声を集め、改善につなげていきたい。	求人票一覧 講師会議資料 施術所訪問報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
キャリア教育の真価は卒業後にあるといっていい。そのために卒業生の勤務先や、あるいは開業してからの声をもとに検証していかなければならない。判断するのは教員以上に業界側である。	カリキュラムに組み込むことで、体系的なキャリア教育が実施できるようになった。現時点では充実したキャリア教育がおこなえていると考える。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

3-15　授業評価の実施･評価態勢はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-15-12　学生による授業評価を実施しているか	学生アンケートの実施 学生面談時の情報収集	学生アンケートは個々の授業に関して学生の意見を吸い上げるものである。不適切なものに関しては改善策を話し合い、実行している。	より良い授業のためには、非常勤講師へのフィードバック開示の改善が不可欠である。アンケート結果などを積極的に共有し、講師の先生方が授業改善に繋げられるよう支援することで、教育の質の向上を目指す。	学生アンケート
3-15-13　授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する態勢があるか	学生アンケートの実施 学生面談時の情報収集 公開授業実施	収集した情報はフィードバックし、不適切な点があった場合は、改善策を学科内で話し合うようにしている。	学生の満足度は非常に高く、結果も出ているため、改善策が有効に機能していると考える。	学生アンケート

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生の評価が教員の業務の直接の評価であると考える。また評価が高ければ学生の満足度にもつながる。今後も積極的に実施して、常にフィードバックから修正につなげられる態勢をとっていきたい。	昨年度までは年１回実施。これまで 10 回実施。 今年度からは年２回実施する予定となっている。 授業評価のみでなく、学校評価（担任等のサポート体制・就職・学園生活など)・自己評価（学習への取り組み・学生の動向、心情、モチベーションなどが量れる項目も設けている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-14　学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	資格を備え、教育力、人間力を備えた教員を確保する。	資格要件の確認だけでなく、実績・実力ある教員を採用している。学生にとって利があるか否かを総合的に判断する。	経歴上実績のない教員は少なく、教育経験豊富な教員を優先的に採用している。それぞれの時期に必要とする人材を採用している。	教員資格に関する書類
3-16-15　教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	講義科目に関しては、国家試験時、あるいは業界で必要になる知識以上の専門性を有する。実技科目に関しては、臨床経験を重視し採用する。	講義科目担当教員については、それぞれのオリジナルテキスト作成や教材研究により各自スキルアップしている。	今後は、教員の専門性を高めるとともに、鍼灸師としての臨床経験を積む機会を増やし、すべての教員が臨床に携われる環境を整備することが重要と考えている。	教員資格に関する書類
3-16-16　教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	学生アンケートや面談時の学生の意見・公開授業を参考に把握する。	より専門性の高い教員が評価・アドバイスをおこなうことにより、さらにそれぞれの教員が専門性を高めるよう取り組んでいる。	現在、教員間の公開授業による相互評価が定期的に行われていない状況である。今後は、随時ではなく定期的に実施していく方向にしたい。	学生アンケート
3-16-17　教員の専門性を向上させる研修を行っているか	関連学会や勉強会に積極的に参加している。年度予算内で書籍を購入し、個人研究をおこなう。	各自がそれぞれの研修を受け、個人研究をおこなっている。 滋慶学園グループ全体の FD 研修やフォローアップ研修はたいへん有効に機能している。	各自受ける研修だけでなく、学科全体で取り組める研修が必要。今後検討していきたい。また、グループ校間での研修は現在検討中である。	

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-18　教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	公開授業・学生アンケート・学生面談により教員間の教授力を把握する。	体系的な評価システムはつくられていないが、学生の声は随時収集しており改善につなげられている。	体系的・定期的な評価システムが必要。また、外部からの評価も考えていく必要がある。学生の生の声がもっとも重要である。今後業界全体で第三者評価の導入が検討されている。	学生アンケート
3-16-19　教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	インストラクションスキルを向上させる研修を、多方面からおこなえる体制を作り上げる。	体系的・定期的に研修はおこなっていないが、学園グループ内で行っている研修（FD 研修等）を受講している。	学内での体系的・定期的な研修が必要で学園グループ内の研修は極めて体系的になされている。	研修資料
3-16-20　教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	講師会議・実技担当者会議・学科会議を実施する。随時情報交換に努め、同じ目標、ゴールを共有する。	講師会議は年 2 回、実技担当者会議は年 1 回＋適時、学科会議は毎週おこなっている。特に学科内協業は高く機能している。	専任教員と非常勤講師とで意見をかわし、相互に納得できる方針を決め実行しているが、一部不足している部分もあり、今後徹底していきたい。教務日誌での確認は随時可能。方針などを共有しながら一貫性のある教育は重要である。	講師会議資料 実技担当者会議議事録
3-16-21　非常勤講師間で適切に協業しているか	講師会議・実技担当者会議に加え、教務日誌を記載し、相互にチェックできる態勢をとる。	講師会議・実技担当者会議・教務日誌により協業できる態勢をとっている。本校勤務経験が長い非常勤講師も多く、相互に方向性が伝わっている。	学校・学科としての方針をしっかり伝えていく必要がある。その機会をさらに多く設けていきたい。	教務日誌 講師会議資料 実技担当者会議議事録

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-22　非常勤講師の採用基準は明確か	資格や適性のほか、経歴・経験を鑑みる。	履歴書・面接により採用を判断。特に経験の有無と教育者として適当な人柄で教育というものを理解した人物であることを重視する。	採用基準はあくまでも面接する側の主観的な判断に委ねられるが、これまで大きな問題はあまりなく、うまく機能している。問題があった場合も適切に対処できている。	学生便覧 試験・学習の評価内規 シラバス 保護者説明会資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育をおこなう上でもっとも大切なのはソフト面＝人材であり、良い人材を採用していくことはもちろん、さらに成長していける環境作りが重要である。そのための意識は専任教員・非常勤講師ともに高い水準を維持できている。	教育における専任教員と非常勤講師のバランスや配置を適切におこなうことは重要であるが、役割分担を明確におこなうことにより、適当な教育を提供できている。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	真田　浩二

3-17　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-17-23　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	学生便覧・内規・シラバスなどに明確に記載、配布し、周知する。	出席と成績の両面から具体的な数字をあげて明示している。入学時・進級時に毎年オリエンテーションをおこなっている。新入生は保護者に保護者説明会をおこなっている。	教員にも学生にもさまざまな書類で周知させているため、相互の誤解もなく大きい問題は発生していない。	学生便覧 試験・学習の評価内規 シラバス 保護者説明会資料
3-17-24　他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	単位認定委員会を設置し、内容・基準とも周知する。	認定の基準は学科ごとに決められており、認定の可否は最終単位認定委員会により判断されている。	基準も明確で、判断も単位認定委員会がおこなっているため、問題なく運用されている。	単位認定に関する運用細則

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
評価も単位互換も明確な規定をもとに書類が作成されており、教員・学生ともに周知されている。これまで問題なく運用されているが、今後も教員・学生ともに共通の理解のもと運用していきたい。	単位認定委員会による基準作成、学生への伝達、申請、単位認定委員会による会議および判断という流れが構築され実施されている。基準も明確である。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

3-18　資格取得の指導態勢はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-18-25　目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師に関する法律施行令」「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師に係る学校養成施設認定規則」に則ってカリキュラムを定める。学生便覧で学生に提示する。	「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師に関する法律施行令」「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師に係る学校養成施設認定規則」の最低限必要な単位数を満たしている。	特に問題はない。学則にも明記している。	学生便覧
3-18-26　目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	3 年間の各時期において定められた要件をクリアしていけば国家試験取得が可能になる教育内容にする。	通常の科目に加え、3 年時には総合領域として国家試験対策の科目を設けている。3 年生の補習授業等によるサポートも十分である。SNS やゲーミフィケーションを活用し国家試験対策を実施している。1、2 年生のサポートについては成績下位者に対して早期のアプローチを実施している。	国家試験が年々難化傾向にあるため、本校の教育基準も継続的に見直す必要があります。最新の出題傾向や難易度に対応できるよう、カリキュラムの内容と指導方法を常に改善し、学生が自信を持って試験に臨めるようサポートしていく。	シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国家資格取得は学生生活最大の目標であるが、学科がすべての学生を合格させるためのカリキュラム編成や態勢をとっていかなければならない。学科創設以来国家試験は比較的高い合格率を維持できていたが、近年国家試験の難易度が上がるなか、高い合格率が維持できなくなっている。昨年度も 90%を超える合格率となった。	卒業試験等で不合格者(留年生)を多く出すことにより高い国家試験合格率を出している学校が多くあるなか、留年生を最小限に留め、かつ高い合格率を維持できている。近年国家試験の難易度が上がるなか、全国合格率が下がるとともに本校も合格率は低下した時期もあった。今年度は留年生を出さずに合格率１００%を目指したい。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

基準３　教育活動（柔道整復師学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本学科は平成１７年度４月より昼間部・夜間部ともに１学年につき昼間部６０名、夜間部３０名の定員で増設され「柔道整復師施行令」および「柔道整復師学校養成施設指定規則（以下「指定規則」）に基づき教育活動を行っている。 接骨院や病院、介護・福祉施設、トレーナーとして就業するだけではなく独立開業権をもつ。そのためカリキュラムについては、「指定規則」で規定されている教育単位数以上の内容を標準単位として取得させる必要性があり、法令遵守のみならず柔道整復師としての倫理観や社会規範などを念頭におき構築されている。 また、社会の変化に合わせた本学科独自の認定授業を設けており、患者に対してより多角的なアプローチを提供できるよう教育を提供している。柔道整復師を育成すべく教育レベルの日々向上を目指している。	職業人教育を通じ社会へ貢献するという滋慶グループの理念を実施すべく、在学中に職業人としての意識付けを行うために段階的にキャリア教育を導入している。 業界代表となる大阪府柔道整復師協会とは学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会・療養費の授業などを実施頂き良好な関係性を築いている。また業界の発展に寄与するべく協会との情報共有に努めている。 初年度教育の一環として大手グループ院との提携によるアーリー・エクスポージャーを実施しており、学習意欲の向上や職業観の育成に役立てている。大阪大手グループ８院と提携しており今後は介護業界との繋がりを強固なものにしたいと考えている。 同様に上級生に対しては企業セミナーや特別授業を通じてより身近な形で職業観の育成を育んでいる。業界との良好な関係を築くことにより学生にとって有利な就職環境を作っている。 学校独自の特色を出すためボディメイク講座（身体のトータルケア）を実施する事で柔道整復師の業のみならず健康指導サポートが実施できる学生の育成を目指している。 夜間部入学者を増加させるためオンデマンド授業などを取り入れている。 柔道整復学を中核とし、基礎科目や臨床科目また職業への理解や倫理、その他それぞれの教育活動につながりを持たせ、学生の 3 年間を見通した系統的、学校教育を実施している。 １年生時より社会的・職業的自立に向けて必要な能力を身に着けるために教育している。３年間の臨床実習を系統的また継続的に実施しており、それぞれの関係が整理されている。また臨床に関わる教育が 1 年生から 3 年生までの間に発展的に進められるよう構成されている。 ICT ツールや DX を活用し駆使し最新の教育方法に対応すべく日々邁進している

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-10-1　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	業界ニーズを把握しつつ、臨床者として必要となる人間力の強化に主眼を置き、柔道整復師の業務範囲を逸脱することのないように、基本的な知識、技術を習得させるように努力が必要と考える。 人間力については特にコミュニケーション能力が人と関わる上では最重要事項であると認識しており、それが即戦力としての強みになると考えている。	入学前よりコミュニケーションの重要性を周知させており、入学後すぐの学内オリエンテーションや学外オリエンテーションを通じ、学生自身が積極的に行動するような仕組みを作っている。また自己点検自己評価により業界ニーズの聴き取りも実施している。	年々コミュニケーション能力が低い学生が増加しており原因も多様化が進んでいる。従来通りの一辺倒な対応では通用しなくなっている。この業界はまずコミュニケーションありきなので学科 MT・学年 MT などで教員が周知し問題のある学生を全体で共有し解決策を練るべきである。	学生便覧 教育課程編成委員会議事録 学科ミーティング議事録 個別面談表 教務システム内学生コメント

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
医療従事者に必要なキャリア教育は充実しており、それらは社会人として十二分に通用するものとなっている。これらを基盤とした人材であれば、現在も今後も業界の幅広いニーズに応えられるものとなると考えている。	学生のほとんどが高校卒業後すぐに入学するため、比較的イベントなどにも積極的に参加する学生が多くみられる。初年度の意識付けとして日本ストレッチング協会セルフ資格（JSA-CSTS）の任意講習会を実施している。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-11-2　各学科の教育目標、育成人材像を達成する知識、技術、人間性等は、業界が求めるレベルに適合しているか、また、レベルに到達することが可能な修業年限となっているか	国家資格取得が業界に入るための最低限の知識レベルである。また患者とコミュニケーションをとる、愛護的に接することができるものが最低限業界人としてのレベルと考える。学内での教育は学生が上記知識を獲得し、モチベーション高く業界へ参加することを目的とさせる。 偏った知識や技術をカリキュラム内で教えるべきではないと考える。	新年度が始まる際に各学年における到達目標・数字基準を明確に伝え、また規約として提示している。 カリキュラム内のみで業界の求める即戦力の人材育成は難しい業界セミナーや勉強会を積極的に学生にも発信している	知識に対する学生へのフォロー体制は整っている。がそれだけでは今後充分に対応できない。未然に防ぐためにも問題学生の早期抽出・早期発見による対応が必要である。 各学生の特性を教員が細かく把握する必要性がある。 業界の求める技術と学校教育で育成する技術はあまり合致していない。業界が求める技術は学校内で教育すべきでないと考える。その部分はセミナー等の任意の部分で享受すべきであると考える	教科指導案 内規 シラバス オリエンテーション資料 学科 MT 議事録 業界セミナー参加者名簿

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
３年間という限られた時間の中で段階的な到達目標、評価基準、必要な知識、技能などを学生には明確にし、設定されたハードルをクリアするイメージが持ちやすい工夫がなされている。	正規の学校授業だけでは業界の求める新入職者像とは差違がみられる。そのためセミナー及び同窓会活動を通じ教育内容以外の実技などを実施している。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-12-3　学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	３年間のカリキュラムは入学前から卒業後までを俯瞰的且つ論理的に編成、展開される。	学生便覧や内規により明示され、入学する前から目標達成のイメージが出来るようになっている。また入学後はオリエンテーション資料などを使い学年毎に周知させている。	目標達成により近づくためにカリキュラムの拡充を行い、より密度の高いものへの完成を目指す。	学生便覧 内規 オリエンテーション資料
3-12-4　カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	柔道整復師業界のみならず他の養成施設との意見交換、交流を図るのはもちろんのこと、他資格業界との交流を十分に行う。	滋慶学園グループ内での柔道整復チーム分科会、公益社団法人大阪府柔道整復師会との意見交換、交流が行われている。	第三者評価機関などからの意見聴取や、業界からの意見聴取の機会をさらに増やし、学内教育活動へのフィードバックを行う。	医療分科会議事録 教育課程編成委員会議事録
3-12-5　カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	学科責任者を中心としカリキュラムについての構築を図っている。	講師との定期的な講師会議、学科教員全員によるシラバス、カリキュラム作成がなされている。	滋慶教育科学研究所からの意見聴取などを行い、シラバス、カリキュラム作成委員会の拡充を行う。	シラバス 講師会議資料
3-12-6　カリキュラムを定期的に見直しているか	日頃より業界のニーズや柔道整復師としての役割を考察し社会の変化に合わせたカリキュラムを展開すべきである。	カリキュラムによる教育成果を年度ごとに勘案、見直しを行っており、年々成果が上がっている。	前カリキュラム変更となったことで学生・講師からの聞き取りを実施し、微調整を随時実施する。	シラバス 教務日誌

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
カリキュラムの編成については、国家資格取得だけを主眼とするのではなく、業界のニーズ、社会的なニーズ、人間としてのニーズなど、キャリア教育的な観点もできるだけ取り入れつつ体系的な組み立てがなされている。	学生の動向に合わせた細やかな見直しにより学生に分かりやすい授業形態を享受している。

最終更新日付	2026年　6月　12日	記載責任者	岩崎　英明

3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-13-7　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	各科目は3年間のカリキュラム内で適正な位置づけをされており、学生には教育指導要領で明確に提示する。	概ね適正に位置づけされ、且つ明確に学生便覧に記載されている。	柔道整復師の業務範囲の拡大の基礎を固めるために、より適正なカリキュラム、科目設定を行う。	教育指導要領 学生便覧
3-13-8　各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	各科目の目標、評価基準、指導内容、方法などを記載したシラバスを作成、明示する。	開講初日までに全てを回収し管理している。	学科の意向に沿って頂けるよう非常勤とのやり取りを大事にしている。	シラバス
3-13-9　各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	授業依頼の段階で授業内での齟齬が出ないようコマシラバスを作成し、開講初日までにはシラバスを回収し内容を共有している。	年度ごと到達目標にそったシラバスが作成されている。	多少のずれの生じる場合が存在する。が概ねシラバス通りに進行している。また教務日誌を活用している。	シラバス 教務日誌

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
柔道整復師として必要な知識、技術を、本校独自の教育システムである ＰＩＢＡＰをもとに適正な位置づけを行い、具体的かつ論理的に展開されている。	滋慶学園グループ共通の教育システムを利用している。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-14-10　キャリア教育が行われているか	本学科では人間力強化に主眼を置いており、キャリア教育をカリキュラムの主軸とし展開している。	滋慶教育科学研究所主催のキャリア教育研修を全ての教職員が受けており、それを基にキャリア教育を実践している。	各学年に応じたキャリア教育を構築している。但し定期的にその時代にあったアップデートは必要と考える。	滋慶学園キャリアロードマップ
3-14-11　キャリア教育の実効性は検証されているか	業界または卒業生からのアンケートにてキャリア教育に不足しているものやもっと伸ばすものを聴取し反映させる。	入学前からキャリア教育を中心に指導を行っている。在学中の実効性は３年次に行われる認定実技試験などにより確認を行い、卒業後はキャリアセンターを中心とした業界評価での検証を行っている。	自立性や自主性に関して教員の望むレベルに達していない。更なる工夫を構築すべきである。	特になし。

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本学科ではキャリア教育の必要性を開校当初より認識しており、授業のみならず学校生活の中でも教育、指導が行われる体制が整っている。	滋慶学園キャリアロードマップを基にして、学校イベントなどの行事に対しても、学生にどの様なキャリア教育を実践できるか考えテーマを決定し実施している。

最終更新日付	2026年　6月　12日	記載責任者	岩崎　英明

3-15　授業評価の実施･評価体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-15-12　学生による授業評価を実施しているか	授業評価を振り返ることでよりよい授業を実践する。	学生アンケート実施の結果を教員にフィードバックし、学科発信のFD 研修により内容改善を図っている。学生満足度アンケート実施 学生面談時の情報収集	満足のできる授業実施は簡単である。情報を共有し学生に寄り添ったものであれば良いわけである。更に一歩進み自ら授業を受けたいと思う仕組みが必要。	学生満足度アンケート 卒業後アンケート
3-15-13　授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握･評価する体制があるか	教授方法のマニュアルはなく各教員のスキルで実施している。但し授業評価を実施し教員へフィードバックすべきである。	学生アンケート実施により評価の良くないものに関してのフィードバック 学生アンケート実施 ＦＤ研修の実施 学生面談時の情報収集	学生満足度アンケートの結果提示について今後は非常勤講師とも共有すべきである	教務日誌 学生アンケート ＦＤ研修報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
授業評価はより良い教育内容にするために必要な要素であり、アンケートや学生からの聞き取り、聴取などを積極的に行い、スピーディに授業に還元がなされる体制を整えている。	近年授業評価であまり悪い結果はでない。授業がレベルアップしたのか？学生の満足度に関する意識が変わったのか？気になるところである

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-14　学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件(専門性・人間性・教授力・必要資格等)を備えた教員を確保しているか	指定規則の基準を満たすのは当然のことであるが、育成目標を達成できるための素養、要件を各教員は備えるべく努力し、当校の学生に対する考え方また業務に対する考え方を理解する教員を確保すべきである。	採用時には学校責任者、学科長により履歴書の他、面接、面談などを実施し採用決定し、ＦＤを実践している。	育成目標に向けた授業を行える教員は増えてきている。が教員には＋αの力が必要であると考える。	教員資格に関する書類 履歴書
3-16-15　教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	臨床現場で実戦経験を積んだ教員を採用しており、業界レベルには対応出来ているが、現場を離れた後でも最先端の知識、技術を得るために努力すべきである。	臨床現場に携わる教員の採用および臨床の継続を推奨している。	本年度より外部へ勉強に出る教員が増えてきている。	教員履歴書
3-16-16　教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	専門性を各科目で照らし合わせ、教員が持つ専門性を見極めた上で各科目にフィードバックするようにする。	各教員の授業内容、試験内容、実技審査員としての技量などを基準化して評価している。	人事考課シートでしか把握していない。	学生アンケート FD 研修資料
3-16-17　教員の専門性を向上させる研修を行っているか	教員自身の付加価値を上げるためにも専門性の向上は必須と考える。各教員ができるだけ特化した専門性を持つべきと考える。	外部機関の教育活動、セミナーや研修などへの参加を積極的に奨励し、学校からも各教員年 2 ヵ所まで研修に参加できるよう通達を受けている。	3-16-15 の記載通り専門性を向上させるべく外部へ勉強に行く教員が増えてきている。が予算として計上されないため尻つぼみ的である。	学科研修予算 研修実績計画 研修報告書

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-18　教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	教授力は伝達力が重要であり、教員はスピーカーとしてのスキルの向上を目指さすべきである。	FD 研修の実施。 学生満足度アンケートの実施 またそれらのフィードバックを実施している。	研修のフィードバックのみでスキルの向上を図ることは難しい。取組む姿勢に関する研修などを追加することが望ましい。	学生満足度アンケート FD 研修資料
3-16-19　教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	教員、非常勤との間で聴講制度を設け、尚且つ学内の複数のスキルアップ研修を行う。	FD 研修の実施。	ある程度成熟してきているが更なる研鑽を進めるべきである	FD 研修資料
3-16-20　教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	学科内でシラバス、カリキュラム委員会を設置し、非常勤講師とも定期的に会議を行い、教員間、非常勤講師とも情報共有を行う。	定期的な講師会議のみならず日頃の授業前後にも積極的に学生の状況、授業の進行具合、非常勤の考えを把握できるように努めている。	日頃からのコミュニケーションや問題意識を共有することで学校、学科の考えを非常勤講師とも共有できている。問題のある講師については責任者と話し合いの場を設けている。	教務日誌 講師会議資料
3-16-21　非常勤講師間で適切に協業しているか	学科教員としっかり連携をとり滋慶の考え方を非常勤講師と共有し理解した上で学生教育に反映して頂くことが重要と考える	専門科目担当の非常勤講師間での教授内容の差異が無いように、十分にカリキュラム会議が開催されている。尚且つ毎授業ごとの教務日誌を全ての講師が閲覧出来るようになっており、教授内容の相互把握は十分である。	講師会議も年1回となったため日頃からコミュニケーションを通じて非常勤との連携を深めるべきである。	教務日誌 会議資料

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-16-22　非常勤講師の採用基準は明確か	柔道整復師学科教員のコンプライアンスは非常に重要である。まずは教授資格を取得しているかを明確に知る必要がある。資格や適正のほか、経歴、経験を参照とする。	履歴書、面接、模擬授業などにより採用を判断する。	柔道整復師学科にとって非常勤講師の採用基準（コンプライアンス）はアで記載通りかなり重要である。過去には罰則を受けた学校もある。責任者の元、コンプライアンスに準じた講師の獲得に努めるべく努力している。	教員資格に関する書類および履歴書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
全ての教員、講師が知識、技術などを教授出来るための素養を備えるべきであり、そのためには教員間、講師間での研鑽は必要であると考える。本学科では教員同士、教員と講師との間で積極的に聴講、研修会などを行っており、常に教育力強化のための取り組みを行っている。	年 2 回の講師会議、新人非常勤講師に対して実施される研修等により学校・学科でのルールや学生指導についてご協力頂けるよう積極的にアプローチしている。 また日頃からコミュニケーションを欠かさず学生情報の共有や教育方法についてお互い切磋琢磨できる環境作りに励んでいる。またそのことが学校の強みになると考える

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

3-17　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-17-23　成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	学生便覧、内規、教科指導案実技試験要項などに明確に記載し、教員、講師、学生にも周知する。	各学年において毎年ガイダンスを行っている。前後期とも第 1 回授業時に講師ごとに成績基準を学生に提示している。	学校学科が考える意図に沿って教員・非常勤とも評価を統一させている。	学生便覧 内規 教科指導案
3-17-24　他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	一般教養科目については単位互換を認めるべきであるが、その他医療に関する単位互換は専門的な科目で有り困難である。	認定基準は学科ごとに決められており、認定の可否は単位認定委員会により判断される。	基準も明確で、判断も単位認定委員会が行っており、問題なく運用されている。	単位認定に関する運用細則 単位認定会議議事録

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価、単位認定、互換についても明確な規定を元に運用されており、教員、学生ともにほぼ周知されている。試験評価についても学校の意見を主として進めている。	特になし。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

3-18　資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-18-25　目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	資格取得を目標とするだけでなく、臨床現場で即戦力となる知識、技術、倫理観なども習得できるカリキュラムである。	カリキュラムは指定規則以上の単位数を設定している。資格取得を目標とするだけでなく即戦力としての仕掛けとしてコミュニケーション・自発的に行動すべくキャリア教育を行う。	「指定規則」で規定されるものだけでなく、卒業後も臨床現場で通用する知識、技術を享受すべく、カリキュラムの検討を行っていくべきである。	学生便覧
3-18-26　目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	3 年間の学校課程内において資格取得が達成できる教育内容が提供されるべきである。	3 年間が俯瞰的、論理的にスケジューリングされており、各期間でクリアすべきハードル設定も明らかにしている。	カリキュラムだけでは全ての学生が資格取得を行うことが難しいため、別途成績不良者に対しての補習を実施している	学生便覧 学内オリエンテーション資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本学科で取得するものは国家資格であり、３年間のカリキュラムの中で教育活動が十分に展開されている。	更に成績不良者の早期発見により細やかなフォローを更に充実させる必要がある。正規カリキュラムのみでの教育は成り立たずこまめな各学生個人に合わせたフォローアップが必要となる。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

基準４　教育成果（歯科技工士学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育成果を計る指標は国家試験の合格率である。次に専門職としての就職率である。その目標達成のために学校満足度の向上は不可欠である。学生が何を望み、何に不安を感じ、それらを理解し、学生の目標達成のために学校は努力していかなければならない。 さらに、学校満足度アンケートだけでなく、日々の会話や定期的な個人面談による心の状態把握をすることが重要である。志半ばで夢をあきらめることないよう学習的指導と生活的指導を行っていかなければならない。 また学外における卒業生の活躍は、以前は学校に申告があったものが中心になっていたが、従来の同窓会行事が再開となった。今後は定期的に学術(講演会や勉強会)や福祉(レクリエーションや懇親会)などの対面イベントを通して情報の収集や蓄積、および情報共有を進めていきたい。 建学の理念に実学教育を掲げていることから、卒業後の進路を想定して手厚い指導が必要である。近年、業界の様相が従来のアナログ技工からデジタル技工に変化していることから、先端技術に興味をもち、習得した技術を将来活かしたいという学生も増えてきている。なお、デジタル機器が進化して、いかなる状況になろうとも、歯科技工士による作業、操作が全くなくなるわけではないので、今後も手作業によるアナログ技術の研鑽を継続し、国家資格取得はもちろんのこと、手作り(手作業)に苦手意識を持つ学生に対する技術指導も従来どおり粘り強く行っていきたい。	毎年在学生対象に実施されるキャリアサポートアンケートの回答内容、分析結果をもとに個人面談を行い、教育指導に役立てている。座学や実習の習熟度の把握に利用している。継続していきたい。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-19-1　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	就職率 100%を目標とする。	在学中、キャリアセンターと連絡を密にしながら就職完了まで取り組んでいる。	個人面談を中心に本人、保護者の理解を得ながら就職活動を進めていく。	就職関係資料
4-19-2　就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	キャリアセンター、同窓会と協力し就職成果とその推移に関する情報を把握する。	年度報告資料を作成することにより、具体的な件数は掌握できている。	就職後の早期離職者の把握に同窓会組織の協力を得ている。	就職関係資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職の情報は掲示板で連絡、就職説明会の実施、キャリアセンターの設置など、就職には力を入れている。早期の就職活動、内定獲得も比較的うまくいっているように思われる。やはり、質のいい就職先の確保が課題となる。また、毎年ここの卒業生を採用したいと思われる状況をつくっていきたい。	コロナ禍の影響もあり、一時的に SNS を利用した企業説明会や求人活動を行う就職先が増加していたが、従来の対面形式に戻ってきており、卒業生からの情報にも柔軟に対応出来ている。今後も卒業生の満足度を把握するためも、卒業後の情報収集が円滑に行えるよう同窓会と連携していきたい。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

4-20　資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-20-3　資格取得率の向上が図られているか	国家試験の全員受験・全員合格を目指す。	受験者全員の合格をだすことができている。	特記なし。	国家試験受験資料
4-20-4　資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	在校生のみならず、卒業生の資格取得者数とその推移を把握する。	卒業時には把握できている。	同窓会、キャリアセンターと連絡を密にしている。	同窓会資料 キャリアセンター資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国家試験合格率は、高水準を維持することができているが、全員合格が不可欠である。今後、中学・高校において、習慣的な学習や定期試験に向けての計画的な勉強の経験が少ない学生が入学し、国家試験取得を目指していく。修学するモチベーションや集中力の低下を起こさないよう、講義・実習授業の環境づくりと前向きに取組める授業の継続を目指したい。	修得した技術・知識を活かして就職し業務に従事するには、歯科技工士国家資格の取得が前提である。学習を継続しながら、就職活動に取り組めるよう、就職実績のある企業を中心に、教員とキャリアセンターが連携して、現場訪問を行ったり、最高学年対象の企業説明会を継続開催することで、早期就職決定に繋げていく。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	大石　直之

4-21　退学率の低減が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-21-5　退学率の低減が図られているか	教職員が認識し、進路の変更や経済的理由などやむを得ない退学は別として、当該本人と面談を重ね、退学率の低減を図る。	担任を中心に教職員が該当学生と面談をし、さらに保護者と連絡を密に取っている。必要であればスチューデントサービスセンターを紹介する。	精神的問題、学力不足が退学理由になることが多い。魅力ある授業を継続して行うとともに個人面談を定期的に行う。	個人面談資料 サポートアンケート結果
4-21-6　入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	入退学者数とその推移に関する情報について把握する。	学科会議を通して共有、把握ができている。	学生の内面的な情報の把握には限界がある。信頼関係の構築が求められる。	学科会議におけるクラス状況報告

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学者を減らす手段は学力の低い学生に対する補習や学習サポート授業や個人指導である。補習やカウンセリング、さらに個人面談などを活用して DO 率をさげていきたい。特に 1 年次の夏休み等の長期休暇前後で学生が悩むことが多いので、登校日を設け、状況把握に努めることで学生からの目的意識の低下などのサイン(兆候)を見逃さないよう心がけている。	今後も、入学前から抱える精神疾患やメンタルの弱さからくるモチベーションの低下で退学に傾向することも予想される。過去の経験や教員間の情報共有を行うことで、在学生の就学をサポートしていく。 学生が個人的に利用できる滋慶グループ SSC の紹介も継続し、必要なケースでは連携しながら対応している。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

4-22　卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-22-7　卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	在校生のみならず卒業生が業界でいかに活躍しているかの評価を把握する。	卒業生についての社会的活躍は本人の自己申告によるところが大きく、把握しきれないことがある。	業界での活躍など把握できるシステムを構築していきたい。ZOOM 等の遠隔システム活用の継続	同窓会資料
4-22-8　卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	業界や社会で活躍できる人材を育成していく。	業界では歯科技工士会や歯科技工学会の役員など活躍する卒業生がでてきている。	特記なし。	同窓会資料
4-22-9　在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	学術的な発表をおこなう学生・卒業生を輩出する。	日本歯科技工学会学術大会でポスター発表、学生彫刻コンテストに参加し、評価を得ている。	特記なし。	日本歯科技工学会ＨＰ 日本歯科技工学会誌
4-22-10　在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	在校生・卒業生が外部で評価されうる人材を育成する。	近畿歯科技工サミットで在校生による歯の彫刻コンテストで最優秀賞を受賞した。	今後優れた人材を輩出できる体制を整えていきたい。	大歯技広報、日本歯技等の業界誌

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
在校生においては、課題研究などをカリキュラムに組み込むことにより、学会関連イベントへの参加や学生彫刻コンテストへのエントリーはコンスタントに行い評価されている。卒業生においては、技工学会等で活躍するのもが少ないが、今後も業界をリードできる人材の輩出を目指していきたい。	在校生においては、従来から学会での研究発表やテクニカルコンテスト参加への環境はあり、サポートは継続している。 コンテストサークルの始動を足掛かりに、学生が参加可能な学外コンテストへのエントリーも予定している。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

基準４　教育成果（救急救命士学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育成果を計る指標は国家試験の合格率である。次に専門職としての就職率である。その目標達成のために学校満足度の向上は不可欠である。学生が何を望み、何に不安を感じているか、それらを理解し、学生の目標達成のために学校は努力していかなければならない。 さらに、学校満足度アンケートだけでなく、日々のカウンセリングにより心の状態を把握することが重要である。志半ばで夢をあきらめることないよう学習的指導と生活的指導を行っていかなければならない。 また学外における在校生・卒業生の活躍は、現段階では学校へ申告があったもののみの把握となっている。今後、同窓会 WEB などを活用して双方向の情報のやり取りができるシステムを構築していきたい。 学科では前年度までに 24 期の卒業生を送り出しているが、国家試験の合格者は卒業時 2327 名、全卒業生(2602 名)に対しては 90.1%の合格率となる。 在学中に十分に教育の成果が出るように教育してはいるものの、さらに検証し在学中の習熟度の個人差をなくす様努力したい。 次に重要なのは就職率であろうが、前年度までの資格を生かした就職(自治体消防)は 1610 名で 62.0%にとどまっている。これに他の公務員(自衛隊・警察官など)と民間の就職先も含めると 75%となっている。資格の特殊性から法による規制などもあり、民間で働くには制約が多いのが現状である。ところが、特に消防職は定数に基づいて求人がなされる為、学生の希望と就職先の求人数に乖離があること、また受験日が統一化されている地域が多いために受験出来る自治体が限られてしまうことなどの問題がある。それにより、ある一定の受験日に集中するため高倍率となり就職が困難な状況となっている。 今後はよりいっそう民間就職先の開拓を含め、キャリア教育の更なる充実にも努力を継続したい。	H18,19年度までは団塊の世代の大量退職に対する前倒し採用で消防機関の求人数も多く比例して就職率も高く保てていたが、以降年々退職者の減少に伴い採用人数は減少している。 近年、女性吏員の雇用推進があり、各自治体で女性消防士の認知度向上と採用試験受験者拡充の為の説明会やインターンシップの導入など一般の企業同様雇用促進のための工夫がなされている。 国家資格取得と自治体消防の採用試験との両立で最終学年を迎える当学科ではどちらも重要だが、成果の上がる教育へ向け、更なる努力が必要である。 救急救命士法第 44 項第 2 項により働く場が特定されてしまっていたが、2021.10 改正され病院・診療所などで傷病者が入院するまでの間に携われるようになった。これにより院内救命士の求人が増えている。院内で働く救急救命士のためのカリキュラムの検討を行う必要がある。 院内でのタスクシフト/シェアを推進し、医師の負担を軽減しつつ、医療関係職種がより専門性を活かせるよう、各職種の業務範囲の拡大等が期待される。 国家試験合格率や就職率、専門就職率の推移を定量的に把握し、教育改善に活かしている。消防機関だけでなく医療機関や民間企業への就職実績も公表し、職域拡大の成果を反映する体制を整えている。模擬試験やポートフォリオ評価など多面的な評価を導入し、その結果を講師会議で共有して教育改善に結びつけている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-19-1　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	消防では資格を活かして働ける就職先の求人が減少している(救命士枠)がキャリア教育の充実を図り就職率の向上に努力する。	学科で行っていたキャリア教育をキャリアセンター(事務局)と協力しながら対策に取り組んでいる。 合同就職説明会を実施した。 今年度は 41 機関の消防・民間 10 施設が参加した。引き続き Web 上での説明会など工夫しての実施となった。	・データの可視化 ・指導の標準化 ・卒業生との情報共有化に努める。(OG・OB ガイダンス) ・文章力、自己表現力を向上させるためのキャリア教育を授業に取り入れて全員が均等に意識と教養を高めていく。	就職に関する面談結果 保護者説明会資料 合同就職説明会資料 就職ガイダンス資料
4-19-2　就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	自治体消防受験日の把握、求人数の推移、求める人材などは消防訪問を実施している。民間については、今後も資格への理解を深める努力を怠らず、開拓を進めていく。	就職面談、就職に関する保護者説明会を実施し、就職実績や情報を掲示している。 民間の就職先への訪問などを通して求人の確保に取り組んでいる。民間の求人は増えている。また希望者も年々増加している。	消防訪問(来校も含めて)を実施し年々関係の良好化に努められている。 結果は在校生・卒業生を含めて情報を共有し、有効に指導に生かせている。 卒業生有資格者に同窓会 HP などで情報の共有を行い就職率 UP につなげる。	全国自治体消防訪問結果報告書 民間就職求人情報

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
専門性を活かせる就職先が公的機関（消防）である場合が多い。自治体単位での試験遂行のため、就職試験の多様化・複雑性があり、対策を立てる上での困難がある。これについては対策教員との情報共有に努めている。卒業生を含めて少しずつ希望職種に就職できるように指導できている。 今後は知力・体力・精神力共に更なる向上が得られるよう努力を要する。 就職説明会、および来校いただける消防などとの関係性を良好に保ち指導に役立てており就職率も 60%以上を維持できている。	消防の求人は退職者の補填であり年によって倍率も異なる。消防訪問を継続して実施し情報の共有に努めている。また、訪問時卒業生就職の実績がある消防においては卒業生面談と上司面談をお願いし、教育についても業界の意見を反映し質の高い教育ができるようにしていく。 (准救急隊員、新しい就職先への実績に繋げる努力をしている) ・民間の就職先についても、こちらの働きかけに応じて徐々に認知度も上がり正規雇用に繋がっている。関係機関と良好な信頼関係を保ち、よい学生を就職させることで次の求人に繋がる努力をしている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

4-20　資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-20-3　資格取得率の向上が図られているか	目標は100%国家試験合格である。 出題基準をふまえた模試出題数、傾向の変更に対して柔軟に対応する。	国家試験対策-事業計画に沿って必修問題対策に力を入れている。 国家試験振り返りの会議を行い、補習の早期化、参加率の向上に努めて合格率の向上に繋がった。少人数学習への取り組みを始めた。国家試験 10 日前から遠隔授業が中心となった。また環境を利用して(ブレイクアウトルームや様々なアプリを工夫) グループ学習やスチューデントティーチャー制度を確立できた。専任教員のレベルアップも図れている。 国家試験対策センター、JESC チーム会とも情報を共有し、適正な卒業判定が行えている。 新出題基準(R7)に基づいた模擬試験の作成を行っている。	国家試験合格率は 24 期生の合計平均が 98.1%である。 昼間部は 1 名の不合格者、夜間部においても 1 名の不合格を出した。3 年進級者がすべて卒業できるよう、また昼夜 100%達成に向けて更なる努力が必要である。 2 年生終了までに国家試験合格レベルに到達できるように各学年補習を行っている。1,2 年国家試験対策模擬試験全 6 回実施し担任による振り返りをしている。 就職試験の準備期間中も常に専門科目への意識付けを行う。	国家試験対策事業計画 国家試験合格率の推移 国家試験対策センター分析資料 令和 2 年度版出題基準
4-20-4　資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	在校生、卒業生を含めて正確に把握できている。	卒業生については毎年アンケート調査を行い把握に努めている。来校型・郵送対応型に分けて個別に細やかな対応が出来ている。	在校生、卒業生の国家試験対策について個々の教員のレベルアップと人員の確保が急務である。来校できない卒業生の合格率が低い。	既卒国家試験対策計画

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
3 年進級者が全員国家試験に合格できるよう専任・講師を含めてさらに努力を要する。学生においても低学力の学生への対策にマンパワーが吸収されているので人員の確保を含め、StudentTeacher 制度など他校との情報交換を密にし、継続していく必要がある。	学力低迷者が 3 年の前期中、就職試験に比重をおいている間の専門知識の継続学習が困難となりがちである。低迷者は、常に専門科目の学習に着目させる。専門科目成績不振者は保護者理解のもと専門職採用の受験を制限する。 1,2 年の国家試験対策模擬試験の回数も増やし、補習や学習習慣の定着、動機付け対策を工夫している。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

4-21　退学率の低減が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-21-5　退学率の低減が図られているか	担任の面談、SSC の活用、進路変更委員会の活用を積極的に実施し早期段階で学生へ働きかける。	コミュニケーションを円滑にし、早期の問題抽出と対策を立てる。本人の希望でない進学に基づくモチベーションの低下、他学生への影響がある。 進級判定会議で多数科目を救済し進級した学生のモチベーションの維持が困難である。 目標の 3%以内を目指してさらに細やかなサポートを続行していく卒業判定の基準を厳しくしたことで 3 年での留年が増えた。結果、国家試験の合格率は上がったが退学率も上がってしまった。	クラス運営を健全にし、学生全体のモチベーションの維持に努める。 キャリアサポートアンケートを参考に早期面談の実施で課題抽出が出来ている。課題の早期発見と情報共有、必要があれば専門機関への依頼を考慮する。保護者と密な連絡をとる。 常に相談できる担任体制をとり効果を発揮している。 1 年 DO が多いことから入学前にプレスクールでの目的意識の再確認など工夫を継続することが重要である。 3 年進級者の早期底上げ、就職対策の比重を調整して留年者を減らす努力を継続する。	学生面談記録 学科ミィーティング議事録 キャリアサポートアンケート結果 「学習能力チェック」プログラム　2021 年度実施要項 「学習能力チェック」プログラム結果 国家試験対策模試結果
4-21-6　入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	毎月のクラス運営報告で状況は正確に把握できている。	退学、進路変更に関する面談は担任だけでなく学科長・副学科長が必ず同席し改善に努めている。	在学中に自治体消防や警察・自衛隊などに入職しての退学や学費未払い問題などの学科教員の努力では改善できない退学が含まれている。事務局との情報共有に努める。	クラス運営状況報告

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
経済的理由や早期就職の後、休学して復学が困難な地方の学生も退学に含まれるため、事業計画では 3.0%を目標にしているが、年々学生の就学意識の低迷(ただなんとなく入学)や基礎学力の低迷、経済的な問題などが増えてきている。奨学金やカウンセラー(SSC)の活用、担任の努力で改善できる範囲を超えるものが多くなってきている。教員の努力で防げるものに関しては、さらに魅力的な学科作りを行い改善していく。	入学試験の一部に学科の意見を反映させた問題の導入。OC の複数回参加を促し、入学前に意欲の確認を行う。 入学内定者に早期よりプレスクールを実施し資格に対しての意識付けを行う。 入学後、早期に定時面談を行い問題の早期認識および対応に努める。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

4-22　卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-22-7　卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	就職した学生の離職率は微増している。消防訪問などを通して把握している。	担任を通しての卒業生の状況把握。 消防・病院・民間共に連絡が出来る環境があり情報の共有は図れている。	卒業生の職場で問題が学校に相談があった時は可能な限り元担任と就職責任者の協力体制で離職が回避できるよう努力している。	消防訪問報告書 消防就職実績 就職数字
4-22-8　卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	生涯学習し続け、指導的立場になる救急救命士の養成を目標とする。	卒業生が増えるにつれ経験が増し、認定救命士や隊長、指導救命士としての活躍が評価されている。	さらなる卒業生との連携と業界をリードする人材の要請を目指す。ただし、公務員であるために活動には限界がある。	入学案内、募集要項 卒業生の活躍記事
4-22-9　在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	学会での卒業生発表などはまだまだ少ないが年度を重ねるうちに増えている。	同窓会組織の活発化を図る。 卒業生から依頼のある時は可能な範囲で協力体制をとる。 学会、近畿救急医学研究会等に参加して卒業生の発表の状況を把握している。	現時点では同窓会組織の活動が低迷しているが、メディカルラリーの開催を定期的にしている。、また、合同就職説明会への参加も増えていることから今後が期待できる。	TOYO メディカルラリー実施要領
4-22-10　在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	在校生に関しては学生選手権やメディカルラリーの参加を促している。卒業生に関しては学会発表などの情報を収集する。	卒業生の状況把握に努め有効な情報は在校生や広報に提供する。 卒業生の学会発表での情報や広報関連の動画を可能な範囲で使用し学生の意欲向上に役立てている。	更なる充実を検討していく。 同窓会の働きかけ。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生の活躍の現場は公務員が多いため、民間の就職先とは対応が異なるが、卒業生の情報は把握できていると思う。今後はさらに活躍できる卒業生を輩出できるよう引き続きの教育を実施していく。	消防学校での表彰、学会発表などあれば学科の実績として情報を共有している。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

基準４　教育成果（鍼灸師学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育成果を計る指標は 1 つが国家試験の合格率である。次に専門職としての就職率である。その目標達成のために学校満足度の向上は不可欠である。学生が何を望み、何に不安を感じ、それらを理解し、学生の目標達成のために養成校は努力を積み重ねていかなければならない。 さらに、学校満足度アンケートだけでなく、日々のカウンセリングにより心の状態を把握することが重要である。志半ばで夢をあきらめることないよう学習的指導と生活的指導を行っていかなければならない。 また学外における在校生・卒業生の活躍は、現段階では学校へ申告があったもののみの把握となっている。今後、同窓会 WEB などを活用して双方向の情報のやり取りができるシステムを構築していきたい。 本学科では卒業生がいかに業界で活躍できるかという課題も設定している。国家試験合格・資格取得から就職・開業、業界での活躍という一連の流れをふまえて、先を見据えた教育をおこなっていくことが重要である。在学中の 3 年間のみが成果ではないことを肝に銘じつつ教育をおこなっていかなければならない。	在学中の 3 年間、私たちは資格取得サポートと中途退学者の減少に特に力を入れています。以前は入学後 1 年目の退学が目立っていたが、昨年度は学力不足による退学者を大幅に減らすことができた。 しかし、人間関係やモチベーションの低下を理由とした退学者が見られたため、今後はレジリエンス教育を体系的に実施し、学生の精神的な回復力を強化していきたいと考えています。これにより、困難に直面しても諦めずに学び続けられる学生を育成していきます。 卒業後の生涯学習・卒後教育は、同窓会組織を中心に実施されており、大きな成果を上げている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-19-1　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	就職担当教員に加え、キャリアセンターも設置し在校生の就職、あるいは卒業生の職場の転向も含めてサポートしていく。	学科開設以来就職率 100%を継続している。それに加えて、早期の内定獲得にむけて取り組んでいる。求人も非常に多く確保できている。卒業生の就職先、あるいは経営する治療院からの求人が年々増えている。学生ポータルなどを用いて就職活動に取り組みやすいように工夫している	就職先の確保は順調だが、より質の高い就職先の確保を目指して努力・工夫していきたい。業界の流れとして就職活動の時期が変化している。今までは秋に就職説明会を実施していたが、現在は 6 月に実施している。	求人票一覧
4-19-2　就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	学生に関わるすべての教職員が、学生それぞれの就職に関わる情報・推移が閲覧できる環境を整備する。	学内のサーバーに学生の就職に関する現状・推移などの情報が保存されており、関係する教職員が閲覧できる環境にある。また、変化があると随時キャリアセンターにより更新される。	卒業後の状況に関しては卒後 1 年目・3 年目に状況を把握するため電話による聞き取り調査を行っているが卒業後年数が経過するにしたがい連絡が取りにくくなり、時間を要する。同窓会とも連携しながら状況把握を進めていきたい。	特になし。

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職の情報は掲示板で連絡、就職説明会の実施、キャリアセンターの設置など、就職には力を入れている。早期の就職活動、内定獲得も比較的うまくいっているように思われる。やはり、質のいい就職先の確保が課題となる。また、毎年本校の卒業生を採用したいと思われる状況をつくっていきたい。	職場の転向が多い業界であるため、卒業後の動向の把握が課題となる。キャリアセンターの SNS 等を活用し卒業生との繋がりをなくさぬようにしている。卒業生が利用しやすいキャリアセンターを心掛けている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

4-20　資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-20-3　資格取得率の向上が図られているか	十分対策資格取得にむけた対策をおこない、留年生をできるだけださず、全員受験・全員合格を目指す。	目標どおり、毎年留年生は最小限にとどめつつ、ほぼ 90%以上の合格率をだすことができていたが、国家試験の難易度上昇に伴い一時合格率が低下していた。近年対策も進み 90%以上の合格率をだすことができている。	最終目標は入学者全員が卒業し、全員合格することである。そのための態勢を整えていきたい。難易度が年々上がる国家試験に対応していかなければならない。	国家試験学校別合格番号一覧表
4-20-4　資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	在校生のみならず、卒業生の資格取得者数とその推移を把握する。	創設以来すべての結果を把握できている。	特に問題なし。	国家試験学校別合格番号一覧表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
安易に留年生を多くだすことによって合格率 100%を目指すのではなく、全員受験を本分としてきた。留年生を含む本当の合格率は他校と比較しても相当高いものと思われる。最終目標は入学者数＝国家試験合格者数である。今後は真の合格率 100%を目指していきたい。	他養成校の公表されている実績は、留年生の数字を含まない表面上の合格率が先行している感がある。数字だけを追い求めるあまり、学生に不利益が出ている可能性がある。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

4-21　退学率の低減が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-21-5　退学率の低減が図られているか	入学生は1人も留年生をだすことなく卒業へと導くことを目標とする。	比較的退学生の数は少ないが、それでも3年間で全体の3%ほどの学生が退学していく。一時昼間部は退学率が非常に高い状況にあったが、担任によるきめ細かいサポート、専任教員による早期補習により、以前多かった低学力による退学生は減少して 現状昼間部1年生での退学が増加している。モチベーション低下が一番の理由となっているため、1年次における卒業生イベント、治療体験などモチベーションUPのためのイベントを増やしている。	低学力を理由とする退学は減少しているが、進路変更による退学生は毎年何名かいる。職業に対する興味をもたせ、この道に進みたいと考えられるような環境を整えるのが課題である。また、近年はクラスメートとの人間関係を理由とする退学が増えている。クラスの人間関係を作っていく能力も教員は求められる。今後は学生・教員ともにレジリエンスを高める取り組みを進めていきたい。	特になし。
4-21-6　入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	入学者・退学者数とその推移を把握する。	学校全体を統括するシステムで把握できている。変化を追うことができる。	特になし。	特になし。

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学者を減らす手段でもっとも奏功したのが、学力の低い学生に対する補習授業である。全体的な退学率は低い水準を維持しているが、さらにカウンセリングや面談などを活用して退学率をさげていきたい。また、モチベーションを高く維持できるカリキュラム、あるいは行事を適切な時期におこなっていきたい。	学力不足によるモチベーションの低下は1年次に特に多くみられるが、早期からの補習授業による対応により、ここ何年かはそれによる退学者はほとんどみられていなかったが、近年基礎学力に問題のある学生が散見し、再び学力不足による退学が増加傾向にある。教員全体でサポートできる体制を現在構築中である。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	真田　浩二

4-22　卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-22-7　卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	在校生のみならず卒業生が業界でいかに活躍しているかの評価を把握する。	卒業生はもちろん在校生の社会的活躍は本人の自己申告によるところが大きく、把握しきれないことが多い。	業界での活躍など把握できるシステムを構築していきたい。また教員による学会活動や業界との連携強化が求められている。	入学案内
4-22-8　卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	業界や社会で活躍できる人材を育成していく。業界をリードできる人材を輩出する。	業界では業界団体の役員や、プロのスポーツチーム（野球・絡ビー・バレーボール）の分野などで活躍する卒業生がでてきて	卒業研究に取り組み、アカデミックな視点をもつものを、臨床家とともに育成していきたい。今後は有志のみでなく、全員が研究に取り組むカリキュラムも加えたい。	特になし。
4-22-9　在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	学術的な発表をおこなう学生・卒業生を輩出する。	研究や発表に関する講義等を増やし研究発表出来る人材の育成に取り組んでいる。学校協会学術大会に向けての学術研究および発表を進めている。	学校協会学術大会への発表だけではなくその他の学術大会学会への発表も行っていきたい。	特になし。
4-22-10　在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	在校生・卒業生が外部で評価される人材を育成する。	学校協会の学術大会への発表等取り組みを行っている。	今後も優れた人材を輩出できる態勢をとっていきたい。在学中に研究および発表をおこなえる環境を築きたい。	特になし。

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科が設立されてまだ歴史が浅いが、少しずつ活躍できる人材がでてきた。さらに今後も業界をリードできる人材を輩出していきたい。アカデミックな分野での弱さが目立つが、課題研究などをカリキュラムに組み込むことにより、在校生・卒業生の視野を広げていきたい。東洋療法学校協会への加入により、学生研究・発表の機会ができた。	業界をリードしている人材との交流の機会を設けることも養成機関がおこなうべきことであると考え、年々取り組みを深めているところである。業界の先駆者たる先生方の特別講義や卒業生による職業体験イベント「キャリアnavi」等を実施している。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	真田　浩二

基準４　教育成果（柔道整復師学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育成果を計る指標は国家試験の合格率である。次に専門職としての就職率である。その目標達成のために学校満足度の向上は不可欠である。学生が何を望み、何に不安を感じ、それらを理解し、学生の目標達成のために学校は努力していかなければならない。 さらに、学校満足度アンケートだけでなく、日々の学生と接する時間を増やすことにより個人それぞれの状態を把握することが重要である。志半ばで夢をあきらめることないよう学習的指導と生活的指導を行っていかなければならない。 また卒後教育として同窓会を通じて積極的に勉強会などを発信している。 同窓会活動が活発になってきており双方向での情報交換などが可能となっている。 学生の満足度は重要な指標であり、満足度を上げることでよりよい学校生活を過ごすことができる。さらに資格取得が最終目標ではなく、昨今厳しさを増す業界の中で、不安なく活躍する人材の育成を目指して努力を惜しまないつもりである。	国家試験合格のみならず在学中に様々な民間資格を取得させている。 そのことによりモチベーションのアップ、卒業後業界で役に立つよう構成している。 また、大手業界グループと提携し、より実践的な施術セミナーを実施することで学生のモチベーションを上げ、就職のハードルを下げることで早期就職に向けたキャリア教育も展開している。 【任意取得資格】 日本ストレッチング協会セルフストレッチング資格取得(JSA-CSTS) NSPA-CST 資格取得 【在学中目標資格】 日本ストレッチング協会パートナーストレッチング資格取得(JSA-CSTP) 認定スポーツテーピング 救急救命講習（BLS）

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

4-19　（1/1）

4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-19-1　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	専門就職率 100%だけでなく、希望する就職先への就職率を計上する。またそれが本来の就職率と考える	学生の就業意欲を高めるために教員、キャリアセンターからの指導を徹底している。 就職先確保のため定期的に業界への訪問を行っており、業界からの認知を高めるために就職説明会を定期的に実施している	就職に対して早期の意識付けがなされていない。早い段階に柔道整復師としてのやりがいやモチベーションをあげる必要性がある。そのため 2024 年度より1年生の治療所見学を実施している。	就職委員会議事録
4-19-2　就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	学科教員、キャリアセンターとの連携により、就職成果、就職状況をタイムリーに把握する	学科教員、キャリアセンターとで就職委員会を定期的に開催し、卒業生の就職先へ訪問するなど、就職成果に関する情報収集は十分である。また卒後離職者調査も行っており卒業生の状況を把握するよう努めている	追跡調査など実施しているが年がたつにつれて学校連絡がなくなっていく 今後は同窓会活動の SNS を通じ簡易に連絡が取れるよう進めていく	就職委員会議事録

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
これまでの業界の就職形態は欠員募集という形が主流であったが、本学科では開校当初より出来るだけ早く就職先からの内定を得るための就職活動をさせるという方針を取り、キャリアセンターを十分に機能させてきた。そのため就職率も高く、離職率も低い傾向がみられるようになり、開業した卒業生の院などからの求人募集も増えてきていることから磐石な体制が整いつつある	入学時に資格や仕事に対する理解度は低い。早い段階で資格取得に対するモチベーション向上を図るためアーリーエクスポ―ジャーの一環として1年生前期での治療所体験や講話を受ける機会を作っている。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

4-20　資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-20-3　資格取得率の向上が図られているか	全員が合格すべく教員全体で考え行動すべきである。また個人個人にあった教育指導方法を共有すべきである。	当校の国家試験合格率は全国平均水準レベルを常に上回っており一定以上の合格率を取れるシステムが構築されている。またグループ力を活かした独自の取組も持つ	入学時より低学力と判断できている学生対応が必要である。既卒者合格率が悪く対策が求められる。不合格時にもグループ力を生かしたシステムを更に有効活用すべきである	柔道整復研修試験財団のホームページ 滋慶柔整分科会資料
4-20-4　資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	合格者についてはもちろんその後の状況も把握している。 また卒業生についても同様である	学科内及び学校とも資格取得者について情報共有している	特に問題なし	柔道整復研修試験財団のホームページ 就職数値 同窓会開業名簿

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
近年国家試験合格率は高水準で安定している。また滋慶学園内の国家試験対策センターとの連携により前年度の反省、今後の対策を毎年行っている	グループ力を活かした対策が可能である。また当校の特徴を活かした資格取得向上の取組を実施している また学校独自の補習方法を実施する事で平均以上の合格率は保てている。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

4-21　退学率の低減が図られているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-21-5　退学率の低減が図られているか	入学者に対して全員の合格率100%を目指しており、途中退学率も0%を目指すべきである	1・2年生の間に毎年10%程の退学者がみられる。学生の状況を把握できるよう各クラス担任が声掛け、顔出しを実践している。また随時個別面談を実施している	年度により退学者数の上下が見られる。教員のマネジメント能力を高め、積極的に学生と接することにより早期発見、早期改善を目指す	教務委員会議事録 キャリアサポートアンケート 個人面談調書
4-21-6　入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	学科と事務局との連携、教務委員会の設置により、入退学者数の推移は明確に把握出来る	学科と教務委員会との連携、事務局への情報集約により、入退学者数などの情報は十分に把握されている	入退学者数などの情報は定期的な報告により把握しているが、これまで以上にオンタイムに把握出来るように体制を整えていく	教務委員会議事録 個人面談調書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学した学生が退学すること無く、全て国家試験に合格するというのが理想であり本来あるべき姿である。退学率の低下のためには一人一人の学生と、全ての教員が十分なコミュニケーションを取り、同じベクトルで卒業を目指すという姿勢が必要である。そのための具体的な取り組みとして学生面談や保護者面談などのバックアップ体制が十分に整っている	当校で学生退学の理由は大きく2点に分類される ①勉強の難しさについていけない ②定期考査での結果（成績不良） 上記2点の原因について共通するのが積極的な補習・勉強習慣へのアプローチである 各学年の年間スケジュールに基づき学生指導を実施している 2025年度より授業開始時の挨拶や身だしなみを教員がチェックする事で授業を受ける意識付けを行っている。

最終更新日付	2026年　6月　12日	記載責任者	岩崎　英明

4-22　卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-22-7　卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	卒業生・在校生の評判評価は学校のブランド力として非常に大切である。SNS などを通じ常に活動状況を把握すべきである	開業等については HP 聞き取りなどを実施している。学会等への具体的な取組はない	学生の業界に対する意識が薄いので在学中より学会・勉強会への参加を積極的に促す	特になし。
4-22-8　卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	業界でリーダーシップを発揮できる卒業生を多く輩出したいと考え、研究会・特別講演会など卒後教育にも力を注ぐ	まだ、柔道整復師学科としての卒業生が少なく業界でも新人であるため特筆すべきものは少ない	業界をリードできる卒業生の排出のため同窓会活動の活性化、また在学中に業界との一層の連携を考える必要がある	特になし。
4-22-9　在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	外部において十分通用する研究成果を発表し、業界に向けて提言、発信できる人材を育成する	学科内での課題研究発表を行っている	今後は業界での発表を行えるように制度をあげていく	課題研究発表資料
4-22-10　在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか	柔道整復研修試験財団の認定実技試験での実技力を外部の審査員に評価して頂き更なる向上を目指す。積極的に学術大会等での発表を促す	学科内のみでの評価であり外部からの評価を得るものはない	今後カリキュラムの一環として実施されるためにしっかりとした内容を構築して学術大会に向けて研究・発表準備したい	特になし。

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生の社会的な活躍は数値が出来るものではないが、業界からの評判、本学科への求人募集の増加などに反映されてくることが多い。求人募集は年々増加しており、一定の評価を得られていると考えている。学会での研究成果の発表の機会なども増えてきており、今後も益々卒業生の活躍が期待できると思われる	学会発表にあたり教員側の資質不足が上げられる。今後は学生のみならず教員のスキルをあげていく必要性がある

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

基準５　学生支援（歯科技工士学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学した学生全員が目標達成に向け頑張っていける環境作りが学生支援だと考えている。ネガティブな事案はポジティブに、ポジティブな事案はよりポジティブになるようサポートしていかなければならない。学生の学校生活全般にわたるサポートとして以下の 6 つに取り組んでいる。 ①就職サポート ②カウンセリングサポート ③学費サポート ④健康サポート ⑤課外活動サポート ⑥一人暮らしサポート 上記以外にも、学生と学校の関係だけでなく、保護者にもご理解をいただき、成績や出席状況などを共有し、保護者と学校が協力して目標達成へのバックアップ体制を構築していくことが重要である。 また卒業生へのサポートとして同窓会が中心の勉強会や、卒業生を対象とした就職転職サポートもキャリアセンターと連携して行っている。 特に、学生の学習面や就職面だけでなく、生活面でも支援していく態勢が必要である。教職員は広い視野と冷静さ、柔軟性をもって学生を見ていかなければならない。これらを個人の力量によるのではなく、学校・学科として支援できるシステムを継続して構築を目指すことが重要である。	学科内での担当者および事務局の専門部署による、学校レベルでのサポートが行われている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

5-23　就職に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-23-1　就職相談室の設置など就職支援に関する体制は整備されているか	キャリアセンターを中心に、3年生担任など就職担当教員がきめ細かく支援する。	キャリアセンターと担任が密に連携することで取り組みは有効に機能している。	特に問題はない。	キャリアセンター資料
5-23-2　就職に関する説明会を実施しているか	就職ガイダンスを実施する。	就職ガイダンスだけでなく、マナー講座なども含め、就職にいたるプロセスが実施されている。	特に問題はない。	キャリアセンター資料
5-23-3　就職に関する学生個別相談を実施しているか	キャリアセンターを中心に、3年生担任など就職担当教員が学生個別相談をおこなう。	キャリアセンター室での相談・担任への相談など、多重構造で対応しており、学生は気軽に相談できる。	特に問題はない。	キャリアセンター資料
5-23-4　就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	就職ガイダンスによりキャリアセンターが指導する。	就職に関係する広い情報を提供し、はじめて就職する学生の支援態勢ができている。	特に問題はない。	キャリアセンター資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科内の就職担当者とキャリアセンターが協力して就職に関する細やかな指導ができている。	キャリアセンター、教務、同窓会組織の連携と情報の共有が必要である。 また、臨床で活躍する OB、OG から現場の話しなど在校生への情報提供を通じて在校生のモチベーション向上にも取り組んでいきたい。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

5-24　学生相談に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-24-5　学生相談室の設置など学生相談に関する体制は整備されているか	担任が定期的な個別面談をおこなっているほか、カウンセラーが常駐するスチューデントサービスセンター(SSC)を紹介している。	担任を中心に面談時に問題がないか学生に確認するほか、スチューデントサービスセンターが機能している。	学科会議を通して、情報を共有し、予兆の早期察知が望ましい。担任が重篤な場合はSSCに問い合わせて判断を仰ぐ。 (専任教員はカウンセリング研修を受講済である)	個人調書 面談記録
5-24-6　学生からの相談に応じる専任カウンセラーがいるか	カウンセラーが学生相談を実施する。	専門のカウンセラーが常駐するスチューデントサービスセンターが機能している。	学内には専門カウンセラーが常駐していない。教員はカウンセリングマインドをもって、面談を行う。	個人調書 面談記録
5-24-7　留学生に対する学生相談体制は整備されているか	グローバル社会に対応してゆくため留学生を受け入れることができる体制を整備する。	グループでの基準を満たした留学生を受け入れることができる体制を整備する。	受け入れ体制は今後充実していかなければいけないが、同時に慎重な適性判断と効果的な指導法の見当が必要となる。	なし

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生相談は担任を中心とする専任教員と、カウンセラーなどの専門家によるものの両面で対応していくことが望ましい。現時点で専門家による相談は制限が多いため、専任教員によるものが大半を占める。しかし問題が深刻である場合は、スチューデントサービスセンターに委ねることができる。	精神面での問題を抱える学生が増えているように思われるが、専門カウンセラーと担任の連携が必要になってくるが個人情報でもあるため相談内容については取り扱いに細心の注意が必要である。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	大石　直之

5-25　学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-25-8　奨学金制度は整備されているか	経済面に不安をかかえる学生に対しては、奨学金による支援をおこなう。	事務局にフィナンシャルアドバイザーがおり、適宜説明会をひらくなど支援できる体制をとっている。	奨学金を受給することにより学業を継続できる学生は多い。	事務局奨学金資料
5-25-9　学費の分納制度はあるか	学費を一括で納入できない学生には分納制度で対応する。	分納制度は一律でなく、個別に分納のプランをたて、無理のない範囲で支払いができる体制で支援している。	特に問題はない。	事務局学費資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
経済的な問題を抱える学生は増加傾向にあると思われる。奨学金や分納制度により学業を続けることができることも多いため、学校側が支援態勢を構築しておくべきである。本校は比較的奨学金に関する体制が充実している。	奨学金制度の内容とその手続きについての説明会は、事務局の専門スタッフが計画的に行い、事前告知等々、きめ細かい対応がなされている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

5-26　学生の健康管理を担う組織体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-26-10　定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	定期健診により学生の健康面への支援体制をもつ。	健康診断の実施はもちろん、再検査、あるいは精密検査が必要な学生には、受診を促している。	特に問題はない。	定期健診資料
5-26-11　学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	専門家の視点で学生の健康相談ができる医師・看護師等の常駐。	グループ専用のクリニックがある。	特に問題はない。	グループ専用クリニック資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
定期的な健康診断を行っているだけでなく、再診の促しやその後のフォロー、自己管理の教育を行っている。また附属整骨院や鍼灸院などもあり、学生健康相談や施術を行い、充実している。	例年最終的な再診率はかなり高く、在学中の改善・予防意識の啓蒙がなされていると思われる。協力を継続していたい。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

5-27　課外活動に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-27-12　スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援体制は整備されているか	スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援体制を充実する。	校友会主導の下、学生同士の話し合いの中で決定している。 コロナ禍により活動を休止していたが、事務局の協力を得て、一部再開されている。	関西専門学校体育連盟に加盟しているクラブの部長、監督等は対外試合などで教員の分担が大きくなり過ぎないよう検討されている。	校友会資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
課外活動への支援体制は、近年コロナ禍の影響により自粛されてきた体育系のクラブが一部再開に向けて動き出した。依然として、関西専門学校体育連盟も活動が縮小されているが、本格再開が待たれる。	クラブ活動を再開することで、試合等への参加を希望する学生の意向を汲めると同時に、学校としても活気が戻ることに期待している。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	大石　直之

5-28　学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-28-13　遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	学園の系列の学生寮をもつ。	多くの学生が当学園グループの所有する学生寮に入居し、生活している。アンケートにより学生の満足度をはかる。	特に問題はない。	入学案内

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
遠隔地出身者の占める割合は比較的高く、いつでも学生寮を斡旋できる環境にある。多くの学生が学生寮に入居、生活している。	特になし

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	大石　直之

5-29　保護者と適切に連携しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-29-14　保護者と適切に連携しているか	緊急性・重要度に応じて、保護者と密に連絡をとり、さまざまな点で連携する。	入学前には保護者説明会を開催している。入学後も必要に応じて、保護者に電話連絡、あるいは来校していただき面談をおこなっている。	特に問題はない。	教育指導要領 学生便覧

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保護者と学生自身に情報のやりとりがない場合も多く、その場合保護者は学校からの情報のみが頼りとなることもある。また、学費だけでなく国家試験時の家庭での学習など保護者の力が必要なこともあり、学校・保護者間の連絡をできるだけ密にとっていくべきである。成績・出欠状況、国試対策模擬試験結果等を保護者が閲覧できるようシステム整備を進めている。	特になし

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

5-30　卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-30-15　同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	同窓会活動を通じて生涯学習・卒後研修を充実させる。	同窓会は比較的に機能しており、年に定例の学術・講演会等の開催が予定されている。今後、在校生とOBOGの交流も図っていきたい。	同窓会のホームページを充実させ、情報の発信と収集を行う。	学生便覧（同窓会会則）
5-30-16　卒業生をフォローアップする体制が整備されているか	卒業後の職場の転向の相談・生涯学習の支援をおこなう。	職場の転向は卒業後何年たってもおこなっている。また同窓会活動を通じて、学校が情報発信の場になることにより、生涯学習の支援にも繋がっている。	同窓会のホームページを活用する。	学生便覧（同窓会会則）

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生が業界で活躍するためにも、卒業生をフォローアップしていくことは重要である。そのための同窓会活動は非常に有効に機能している。また、業界や在校生との交流も広くおこなわれており、感染終息後も予防の意識を持ちつつ催事を再開し、活発な活動をおこなっていきたいと考える。	特になし

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	大石　直之

基準５　学生支援（救急救命士学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学した学生全員が目標達成に向け頑張っていける環境作りが学生支援だと考えている。ネガティブな事案はポジティブに、ポジティブな事案はよりポジティブになるようサポートしていかなければならない。学生の学校生活全般にわたるサポートとして以下の 6 つに取り組んでいる。 ①就職サポート ②カウンセリングサポート ③学費サポート ④健康サポート ⑤課外活動サポート ⑥一人暮らしサポート 上記以外にも、学生と学校の関係だけでなく、保護者にもご理解をいただき、成績や出席状況などを共有し、保護者と学校が協力して目標達成へのバックアップ体制を構築していくことが重要である。 また卒業生へのサポートとして同窓会が中心の勉強会や、卒業生を対象とした就職転職もキャリアセンターが行っている。 さしあたっては、就職・学園生活(学業、経済、健康管理、課外実習)・生活面・保護者、卒業生との連携を継続的に行う。 担任制をとり細やかな対応をすることで多くの問題にも対応が十分なされていると評価できる。 今後はさらに他セクションとの連携を強めてシステム化し、より効率よく快適な学生生活が送れるよう支援に努めていきたい。	① キャリアセンターと専任教員で情報共有し、月 1 回の就職ミィーティングを実施している。 ② キャリアサポートアンケートを毎年 1 回実施し、面談に活用している。結果については学科内で共有し、クラス運営に役立てている。スクールカウンセラー(SSC)の活用についても専門委員がおり、勉強会や本人の希望に基づく援助が効果的に実施されている。 ③ 奨学金担当職員を配置(事務局)しており、必要に応じて説明会への参加を促している。 高等教育修学支援新制度を実施。必要とする学生が必要な支援が受けられるようサポートを開始している。 ④ 定時健康診断での再診や学生希望時の受診について学園グループのクリニックがあり、専任教員が受診指導・援助を実施している。 ⑤ クラブは顧問管理下で安全に配慮して活動できている。(2020-2023 年度はCOVID-19感染予防のため休止)学外研修の依頼を受けたときは必ず専任が間に入り管理下において参加するようしている。 ⑥ 学園の寮を案内することで安全安心を提供できている。また、アルバイトの斡旋を実施している。(看護助手、救護活動など)

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

5-23　就職に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-23-1　就職相談室の設置など就職支援に関する体制は整備されているか	キャリアセンターが設置されている。必要に応じ、学科と協力して支援を行っている。	・就職希望調査面談の実施 ・募集要綱の一斉請求 ・掲示板への情報開示 ・個別相談対応など	現在キャリアセンターと協力体制をとりながら学科教員の負担の軽減を図っている。	就職希望先面談一覧表
5-23-2　就職に関する説明会を実施しているか	学科教員が保護者説明会の中で実施。学生に対しては必要時学科内で実施している。	学科教員の実施に加えて公務員対策授業の中でも必要時実施 ・3 年次保護者説明会(保護者) ・合同就職説明会（消防・民間）(学生)	専任教員とキャリアセンターの協力により実施し、アンケート結果からも高評価を得ている。	学科内、就職に関する業務資料
5-23-3　就職に関する学生個別相談を実施しているか	各年次1回の定時面談時および学生から要望があった時には随時、担任、必要であれば就職担当の教員も同席する。	学生数が多いため時間はかかるが、1 年次から継続して実施しているため 2,3 年次はスムーズに進めることが出来ている。	保護者と本人の希望のすり合わせは問題なく行えている。本人の希望と就職先の事情が会わないこと、低学力のために希望先の合格が困難であることなどが問題となる。都度、保護者も含めて連絡を密に対応している。面談室の確保が急務である。	個人調書 保護者説明会面談資料
5-23-4　就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	就職指導において求められる各パートの専門的な指導が必要と考えている。	自治体消防の採用要綱に基づいて個別指導が必要。担任と公務員対策授業担当の教員で対応できている。	自治体により履歴書の様式も必要な受験対策も異なる対応が必要であり、キャリアセンターとの協力が必要である。	キャリアセンター説明会資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
担任と就職担当の教員とで比較的個別にしかも熱心な支援が実施できている。民間については、希望者・求人共に増加傾向。ただし、民間就職は希望職と異なる場合が多く(消防へ就職するまでの繋ぎ)離職に繋がることを考慮し、継続した援助が必要である。	教育成果でも述べたとおり、自治体消防の就職は年々難しくなってきており民間への就職支援の充実も引き続き行っていく。 キャリアセンター、教務、同窓会組織の連携と情報の共有が必要である。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

5-24　学生相談に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-24-5　学生相談室の設置など学生相談に関する体制は整備されているか	可能な限り、きめ細かく丁寧に実施する。専任で対応できない事案の場合は、上長、専門部門(JTSC)と連携する。 随時、保護者との連絡を密にする。	在校生、卒業生の相談は個々の教員で行っているが、教員のキャリアにより指導内容が異なる場合がある。このため学科での情報共有に努めている。	深刻な相談には複数の教員で対応し、学科全体の問題として個々で抱え込まないよう教員への指導を徹底する。	学生面談記録 学科ミーティング議事録
5-24-6　学生からの相談に応じる専任カウンセラーがいるか	希望時、心理カウンセラーの相談窓口がある。(JTSC)	入学時に JTSC カウンセラーの説明と施設利用案内を実施している。若干名の JTSC 利用者があり、連携して援助できているが保護者及び経済的な問題だとあまり立ち入れない。	学生の更なる活用を促進する。担任がこまめに面談して学生の話を聞き、必要時学科で情報共有する。専任に JADP メンタル心理カウンセラー認定者が在籍している。	キャリアサポートアンケート結果 JTSC 資料
5-24-7　留学生に対する学生相談体制は整備されているか	対象学科はないので、留学生が存在しない。			

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生相談は、基本的には個々の教員で実施できている。また心理的な相談に関しても臨床心理士によるカウンセリング窓口がある。 学生からの相談は比較的丁寧に対応できていると自負しているが、学生全てが自主的に相談に来ず、自分で比較的短期間の考えで退学などにつながっている場合もあり、また、年々増加している経済的な問題が学生生活に支障をきたしている場合もあり、より丁寧で具体的な支援の方法を開拓する必要がある。	毎年のキャリアサポートアンケート実施で問題点を抽出している。 担任面談等で問題点を早期に抽出し、JTSC への紹介等を適切に行っている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

5-25　学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-25-8　奨学金制度は整備されているか	日本学生支援機構、国の教育ローンなどを必要時案内することなどにより、経済的諸問題の解決を支援し、学業を全うさせることが出来る。	日本学生支援機構の奨学金については入学後、進級後、返還手続き等に説明会を実施している。	手続き時に不備のない様、担任からの指導が必要である。	各種経済的支援に関する案内印刷物 奨学金説明会資料 奨学金案内 大学等修学支援関連資料
5-25-9　学費の分納制度はあるか	基本は一括納入であるが、事情により分納申請を出せば個別に対応可能である。	フィナンシャルアドバイザーの資格を持つ事務局員がおり、個別に対応できる。	経済的に厳しいケースが増えてきており、早めに問題点を察知し、担当に引きつくことが大切である。	学費分納に関する案内印刷物

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年々、経済的に余裕のない学生(保護者)が増えてきているようであるが、就学を続けたい学生の意欲をそぐことのないように早めに相談しやすい環境を作ることが求められている。 ただ、学生や保護者にも計画性のないケースも増えてきており、社会人教育の一環として、日ごろよりの金銭感覚・貯蓄の大切さを折に触れ言って聞かせる努力も必要である。	日本学生支援機構の奨学金受給者が多い。 COVID-19 感染症による家計の急変や、経済的に就学が困難な学生もあり、奨学金の手続きを必要とする学生が増加している。 適切に指導及び援助が必要である。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

5-26　学生の健康管理を担う組織体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-26-10　定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	年一回全学生対象に健康診断を実施している。一次検診の受信率は100%を達成する。また、再診に関しては速やかに再受診の指導を実施する。 日ごろより生活指導を徹底する。	一次検診で異常値のあった学生に二次検診の案内指導を定期的に実施している。 毎月の再診状況の報告により最受診率はよくなっている。昨年度は再診率も 100%を達成できた。	再検査への受診指導にばらつきがあるため、再診受診率にクラス・学科により差がある。 必要時保護者も含めた健康管理の指導を実施している。 継続して、1 次、2 次ともに100%を達成できるよう指導していく。	健康診断結果資料 再診者指導案内 提携クリニック資料
5-26-11　学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	その為の職員ではないが、専任に医師、看護師が存在する。	必要に応じて個別に対応している。	相談時随時対応している	近隣の各科クリニックを示す資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
定期的な健康診断を行っているだけでなく、再診の促しやその後のフォロー、自己管理の教育を行っている。また附属整骨院や鍼灸院などもあり、学生健康相談や施術を行い、充実している。	取得資格の特徴として、まず自分の健康管理が行えないと傷病者には対応できないことから、健康診断はもとより、学生に対する生活指導を徹底している。一次検診及び再診受診 100%達成できている。これは学科の特徴でもある将来公務員試験時に健康診断書の提出が義務付けられていることもあり指導しやすい環境がある。 また、病院実習に備えて抗体価検査の実施後、必要時予防接種の指導も徹底し、学生が実習中に不利益を受けないよう配慮している。 また、体調不良時にはグループ内のクリニックに受診して学生割引が活用できるなどの体制も整えている。(内科・歯科)冬季には必要に応じてインフルエンザの予防接種などを学校で接種出来るよう努めている。 体調不良時の対応も教員である程度対応可能、必要時受診施設の案内指導を行い充分に支援できている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

5-27　課外活動に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-27-12　スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援体制は整備されているか	校友会において各クラブの運営、支援・学園祭等が行われており、クラブについては専任教員が顧問を担当している。 学業に支障ない範囲での校友会活動で学生生活を快適にしている。	校友会を通し運営している。 課外活動に関しては感染対策に十分配慮しながら実施している。 定期的に献血活動を援助しており学生の社会貢献に役立てている	基本的に学生主体であるが指導に専任教員は必要であり業務との両立が困難になっているクラブも存在する。休止していたクラブも一部再開となる。 運動の設備が校内にないため、練習場の確保も課題である。	入学案内 クラブ活動規約 クラブ活動注意マニュアル クラブ顧問規定 クラブ顧問会議議事録

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
体育系一部のクラブは関西専門学校体育連盟に加盟し、活発に活動を行っていた。文科系のクラブにおいては、授業のない時の教室などを活用して内外に提供している。学業との両立を図り、成績の芳しくない学生においてはクラブ活動の自粛等の指導も行っている。 しかし、クラブ顧問においては通常業務の支障のない範囲でとの援助にとどまるため、存続の危機にあるクラブも存在する。	体育系のクラブにおいて全国大会で上位入賞をしている。 就職に体力試験がある為、日頃の訓練の影響も功を奏していると考える。 COVID-19 感染症の関係で安全のためクラブ活動を休止していたが、 今年度からクラブ活動一部再開となる。(野球・バレーボール・柔道)

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

5-28　学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-28-13　遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	遠隔地からの学生には寮の案内等を行い、学生生活の安心安全を提供できている。	オープンキャンパス参加時に入寮体験や下見が一度に行えるよう配慮し、専門の担当部門も設けている。	入寮生の環境の変化により快適性が損なわれる場合もあり、寮長・保護者等と必要時連絡を密にしながら支援していく。 寮以外の一人暮らしの学生に対しても細やかに相談を受けて対応している。	学生寮パンフレット 寮規約 学生マンションパンフレット

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入寮、一人暮らし、自宅通学に関わらず、学生の生活環境には常に気を配り個々の教員で相談に乗るなどの対応が必要とされている。 これについては、学科の特徴でもあるが、比較的きめ細かく配慮し円滑に援助できている。 経済面で入寮が困難な場合は、信頼のおける学生マンションなどの情報提供も個別に対応できている。遠隔地出身の学生も多いが対応は十分になされており問題ない。	学生寮以外にも、学生マンションも周辺には充実しており、比較的快適に学生生活を遅れている。 校内で昼の弁当販売も開始され栄養面の配慮もされている。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	田中　一平

5-29　保護者と適切に連携しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-29-14　保護者と適切に連携しているか	学業を全うさせる上でも、生活習慣の指導に役立てるためにも、保護者との連携は必須で、学生にとって有益な情報を交換する。	連絡なしの欠席の場合、必ず保護者に確認をとる。 成績、出席、生活状況において学生指導だけでは対応が困難と予想される場合は保護者へ連絡し、面談を実施している。 保護者ポータルにて保護者が学生の出欠を閲覧できるようになった。保護者からの問い合わせに柔軟に対応できている。 また、次年は成績についても保護者がリアルタイムで確認できるようになる。	必要時には三者面談を実施(複数教員立ち会いのもと)している。 保護者説明会の実施(入学前、卒業年時) を通して情報共有に努めていく。 2 年次には徽章授与式へ案内することにより、1 年 1 回は保護者と顔の見える関係を良好に保ち信頼関係を構築していく。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
全学年を通して保護者との連絡は密に取り、良好に関係が保つことができている。 保護者会以外でも希望があれば、個別の対応は実施している。 学生状況把握のために保護者と情報を交換することで、学生の背景を確認することができる。最近では少子化の影響もあるのか、教育に関して甘い考えや、無関心の保護者が増える傾向、逆に過保護すぎる問題も増えているように思われる。現実の厳しさを理解いただき、資格取得・就職に向けて教員と共に協力出来る体制を整えていくためにも保護者会は重要な役割を担っている。学科でも保護者から得られた貴重な意見を共有し、健全な学科運営を行っている。	無断欠席は保護者連絡(確認)、成績・出席等、気になることがあれば早めに連絡を取る。保護者にも遠慮なく連絡を入れてもらえるよう折にふれ伝えている。 お知らせを文書や LINE で実施している。保護者との連絡を適宜取り合いながら今まで以上の信頼関係を構築していく。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

5-30　卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-30-15　同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	同窓会組織を通して卒業生に情報の提供や、研修の機会を提供し	年一回の総会開催。 年三回の理事会開催。 TOYO メディカルラリーの開催を定期的に行い活動の支援をしている。 全国に卒業生がいるため、今年度より支部制を取り入れる予定。	25 年目を迎え実績の少ない同窓会活動を活発化させるため、全国を 7 支部(地区)に分け、支部ごとの研修、情報交換ができる環境を作る。 研修については、遠隔で実施できるように工夫し遠方の卒業生でも参加できるよう改善する。	同窓会規約
5-30-16　卒業生をフォローアップする体制が整備されているか	在学中のクラス担任や他の担当教員が協力して就職などの相談に応じていく。	卒業生の相談は随時教員が対応している。	今後はキャリアセンターとの協力体制を整えていく。 同窓会HPから就職に関する情報などが確認できるよう改善した。	キャリアセンター使用規定

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生に関しては同窓会組織が存在するものの、他学科に比べて活動実績が少ない。卒業生は各個人で在学時の担任や教員に相談してくることが多く、対応は個々の教員が行っている。現在のところ、問題はなくフォローできている。 キャリアセンターとの分業も行い、卒業生の就職情報提供については同窓会 HP にて閲覧できるように改善した。	担任制を取っている良さとして、卒業生一人ひとりの希望就職先に就職するまで、あるいは国家試験に合格するまで担任のフォローを引き続き実施していく。 キャリアセンターとの協力体制を強固にしていく。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

基準５　学生支援（鍼灸師学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学した学生全員が目標達成に向け邁進できる環境作りが学生支援だと考えている。ネガティブな事案はポジティブに、ポジティブな事案はよりポジティブになるようサポートしていかなければならない。学生の学校生活全般にわたるサポートとして以下の 6 つに取り組んでいる。 ①就職サポート ②カウンセリングサポート ③学費サポート ④健康サポート ⑤課外活動サポート ⑥一人暮らしサポート 上記以外にも、学生と学校の関係だけでなく、保護者にも理解を促し、成績や出席状況などを共有し、保護者と学校が協力して目標達成へのバックアップ体制を構築していくことが重要である。 学校は学生の学習面や就職面だけでなく、生活面でも支援していく態勢が必要である。教職員は広い視野をもって学生をみていかなければならない。これらを個人の力量によるのではなく、学校・学科として支援できるシステムを構築することが重要である。	就職や奨学金、学生寮に関しては、専門の部署・担当者により学校単位でのサポートがおこなわれている。卒業生のサポートは同窓会組織の活発な活動により十分サポートできていると考える。各種勉強会、講演会等が活発に行われているほか、交流の機会なども設けている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

5-23　就職に関する態勢は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-23-1　就職相談室の設置など就職支援に関する態勢は整備されているか	キャリアセンターを中心に、3年生担任など就職担当教員がきめ細かく支援する。	キャリアセンターがあらゆる面で有効に機能している。	特に問題はない。	求人票一覧
5-23-2　就職に関する説明会を実施しているか	就職ガイダンス・就職説明会を実施する。	就職ガイダンスだけでなく、マナー講座・キャリア NAVI なども含め、就職にいたるさまざまな説明会等が 1 年次より実施されている。	3 年間かけて就職への機運を盛り上げる仕掛けを多く用意し、現実的で満足のいく就職ができるよう計っている。	特になし。
5-23-3　就職に関する学生個別相談を実施しているか	キャリアセンターを中心に、3年生担任など就職担当教員が学生個別相談をおこなう。	キャリアセンター室での相談・担任への相談など、多層的に対応しており、学生は気軽に随時相談できる。	特に問題はない。	特になし。
5-23-4　就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	就職ガイダンス・就職セミナーによりキャリアセンターが指導する。	就職に関係する広い情報を提供し、はじめて就職する学生の支援態勢ができている。キャリアセンターで就職に関わるセミナーを実施している。	特に問題はない。	特になし。

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
キャリアセンターによる学校単位のサポートにより、きめ細かい支援態勢が確立されている。また、セミナーの開催などで年々さらなる充実をみる。	複数学科が存在する本校においては、学科単位でなく学校単位のサポート態勢ができている。また、個別の支援によりきめ細かく支援できている。 キャリアセンター、教務、同窓会組織の連携と情報の共有が必要である。 また、臨床で活躍する OB、OG から現場の話しなど在校生への情報提供を通じて在校生のモチベーション向上にも取り組んでいきたい。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

5-24　学生相談に関する態勢は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-24-5　学生相談室の設置など学生相談に関する態勢は整備されているか	担任が定期的な個別面談をおこなっているほか、グループ校共通のカウンセリング施設を有している。	担任を中心に面談時に問題がないか学生に確認するほか、施設のカウンセラーが学生相談をおこなっている。ほか、担任以外でも随時相談事があれば相談に乗る。大きい問題に関しては学科全体で対応にあたる。	相談をまつだけでなく、問題がありそうな学生に関してはこちらからの声かけも必要であり、そのためにはコミュニケーションをできるかぎり密にとっていくことが望ましい。	特になし。
5-24-6　学生からの相談に応じる専任カウンセラーがいるか	グループ校共通のカウンセリングの施設を有しており、随時学生相談を受け付けている。	カウンセリングの施設が予約制で学生相談を実施している。本校に常駐しているカウンセラーはいない。	常駐しているカウンセラーがおらず､学外の施設で予約制となると学生も相談を躊躇することが多い｡スピードが必要なこともあるが､タイムラグが大きく対処できないときがある｡できるかぎり教員でタイムラグをうめる。	特になし。
5-24-7　留学生に対する学生相談態勢は整備されているか	留学生をうけいれることができる態勢を整備する。	現状では創立以来留学生の受け入れはない。	これまでは留学生の入学希望自体がなかったため、受け入れ態勢を整備してこなかった経緯がある。今後入学希望も考えられるため整備していきたい。	特になし。

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生相談は担任を中心とする専任教員と、カウンセラーなどの専門家との両面で対応していくことが望ましい。現時点で専門家による相談は制限が多いため、専任教員によるものが大半を占める。しかし問題が大きいときはカウンセラーに委ねることができるという態勢であるという点は心強い。留学生は今後受け入れる可能性もあると思われるため、態勢作りを事前にしておくことが望ましい。	専任教員が第一の受け皿になれることが重要であるが、専任教員はカウンセリング研修を受講し､学生の多くの相談の受け皿となれるよう精進している。比較的学生は躊躇なく担任、あるいは担任以外にも相談できる空気づくりに成功している。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

5-25　学生の経済的側面に対する支援態勢は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-25-8　奨学金制度は整備されているか	経済面に不安をかかえる学生に対しては、奨学金による支援をおこなう。	事務局に奨学金担当がおり、適宜説明会をひらくなど支援できる態勢をとっている。奨学金を受給することにより学業を継続できる学生は多い。	特に問題はない。	募集要項
5-25-9　学費の分納制度はあるか	学費を一括で納入できない学生には分納制度で対応する。	分納制度は一律でなく、個別に分納のプランをたて、無理のない範囲で支払いができる態勢で支援している。	特に問題はない。	募集要項

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
経済的な問題を抱える学生は増加傾向にあると思われる。学校側が奨学金や分納制度により学業を続けることができることも多いため、支援態勢を構築しておくべきである。本校は比較的奨学金に関する態勢が充実している。	学校単位での支援態勢が整備されている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

5-26　学生の健康管理を担う組織態勢はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-26-10　定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援態勢はあるか	定期健診により学生の健康面への支援態勢をもつ。	健康診断の実施はもちろん、再検査、あるいは精密検査が必要な学生には、受診を促し、追跡調査をして健康状態の把握・向上につとめ、全員が再受診している。また附属鍼灸院での学生診療は無料で受診することができ、健康向上に役立っていると思われる。	学園グループ内にクリニックがあり、健康診断を欠席した学生、要再診とされた学生のフォローも十分である。再診率は100%を維持できている。	特になし。
5-26-11　学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	専門家の視点で学生の健康相談ができる医師・看護師等の常駐。	健康相談に応じる専属の医師・看護師はいないが、学科柄医師・看護師は複数名在籍している。また、救急救命士や柔道整復師、はり師・きゅう師もいるため、それぞれの専門に応じた範囲で相談に応じることができる。	健康相談のための医師や看護師を常駐させるのはむずかしいと思われる。教員ができる範囲でおこなうよりない。 附属鍼灸院における学生臨床を受診する学生は多い。	特になし。

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
定期的な健康診断を行っているだけでなく、再診の促しやその後のフォロー、自己管理の教育を行っている。また附属整骨院や鍼灸院などもあり、学生健康相談や施術を行い、充実している。	教員は医療系の資格保持者がほとんどであるので、すばやい対応が可能となっている。鍼灸による施術が可能な体調不良者に関しては、専任教員が対応にあたっている。学生にとっては恵まれた環境にあるといえるが、積極的に利用しない学生もまた多い。必要と判断した場合は効果的な利用を促していきたい。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	真田　浩二

5-27　課外活動に対する支援態勢は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-27-12　スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援態勢は整備されているか	セミナーを充実させる。	臨床現場で活躍する先生方をお招きし実践的な施術を学ぶ。	2025 年度から野球部・バレー部等スポーツ系のクラブ活動が再開された。学科内でも新たに学生主体のサークル活動を行っている。	セミナー案内

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
セミナーの実施時間は専門学校の中でも非常に活発に活動しているほうであろう。学園生活は勉強だけがすべてではなく、そのほかの課外活動（セミナー）にも力をいれ、学生の学園生活を充実したものにしていきたい。	セミナーは講師・卒業生などの積極的なサポートにより充実している。 今後も実践的なセミナーを実施していきたい。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

5-28　学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-28-13　遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	学園の系列の学生寮をもつ。	多くの学生は当学園グループが所有する学生寮に入居し、生活している。	特に問題はない。	学生寮パンフレット

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
遠隔地出身者の占める割合は比較的高く、いつでも学生寮を斡旋できる環境にある。多くの学生が学生寮に入居、生活している。	本校だけでなく、グループ校全体のサポートがある。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	真田　浩二

5-29　保護者と適切に連携しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-29-14　保護者と適切に連携しているか	保護者と密に連絡をとり、さまざまな点で連携する。	入学前には保護者説明会を開催している。入学後も必要に応じて、保護者に電話連絡、あるいは来校していただき面談をおこなっている。また、定期試験の成績表は試験ごとに発送し、学生の出席と成績に関する情報を伝えている。また学生生活の様子を伝えるため学級通信の送付を行っている。	今後より密なつながりを持つため保護者ポータルを用いてイベント等の写真や動画を配信・成績・出席状況等を共有できるようにし、より学校の教育活動を理解して頂く。 今年度より LINE スクール連絡帳を導入予定	保護者説明会資料 学級通信 OVO LINE スクール連絡帳運用ガイドライン

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保護者との連携はときに学生との連携以上に大切となることがある。保護者と学生自身のコミュニケーションが不十分である場合も多く、その場合保護者は学校からの情報のみが頼りとなることもある。また、学費だけでなく国家試験時の家庭での学習など保護者の力が必要なこともあり、学校・保護者間の連絡をできるだけ密にとっていくべきである。	問題のある学生に関しては、一定の基準のもと保護者に連絡を入れる態勢をとっている。問題のない学生に関しても、定期試験や模擬試験の成績が定期的に郵送されるため、ある程度学生の状況を把握してもらっている。今後はインターネット上で出席状況の確認等が出来るようになる。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

5-30　卒業生への支援態勢はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-30-15　同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	同窓会活動を通じて生涯学習・卒後研修を充実させる。	同窓会はしっかりと機能しており、年に数回の勉強会・講演会が催されているほか、在校生や教員との懇親会・交流会もある。また、ホームページを開設・SNSの活用などもおこなわれており、非常に活発に活動している。	勉強会へ参加する卒業生を集めるのに苦労している。 日程や現在のトレンドを掴み勉強会を実施していきたい。	同窓会規約 同窓会ホームページ
5-30-16　卒業生をフォローアップする態勢が整備されているか	卒業後の職場の転向の相談・生涯学習の支援をおこなう。	職場の転向の支援は卒業後何年経過してもおこなっている。また同窓会活動を通じて、学校が情報発信の場になることにより、生涯学習の支援に十分なっている。	特に問題はない。	同窓会規約 同窓会ホームページ

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
現時点で 20 期生まで卒業生を輩出している。卒業生が業界で活躍するためにも、卒業生をフォローアップしていくことは重要である。そのための同窓会活動は非常に有効に機能している。また、業界や在校生との交流も広くおこなわれており、今後も継続して活発な活動をおこなっていきたいと考える。	専任教員に卒業生が含まれるため、専任教員を中心とした同窓会活動が可能になっている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

基準５　学生支援（柔道整復師学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学した学生全員が目標達成に向け頑張っていける環境作りが学生支援だと考える。ネガティブな事案はポジティブに、ポジティブな事案はよりポジティブになるようサポートしていかなければならない。学生の学校生活全般にわたるサポートとして以下の 6 つに取り組んでいる。 ①就職サポート ②カウンセリングサポート ③学費サポート ④健康サポート ⑤課外活動サポート ⑥一人暮らしサポート 上記以外にも、学生と学校の関係だけでなく、保護者にもご理解をいただき、成績や出席状況などを共有し、保護者と学校が協力して目標達成へのバックアップ体制を構築していくことが重要である。 また卒業生へのサポートとして同窓会が中心の勉強会や、卒業生を対象とした就職転職もキャリアセンターが行っている。	学生が持つ不安の中には希望する院に就職できるのか？というものがあり、就職活動支援は学生支援の大きな柱の一つである。学生達の多様なニーズに応えるために、就職先の確保は重要なものである。本学科卒業生のほとんどは取得資格を活用できる就職先を選ぶため、求人募集を行っている整骨院や病院、クリニックなどへのアプローチを積極的に行っている。本学科の入学生は高等学校からの進学者が非常に多いため、就職活動をするための様々な経験が不足している。それゆえにキャリアセンターを中心とした就職ガイダンスなどを積極的に行い、医療人としてだけでなく一般的な社会人としても通用する人材の育成を行うべきと考えている。 また就職先の拡充を目指すため、業界大手グループと連携した産学連携に取り組んでいる。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

5-23　就職に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-23-1　就職相談室の設置など就職支援に関する体制は整備されているか	学科担任とキャリアセンターとの連携体制を構築し、全ての学生ニーズに答えられるようにする。	１年次より就職を意識させ、学科担任とキャリアセンターの連携により３年次の国家試験前には就職希望学生のほとんどが内定をいただいている。	開設時間が短くキャリアセンターの人員確保が望まれる。	就職委員会議事録
5-23-2　就職に関する説明会を実施しているか	学校主体となり学生に良い就職場所を提供するのは義務である。	３年次に就職説明会を実施し、希望者には随時就職相談を受けられるようにしている。また外部依頼については吟味し学生へ提供している。	キャリアセンターを中心に就職説明会などの実施または事前アプローチを行っており一定の効果（就職率向上）は出せている。	就職委員会議事録 就職説明会アンケート
5-23-3　就職に関する学生個別相談を実施しているか	個々の学生に適した就職先を提供できるように、随時個別の相談を実施できるようにすべきである。	学科担任とキャリアセンターによる学生情報の共有は定期的に実施している。	特に問題なし	就職委員会議事録
5-23-4　就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	社会人常識を在学中に会得すべきであり、就職に必要な学生ニーズを把握すべきである。	定期的な就職活動ガイダンスを行っており、またキャリアセンターによる個別指導は随時行われている。	参加者が少ないので積極的に学生がキャリアセンター主体セミナーなどに参加するよう促す必要性がある。	就職委員会議事録

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職活動においては、１年生よりキャリアセンターを中心とした指導が十分なされているため何ら問題はない。	就職に対する情報が多くなり学校とは関係なく就職を決定していることがある。このことについて現在のところ問題はないが、事後のトラブルを防止するため早期の認知が必要である。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

5-24　学生相談に関する体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-24-5　学生相談室の設置など学生相談に関する体制は整備されているか	学生相談室を整備し、プライバシーにも十分配慮する必要がある。そのため個別相談室を用意している。	学生相談室は３室配備されており、随時相談受け入れが出来るようにされている。また学科ミーティングにおいて問題のある学生の共有をはかり学科全体での問題として対応している。	学生が相談に来るときは手の施しようがない場面が多い。そのため待ちの姿勢ではなく積極的に教員からアプローチをし、問題の事前解決に努めることが良い。	特になし。
5-24-6　学生からの相談に応じる専任カウンセラーがいるか	学内においては教員が中心となり学生対応を行っている。 また専門のカウンセリングが必要な学生には SSC と連携し対応している。	SSC が本校近くに設置され問題のある学生に対してのサポート体制が充実している。	早期に発見できるよう学生とのコミュニケーションの機会を増やす。また安心感の確保のため学内カウンセラーの設置を求む	SSC 資料
5-24-7　留学生に対する学生相談体制は整備されているか	ボーダレスの時代、グローバルな社会環境の変化に対応出来るように留学生の相談体制は整備するべきである。	学科開設以来、留学生はいないが、英会話が可能な教員が常駐しているため個別の対応が出来る。	特に問題なし	特になし。

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
専任教員による面談の実施、SSC との連携など学生相談による体制は十分である。留学生に関しては、学科開設以来入学者がいないが、検討課題であると考えている。	特に新入生に対して SSC の存在を知ってもらっている。特に初年度は学生との関わりを積極的に実施しており在学中や進級に向けての不安を解消している。専任教員全員がカウンセリング研修を受講している。また精神面や教育的なアプローチではがくせいの反応が薄い場合が多く、多角的なアプローチを今後は必要とする。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

5-25　学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-25-8　奨学金制度は整備されているか	経済面に不安を抱える学生に対しては、奨学金による支援を行う。	事務局に奨学金担当があり、適宜説明会、個別相談などを行い、支援できる体制を整えている。	お金を借りるという意識の甘さが散見される。今後の教育内容の中に金銭的な話をしてもらう機会が必要と感じる。	募集要項
5-25-9　学費の分納制度はあるか	学費担当者が分納制度について理解し実施している。	事務局に学費担当者がおり学生の状況ごとに対応している。	滞納する者への指導が必要である。	募集要項

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
経済的に進学困難な学生が年々増加傾向にある中、救済策として奨学金制度を利用するのは望ましい。しかし社会問題にもなっているように卒業後の返済を滞る割合も増加している。滞納することによって失われる社会的信用の重要性も教育の中で理解させていく必要がある。	奨学金制度を利用する学生も多いため教員も奨学金制度を把握する必要性がある。Teams を利用し奨学金担当者、奨学生、教員も同様の内容を把握している。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

5-26　学生の健康管理を担う組織体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-26-10　定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	定期検診により学生の健康面への支援体制をもつ。	健康診断の実施はもちろん再検査や精密検査が必要な学生には、受診を促し、全学生の健康状態の把握、向上に努めている。	健康に対する意識づけがなされていない。人の身体を直す前に自分自身を見直す必要性がある。	特になし。
5-26-11　学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	専門家の視点で学生の健康相談が出来る医師、看護師の常駐が必要。	他学科には医師、看護師資格保持者が複数名在籍しているため、適宜対応が取れる体制がある。	健康相談のための医師、看護師の常駐は困難であるが、教員が可能な範囲で行う事で対応する。	特になし。

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
定期的な健康診断を行っているだけでなく、再診の促しやその後のフォロー、自己管理の教育を行っている。また附属整骨院や鍼灸院などもあり、学生健康相談や施術を行い、充実している。	急性外傷などに対しては資格を取得している教員が対応している。 健康診断再検査となったものについて学生健康管理の観点より 6 月までに一次検査全員終了、年度内での再検査受診率 100%を目指している。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

5-27　課外活動に対する支援体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-27-12　スポーツ等のクラブ活動、その他、課外活動に対する支援体制は整備されているか	クラブ活動等の課外活動の積極的な支援体制を充実する。	顧問管理のもと多数のクラブが設立されており、希望する学生はクラブに所属し、活動している。部費や専体連の所属費用も校友会で負担し、活動を支援している。	活動時間により夜間部学生が参加し辛い状況があるので、夜間の学生も気軽に参加出来るように練習の曜日・時間を変更する必要性がある。	入学案内

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
クラブ活動は多くの専門学校の中でも非常に活発に活動していると思われる。学園生活は学業だけが全てではなく、課外活動にも積極的に参加し、学園生活を充実したものにしたい。	一部の課外活動について学校より許可がおり実施している。 柔道整復師学科も独自のクラブ活動を実施する事で学生満足度の向上を図っている。

最終更新日付	2026年　6月　12日	記載責任者	岩崎　英明

5-28　学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-28-13　遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	滋慶学園グループが運営する寮があり、遠方から入学する学生の日常生活を支え、保護者にも安心して頂けるように努める。	寮パンフレットの案内だけでなく、体験宿泊や見学など柔軟に対応している。	特に問題なし	寮パンフレット

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
遠隔地出身者の占める割合は比較的高く、適宜学生寮を斡旋出来る環境がある。初年度には多くの学生が学生寮に入居、生活しており、保護者にも安心していただいている。	通常面談とは別に一人暮らしをしている新入生に対して遠隔で相談を受け、困っていることや生活環境について把握するようにしている。2 年次からは各自で寮以外の賃貸物件を探すことが多い。寮以外にも生活環境を教員が知っておく必要性がある。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

5-29　保護者と適切に連携しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-29-14　保護者と適切に連携しているか	入学前教育の位置づけとしてオープンキャンパスなどにも保護者には参加してもらい、入学前には保護者説明会、入学後にも保護者への連絡、面談などを積極的に行い、様々な方向から学生をバックアップしていく体制を整える。	オープンキャンパス、保護者説明会、保護者会、必要であれば保護者との3者面談などを行い、学科と保護者の連携は適切かつ十分に行われている。 また来校の都合が付かない保護者に関して遠隔ツールを利用している	学校に来校されていない保護者から疑問などがでることが多々あり、保護者説明会やOCへの付き添い参加以外にも学校教育や担任との連携を図るための仕掛けを模索していく必要である。	保護者説明会資料 個人調書（面談記録）

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生が目標達成するためには、学科と保護者の連携は欠かせない要素であり、本学科では保護者への説明、教員と保護者との連携を十分行うべきと考えている。そのことにより学生、保護者、学科の全てがWin-Winの関係が築けているのである。	資格を取るために保護者自身と協力し粘り強く教育をしていくべきと考える

最終更新日付	2026年　6月　12日	記載責任者	岩崎　英明

5-30　卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-30-15　同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	同窓会と学科との連携により、卒後教育を充実させていく。	2025 年度より年 2 回の特別講演、卒業生による年 3 回程度のセミナー、教員による講習会を実施しており年々活性化している。	連絡の取れない卒業生などが多くハガキや SNS などを利用し現状の把握に努めている	同窓会勉強会の資料 全体スケジュール 講演会資料
5-30-16　卒業生をフォローアップする体制が整備されているか	専門的な教育活動は学科主催の講演会や同窓会主催の講演会、研修会などを行う。 卒後教育の中には就職も含まれており、キャリアセンターや学科教員が卒業生のサポートを行う。	学科主催講演会、同窓会主催の講演会、研修会は卒業生であれば誰でも参加出来るようになっている。 また遠隔対応により都合のつきにくい演者をお呼びしている。	同窓会活動を例年実施しているが参加人数の伸び悩みがみられる。卒業生の求めるニーズを正確に把握し参加したいと思える仕組みが必要である。また上記同様同窓会活動の卒業生に対する周知が必須である。	特別講演会などの資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今年で卒業生が 17 期となり、卒業生も増加している。本校では卒業生は全て同窓会の構成員であるため、愛校精神も高く、卒業生と学科との関係は非常に良好なものである。	同窓会勉強会への参加率が低いため今後在学中（卒業時）より同窓会活動の報告や同窓会の存在を在校生に意識させ周知させていくことが必要である。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

基準６　教育環境（歯科技工士学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育成果を上げるためにも、資器材の充実は重要である。各学科の事業計画作成時に次年度必要な資器材の予算が組まれている。パブリックスペースについては施設設備担当者が日常の点検を行っており、不具合があると対応している。 従来、海外研修においては、その専門性に特化した世界最先端の知識技術を学べる内容でプログラムされていたが、新型コロナ感染拡大により、2020 年度から中止している。ヨーロッパ近隣の政情不安や戦争による渡航費の高騰により、再開が困難な状態であり近隣(アジア)での研修を検討している。 防災に関しては、消防計画に基づき毎年訓練を行っている。またグループ作成の防災マニュアルや、緊急連絡網、安否確認システムなどを導入している。今後さらに教育環境を整備し、安心安全でより学びに適した学校作りが必要である。 教育環境の整備に関しては、年々機材や図書を充実させるなど、さまざまな工夫をこらしてきた。今後は視聴覚分野、特にタブレットなどを活用した IT 教材の利用や、利用方法の開発をおこなっていきたいと考えている。ICT 教育の充実を目的とし､ZOOM を用いた遠隔授業を 2020 年度から開始したが、現在も必要に応じて利用できる状態にしている。 効率よく学習できる環境を整備するための方法論に関してはまだまだ工夫の余地があり、今後新しい教授法にもとづいた教育環境の整備を引き続きおこなっていきたいと考える。	デジタルネイティブな学生たちには IT 教材には抵抗無く受け入れるものと思われるが、教育現場では徐々に IT 教材を取り入れている。 実習においても、一部動画を配信し、各自の端末で参考にしながら作業に取り組んでいる

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

6-31　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-31-1　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	法令に基づいた施設・設備はもちろんのこと、さらに充実させるための整備をおこなう。	校舎設備だけでなく、学習のための備品を年々充実させている。	特記なし。	特になし。
6-31-2　施設・設備のメンテナンス体制が整備されているか	新しい施設・設備の導入だけでなく、既存のものに対してはメンテナンスをおこない環境を維持する。	日々の点検に加え、特に長期休暇中には一斉に点検をおこなっている。ほか、問題があればその都度対応している。	特記なし。	学科会議議事録
6-31-3　施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	計画にもとづいた定期的なメンテナンスをおこない、常に整備された環境で学習できるようにしていく。	教室や廊下など校舎全体にかかわるメンテナンスは定期的なメンテナンスは行われている。	デジタル技工の発展に目覚ましいものがあるがそれに伴うデジタル機器の対応も重要である	学科会議議事録

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
場あたり的な整備とならぬよう計画的に整備・メンテナンスをおこなっていくことが望ましい。ただし、その都度迅速に対応していくこともまた重要である。双方念頭においた予算計画が重要となる。	歯科技工には火器や刃物、大型の機械が使用されるため、危険な操作や作業リストアップし、定期的な点検・メンテナンスの有無や時期、費用を継続してリサーチしていく必要がある。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	大石　直之

6-32　学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-32-4　学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	手続き面に関係する機関、および受け入れ先の機関とも十分に連携し実施する。	従来は歯科関連メーカーの見学、学会への参加、リヒテンシュタインにある世界的に有名なメーカーでの実技研修を行っていたが、休止している。 就職活動に伴う企業の見学・研修を実施している。	コロナ終息後は、歯科関連メーカーの見学、学会への参加を再開している。海外研修は学生にとって、有益な経験ではあるが、安全の確保とリスクマネジメントが必要である。 費用に見合った行程の検討を継続している。	研修報告書
6-32-5　学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	教育効果を検証し、その結果によりさらに充実させる工夫、あるいは変更点を検討していく。	アンケートをおこないそれぞれの研修に対する学生の意見を吸い上げている。できる限りフィードバックして改善に努めている。	客観的にわかる形で統計学的な効果の実態を把握することも必要である。	研修報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
海外研修・日本歯科技工学会・歯科技工所見学など、学外での研修で、学内では得ることのできない知識や経験などが得られることも多い。コロナが終息し海外研修も渡航先によっては可能となったが、今後は学生の安全を確保しつつ、費用・日数・工程等を検討、計画に取り組んでいきたい。	近年、歯科技工所からのインターンシップの案内が多くなってきた。学生のうちに実際の現場で、仕事内容の把握や事前準備、コミュニケーションの重要性を知ることは貴重な経験なので、積極的に参加するよう指導していきたい。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	大石　直之

6-33　防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-33-6　防災に対する体制は整備されているか	有事に備え日ごろから準備をしておき、学生・教職員とも可能な限りの安全性を確保する。学生個人の自覚も重要である	教職員の防災訓練、学生への啓蒙活動などを、定期的におこなっている。また、火災報知器なども整備されている。非常勤講師には「防災マニュアルブック」を配布している。	緊急連絡網システムの充実	防災マニュアルブック アクションカード
6-33-7　災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	災害を起こす可能性のあるものに関して、その危険性を喚起する。	もっとも可能性の高い災害である火災に関しては、十分に伝えている。	特記なし。	防災マニュアルブック アクションカード
6-33-8　実習時等の事故防止の体制は十分か	事故防止のためのマニュアルを作成するなどして、徹底しておこなう。	マニュアルを作成し、学生への啓蒙をおこなっている。	特記なし。	防災マニュアルブック アクションカード
6-33-9　万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	学校全体で保険に加入すべきものと考える。	保険に加入している。	特記なし。	保険書類

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-33-10　防災訓練を実施しているか	教職員・学生ともに定期的に防災訓練を実施して、有事に備える。	教職員に対しては例年 3 月に訓練を実施している。学生・非常勤講師に対しては「防災マニュアルブック」を基にした説明と、アクションカードの活用法など、具体的な避難経路などの説明をしている。	特記なし。	防災マニュアルブック アクションカード

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
防災は事が起こってしまってからでは遅いため、常日ごろからの訓練や啓蒙活動が重要となる。防災設備に不備はないと思われるが、高い意識のもと防災訓練をおこなえるようにしなければならない。緊急連絡網システムの充実。	現在、災害対策強化のため、学校全体でアクションカードの実用化に向けて防災訓練時に改訂を重ねながら取り組んでいる。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	大石　直之

基準６　教育環境（救急救命士学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育成果を上げるためにも、資器材の充実は重要である。各学科の事業計画作成時に次年度必要な資器材の予算が組まれている。パブリックスペースについては施設設備担当者が日常の点検を行っており、不具合があると対応している。 海外研修においては、その専門性に特化した世界最先端の知識技術を学べる内容でプログラムが組まれている。 防災に関しては、消防計画に基づき毎年訓練を行っている。またグループ作成の防災マニュアルや、緊急連絡網、安否確認システムなどを導入している。 今後さらに教育環境を整備し、安心安全でより学びに適した学校作りが必要である。 基準 6 の中で特に施設・設備については法令に基づき整備を行っているが、経年変化に伴う整備をさらに継続して行わなければならない。 自習スペース、面談室、講師待機室については、急務ではないものの重要な事項であり十分な対策が採られないことにより今後、教育成果に影響が出でくる可能性もある。 より満足度の高い教育を目指し努力が必要である。 学外実習や海外研修などでは十分な対応がなされているものの、学生の個人差による問題もあり今後は教育の面でさらに細かな指導を必要と考えている。 防災に関しては、訓練の実施や保険の整備、実習中の事故防止など実現可能なところから実施出来ている。しかし、まだまだ危機管理の薄い部分もあり、教職員の中でも認識の違いがある。他校との情報交換を密にし、協力できる部分は共有し態勢を整える必要がある。	教育資器材の整備、点検が毎日必要とされる。 特定行為の処置拡大に伴い新たな物品の調達が必要とされ、随時補填出来ている。 海外研修は有意義であるが、全員が参加できる状況ではない。 そのための代替として国内研修や施設研修、学校登校者の対応を実施している。(2021 年度中止) 2024 年度の海外研修は行先および実施検討中である。そこで、学科特性を踏まえた上で安全に遂行でき、防災について学べる学外研修を企画中である。 防災訓練では登校者を活用し学生参加型として年 1 回訓練が実施できている。2,3 階実習室には安全考慮のためカメラを設置し有事に振り返ることが出来る備えをしている。 教職員防災訓練は毎年実施されている。 緊急時マニュアルの配布と熟知が必要である。 防災マニュアル(アクションカード)を作成、各教室に設置している。 カードを見ただけで個々の役割がわかり迷うことなく行動できる。 非日常事態については速やかに報告を上げている。 教育成果向上のためにシミュレーションルームや実習機器の更新を計画的に進めている。DX 教育を活用した個別最適化学習の拡充を行い、自主学習の環境も整備した。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

6-31　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-31-1　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	法令に基づき必要程度は整備されている。	施設を有効に使用するためカリキュラム作成時に考慮している。	運動設備の充実の必要性がある。昼間部の学生が一度に実習できないため、カリキュラムは考慮しなければならない。ハード面の整備が継続課題である	学校設置要綱 各教室、設備の状況
6-31-2　施設・設備のメンテナンス体制が整備されているか	日々の点検においては教員の巡回により問題が発生した時に担当者へ依頼する。グループ内で整備を担当する部門が設けられており直ちに問題があれば対応するようにしている。	不備が生じた時には担当者に依頼しメンテナンス部門へ修理依頼の実施している。 学生の意見を聴取し、不具合があれば対応している。	不適切な使用方法(取り扱いの乱雑さや頻度の高さ)による不備も多く見られるため、施設設備の使用においては学生に使用許可願いを申請させて丁寧に取り扱うよう指導の徹底を行う。	メンテナンス・整備計画書 施設使用内規
6-31-3　施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	毎年予算申請の実施、経年劣化も含めての対応を実施していく。	学生が授業以外で使用できる共有スペースが少なく補習や面談等で苦慮している。 講師の待機スペースが狭く教員とゆっくりとコミュニケーションが取れていない。	会議などで意見としては発信しているが解決には至っていない。他学科にも協力をお願いし最低限の使用は確保する努力をしている。 講師については、専任教員の空いている席に座っていただくなどして対応している。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設設備に関しては現状最低限の確保はカリキュラムを調整しながら何とか対応できているが、今後はよりよい環境にしていくためにゆとりの空間(自習スペース、面談室、講師待機室)も随時計画していく必要がある。	トレーニングルームの器材をレンタル契約として修繕や紛失にスムーズに対応できるようにした。天井の蛍光灯は全て LED 変更し更にガードをつけて安全に配慮した。教室の修繕等は担当を決めて随時行っている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

6-32　学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-32-4　学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	学外実習(臨地実習)海外研修等について外部関係機関と連携し、十分な教育体制を整備して遂行する。 消防実施のインターンシップは、本人の希望があれば学業に支障のない範囲で許可としている。	2 年座学終了時に 13 施設に分かれて合計 168 時間(7 日間の病院実習)、3 年次に救急自動車同乗実習、海外研修はシアトル・サンフランシスコでの救急医療体制を学んでいる。 COVID-19 感染症の関係で海外研修は 2019 から中止している。昨年度は代替えとしてカンボジアの救急活動の講話を 1 年生が受講した。遠隔で行ったので他学年も録画を後日視聴した。 3 年次インターンシップ希望者には学科として協力する。	事情で海外研修にいけない学生には同等の国内研修(東京消防庁)の対応、それも無理な場合は登校して教員による実習で対応している。 2025 年度については順調に臨床実習を終了することができた。	臨地実習要綱 同乗実習要綱 海外研修しおり 国内研修しおり
6-32-5　学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	学外実習に関しては、臨地実習要綱に基づき、指導・評価を得ている。 海外・国内研修はレポートの提出を義務付けて確認する。	学外実習については教員が巡回を実施し、効果を把握できている。必要に応じて反省会を設けている。指導者との連絡を密にし、評価表による評価を受けて成績に反映させている。同乗実習も評価表に基づきその後の学生指導に役立っている。	実習先でのコミュニケーション不足(報告・連絡・相談)で問題になる学生が増えてきている。実習前教育は以前に増して充実しているが学生の対応能力の低下が問題となっている。継続してさらに事前指導の徹底に努める。	病院実習ノート 病院実習前研修資料 反省会資料 履修状況アンケート資料 病院実習評価表

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
病院実習や同乗実習、国内海外研修で目的の再確認や座学と実技の関連性を学ぶことが重要で、これらを機会に非常に意欲的になる学生も多く効果は確認している。しかし、課題に挙げたような諸問題もあり指導にも力を入れているが、反面、学生側の問題で(主体性がない、社会的コミュニケーション力の低い)指導による効果が得られないケースも出ている。若者の変化は社会現象のようであるが、それを受けて更なる教育指導の方法の改善を考えなければならない。	臨地実習(病院実習)では検査前の傷病者に接触するため、感染性疾患の抗体、肝炎抗体検査を義務付け、必要時ワクチン接種の実施を指導している。 最近抗体を持っていない学生が増加しているが、経済的な面もあり保護者も含め指導に難渋している。 学校設置該当市が無理なことから周辺市も受け入れが難しい。 救急車同乗実習の受け入れ拡大に向けて担当教員が消防訪問を行っている。 今後もお願いを継続していく。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

6-33　防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-33-6　防災に対する体制は整備されているか	有事の際に学生教職員並びに講師の生命・身体を保護すると共に建物等財産の被害の軽減を図る。	学校内で自衛消防隊組織があり、火災・地震発生時の緊急マニュアルを作成している。	職員の入退職もあり定期的に見直す必要がある。 薬剤、衛生材料、飲料水等の備蓄がある。	火災地震等発生時の緊急マニュアル アクションカード 緊急連絡網
6-33-7　災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	情報の共有をして日頃から、各学科での管理体制を強固にする。	酸素などを使用する際の危険性の指導を徹底する。 禁煙の徹底指導。	大阪府の条例に基づき4月より全館禁煙になった。今後、近隣での喫煙等に関連して見回りの強化は必要である。また、他の学科でもガス、着火器具を用いての実習があり情報を共有していく。	
6-33-8　実習時等の事故防止の体制は十分か	専任教員が十分に配慮し危機管理を徹底する。	万一の場合、速やかに対応できるよう学科教員が常に気を配っている。	事故につながる可能性のある事項は学科で周知し、対応を日ごろより徹底しておく。	
6-33-9　万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	災害補償保険、賠償責任保険に加入している。	学校として災害補償保険に入っている。実習先での有事等に備えて賠償責任保険に加入している。また、入学時に任意での総合保障制度加入の案内の実施をしている。	本校は津波の避難ビルとなっている為、飲食料・防災グッズの備蓄も実施できている。	

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-33-10　防災訓練を実施しているか	定期的に防災訓練の実施をしている。	教職員の防災訓練は実施できているが、必要に応じて学生参加型の実施がされている。	学生も含めた訓練の実施を計画している。w	防災訓練実施計画書 防災研修資料 アクションカード

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
防災については、先の大震災も記憶に新しく身近に考えるところである。 訓練に関しても教職員だけでなく学生も含めた実施が急務であろう。また、有事に備えて日ごろより災害時の行動対処に関する明確な案内など体制の整備が継続して必要である。 日常実習の事故防止についても高所重量物の固定や撤去など十分でない箇所もあるため、必要に応じて予算を計上し対応していかなくてはいけない。 保険等の加入は十分に講じており問題なく遂行している。 グループ全体では、災害発生時の防災マニュアルブック作成し、学生・講師・教職員に配布しており、また緊急連絡網の構築を行っている。 災害発生時の救急薬剤や衛生材料や飲料水当の備蓄が不十分なので今後の課題として検討が必要である。	学科の特殊性もあり、日ごろより防災に関する認識は教員・学生共に高く保っている。 防災訓練は年 1 回実施し、学生も一部ではあるが含めて効果的に行えている。 (建物等担当の部署があり連携している。) 上記訓練と同時開催の救急訓練は通常通り実施。 緊急連絡網の受信チェックも年に数回行われ都度状況の報告をしている。 緊急時に備える為に、AED 設置の増台、ファーストエイドバックの設置を行っている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	田中　一平

基準６　教育環境（鍼灸師学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育成果を上げるためにも、資器材の充実は重要である。各学科の事業計画作成時に次年度必要な資器材の予算が組まれている。パブリックスペースについては施設設備担当者が日常の点検を行っており、不具合があると対応している。 海外研修においては、その専門性に特化した世界最先端の知識技術を学べる内容でプログラムが構成されている。 防災に関しては、消防計画に基づき毎年訓練を行っている。またグループ作成の防災マニュアルや、緊急連絡網、安否確認システムなどを導入している。 今後さらに教育環境を整備し、安心安全でより学びに適した学校作りが必要である。 教育環境の整備に関しては、年々機材や図書を充実させるなど、さまざまな工夫をこらしてきた。今後は視聴覚分野、特にタブレットなどを活用した IT 教材の利用や、利用方法の開発をおこなっていきたいと考えている。効率よく学習できる環境を整備するための方法論に関してはまだまだ工夫の余地があり、今後新しい教授法にもとづいた教育環境の整備を引き続きおこなっていきたいと考える。 また、学外臨床実習や海外研修、就職説明会などをおこなうことにより、外部との接点をもち、その空気にふれることにより、学生の意識を高めるしかけも多く用意している。	複数学科を有する本校では情報や物品の共有も可能である。 wifi は完備されており、ICT 教育の基盤は充実している。 今年度より新入生は各自１端末を用意している。（BYOD）

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

6-31　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-31-1　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	法令に基づいた施設・設備はもちろんのこと、さらに充実させるための整備をおこなう。	校舎設備だけでなく、学習のための備品を年々充実させている。今年度新入生からは電子教科書を採用している。	新入生は各自端末を用意している。今後はタブレットなどを活用し学習効果を上げていくことが課題となるが、ICT にとらわれず便利な１アイテムとして有効に活用していきたい。	特になし。
6-31-2　施設・設備のメンテナンス態勢が整備されているか	新しい施設・設備の導入だけでなく、既存のものに対してはメンテナンスをおこない環境を維持する。	日々の点検に加え、特に長期休暇中には一斉に点検をおこなっている。ほか、問題があればその都度対応している。	問題があれば対応するというメンテナンス態勢だが、専門の業者による専門的な視点からの点検なども検討していくべきである。また、大規模なメンテナンスの場合、予算申請から実行という流れが必要なため、実行までに時間がかかることがある。	特になし。
6-31-3　施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	計画にもとづいた定期的なメンテナンスをおこない、常に整備された環境で学習できるようにしていく。	教室や廊下など校舎全体にかかわるメンテナンスは計画的におこなわれている。学科単位のメンテナンスも近年少しずつおこなっている。	メンテナンスのための予算を毎年計上し、計画的なメンテナンスをおこなっていくべき。	特になし。

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
場あたり的な整備とならぬよう計画的に整備・メンテナンスをおこなっていくことが望ましい。ただし、その都度迅速に対応していくこともまた重要である。双方念頭においた予算計画が重要となる。	教育目標にかなった備品設備を充実させることは、教育の現場で必須である。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

6-32　学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育態勢を整備しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-32-4　学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育態勢を整備しているか	旅行事業部など手続き面に関係する機関、および受け入れ先の機関とも十分に連携し実施する。	大阪医科薬科大学での解剖実習、中国浙江省浙江中医薬大学での海外研修をおこなっている。また、外部臨床施設に協力してもらい学外臨床実習を実施している。新たな取り組みとして１年時に企業説明会に参加するイベントを実施し早期に業界に触れてもらう機会を設けている。	海外研修は年々希望参加者が減少している。実施国や旅行代金等を検討していく。本年度は中国浙江省浙江中医薬大学で実施予定。学外臨床実習もコロナ渦前の水準に回復してくため治療院訪問等を実施していく。１年生にも治療院見学を実施する。今年度初めて実施した企業説明会については学生アンケート・企業アンケートを踏まえて実施時期・学年を検討していく。	海外研修しおり 学外臨床実習に関する書類一式
6-32-5　学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	教育効果を検証し、その結果によりさらに充実させる工夫、あるいは変更点を検討していく。	フォームズ、アプリ等を活用し成績・報告書の提出を行っている。	本年度より完全にネット上でのやり取りとなるので不備の無いように注意を払って行う。	外部臨床ガイドライン

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
海外研修・解剖実習・学外臨床実習など学外での研修で、学内だけでは得ることのできない知識や経験などが得られることも多い。今まで以上に充実した教育態勢をとっていきたい。	それぞれの研修に関しては、特に実施時期を深く考慮している。もっとも効果的となるタイミングで実施できている。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

6-33　防災に対する態勢は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-33-6　防災に対する態勢は整備されているか	有事に備え日ごろから準備をしておき、学生・教職員とも可能な限りの安全性を確保する。	教職員・学生の防災訓練、学生への啓蒙活動などを、定期的におこなっている。教職員は各自役割が定められている。また、火災報知器なども整備されている。非常勤講師には講師会議等で有事の対応に関して伝えている。	災害は非日常的なできごとであり、また大きな災害は経験したこともないため、実際に有事があった際にどこまで有効に機能するか、不安がある。	アクションカード 備蓄 防災リュック 簡易担架
6-33-7　災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	災害を起こす可能性のあるものに関して、その危険性を喚起する。	もっとも可能性の高い災害である火災に関しては、十分に伝えており、予防の設備も備えている。	学生ひとり一人の意識が十分に高いとはいえない。教員が補う形ですすめてはいるが不十分。	アクションカード
6-33-8　実習時等の事故防止の態勢は十分か	事故防止のためのマニュアルを作成するなどして、徹底しておこなう。	マニュアルを作成し、学生への啓蒙をおこなっている。医療過誤の危険性は繰り返し授業で取り扱っている。	不十分な消毒、実習中の不注意、慣れから来る油断など、徹底されていない面も多い。今後さらに重要性を訴えていきたい。	アクションカード 実技科目マニュアル 臨床実習マニュアル
6-33-9　万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	学校全体で保険に加入を必須とする。	損害保険に加入し、実際に利用されている。	現時点で特に問題はないが、オプションなどにより、個々対応できるような態勢も検討していきたい。	特になし。

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-33-10　防災訓練を実施しているか	教職員・学生ともに定期的に防災訓練を実施して、有事に備える。	教職員に対しては例年3月に訓練を実施している。学生・非常勤講師に対しては「アクションカード」を用いての説明と、具体的な避難経路などの説明をし、避難訓練を実施している。長期休暇中や自宅で被災した場合に備え安否確認メールの登録を行っている。	校友会委員に学生防災委員として活動してもらい非常事態の備品についてレクチャーしていく。これにより学生の防災意識を高めたい	アクションカード

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
防災は事が起こってしまってからでは遅いため、常日ごろからの訓練や啓蒙活動が重要となる。防災設備に不備はないと思われるが、高い意識のもと防災訓練をおこなえるようにしなければならない。	災害対策強化のため、現在アクションカードを作成した。 学生が校内で 2 日間滞在できる分の備蓄を用意している。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	真田　浩二

基準６　教育環境（柔道整復師学科）

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育成果を上げるためにも、資器材の充実は重要である。各学科の事業計画作成時に次年度必要な資器材の予算が組まれている。パブリックスペースについては施設設備担当者が日常の点検を行っており、不具合があると対応している。 海外研修においては、その専門性に特化した世界最先端の知識技術を学べる内容でプログラムされている。 防災に関しては、消防計画に基づき毎年訓練を行っている。またグループ作成の防災マニュアルや、緊急連絡網、安否確認システムなどを導入している。今後さらに教育環境を整備し、安心安全でより学びに適した学校作りが必要である。 教育環境整備については、本学科独自の「実技マニュアル」を作成し、実技内容の充実化、また ICT を活用した教育も実施している。 業界で必要な最新の知識などは専門誌などを多数、積極的に取り入れており、知識、技術の更新のために役立てている。	オリジナル教本（実技教本）の開発、オリジナルの実技材料を使用し学生の視覚にも働きかけるような取り組みを行っている。 2026 年度（22 期生）より新入生はハードウェアの購入が義務付けされている。 入学前より使用方法やルールについて指導を実施し考えられる対策はとっている。今後、様子を見ながら必要か不必要であるか時期相応であるのかを判断し再検討する必要がある。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

6-31　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-31-1　施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	法令に基づいた施設、設備を整備している。	校舎設備だけでなく、学習のための備品、材料を充実させている。	新カリキュラムに対応すべく本年度中に実技室の改装が必要である。	特になし。
6-31-2　施設・設備のメンテナンス体制が整備されているか	安全管理だけでなく、衛生面においても十分なメンテナンスを行う。	日々の点検に加え、長期休暇中などには学科主導でも重点的な点検を行っている。また問題が発生した際にはその都度対応できる体制がある。	メンテナンスの概念があまりないので次年度以降予算に組み込むべきと考える	特になし。
6-31-3　施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	計画に基づいたメンテナンス、整備を行い、十分な教育環境を整える。	学校内全体のメンテナンスは定期的に行われており、必要十分は満たしている。	経年劣化に伴い急遽物品の購入に迫られる場合がある。学科予算内でしか購入することが大半であり学生に迷惑がかかる場合がある	特になし。

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
医療従事者として意識を高めるために、「環境の整備」は必須事項である。今後も十分な環境整備に努めたい。	学校全体が学生の感染症対策について注意し、また感染対策設備についても十分に準備している。 学科主導によるメンテナンスなども実施しており、特に問題はない。

最終更新日付	2026 年　6 月　12 日	記載責任者	岩崎　英明

6-32　学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-32-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	学外実習、インターンシップ、のみならず、本校の建学の理念の一つである国際教育の主となるべき海外研修などについて外部関係機関と連携し、教育体制を整備、強化、進行すべきである	応用教育の一環として各医療機関（病院、クリニック、整骨院、デイサービス施設など）への見学実習を定期的に行っており、学外実習は充実している。 海外研修については、本校の建学の理念である国際教育として、アメリカを主にした協力機関との連携が図られ、学生、教員の相互の受け入れ、教育がなされている	昨年度より鍼灸師学科とコラボで中国への海外研修を実施している。	海外研修資料 臨床実習資料
6-32-5 学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	教育効果を検証し、その結果によりさらに充実させる工夫、あるいは変更、修正を検討する	アンケートを実施し、海外で希望する研修内容をできるだけ取り入れ学生の満足度の上昇を図っている。	海外研修のアンケートや実施頂いた研修先より学生の状況を聴取している。更に教育効果をあげるための仕組みを研修先と密に連絡している。	特になし

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
昨今の物価高の影響で海外研修は学生、保護者の経済的な負担となりやすく、参加者が少ないのが現状であり、今後の課題の一つである。	参加人数の減少が課題でありその原因の一つが研修内容のほとんどを学科の教員に頼っているという現実がある。また参加しにくい費用（高く設定）のため年々減少傾向であることが示唆される。今後は競争入札など取り入れ内容・金額を比較検討し学生にとって一番良い形を作る必要性がある。

最終更新日付	2026年　6月　12日	記載責任者	岩崎　英明

6-33　防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-33-6　防災に対する体制は整備されているか	有事に備え、いつ何時でも対応できるようにすべきである。必要な体制は整備されており今後もアップデートすべきである	教員防災訓練、学生への啓蒙活動、防災機器の充実を行っている	災害については100%の準備はあり得ず、常に意識を高めておく必要がある。	ALL内資料 危機管理マニュアル
6-33-7　災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	災害を引き起こす機器は設置していない。一般的な防災管理を皆で共有する	頻度の高い火災については十分に指導している	常日頃より災害の意識を持ちリスク管理について教員全体が	危機管理マニュアル
6-33-8　実習時等の事故防止の体制は十分か	事故防止のためのマニュアルを作成するなどして徹底する	マニュアルを作成、配布し、学生への啓蒙は十分である。また入学時に実習等にも適応できる保険に学生は加入している	外部臨床実習の実施にあわせて事故防止のためにヒヤリハットなどについて、学生の教育指導を徹底していく。	学校保険契約書
6-33-9　万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	学校全体で保険加入が必須となっている	損害保険に加入し、適切に運用されている。	現時点では問題は無いが、オプション契約など、個別の対応も検討の余地がある。	特になし。

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-33-10　防災訓練を実施しているか	学校主導のもと定期的な防災訓練を実施している。	定期的に防災訓練を行い、学生、講師には防災マニュアルブックの配布などを行っている。 本年度よりＡＤＩ災害研究所のもと、教職員研修を実施	定期的な訓練の実施が本番での強さを発揮する。年一度の訓練だけでなく座学等のマニュアルも取り入れ実施すべきである。	危機管理マニュアル アクションカード

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
防災については訓練により全て防げるものではない。常に危機管理の意識を持ち災害は起こるものとして常に検討すべきものである。	一般社団法人ＡＤＩ災害研究所の実施する災害時の職員の初動対策「アクションカード作成の勧め」研修を受け災害時に使用することで誰でも対応が簡易になる構造となっている。

最終更新日付	2026年　6月　12日	記載責任者	岩崎　英明

基準７　学生の募集と受け入れ

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校では学生募集を単なる学生募集業務として捉えず、入学前教育と位置づけている。 「専門学校を希望する人たちに目指す業種や業界、滋慶グループでの授業や生活をわかりやすく理解してもらい、自分の目指すものを明確にし、夢とやる気を持ってもらうためのプレスクールであり、自己発見のサポートである」と定義付けている。 綿密に計画された広報計画書を基に目標が定められ、スケジュールが組まれている。広報担当者を中心にサッカー型の広報を展開し、教職員が一丸となって取り組んでいる。 学校定員を下回ることなく順調に推移している。 学生募集活動の適正さや客観的判断を知るために、入学者・非入学者アンケートをとり確認している。 入学選考については、大阪府専修学校各種学校連合会の定めた規定に従っている。入学選考や入学手続きに関しては、全て募集要項に記載されており、入学希望者に配布されている。	学校案内・ホームページ・媒体紙・DM・SNS など、学校から発信される情報は、事実に基づく実績、学校生活をイメージさせる在校生紹介、卒業後をイメージさせる卒業生の活躍や業界の展望を紹介している。高校生向け既卒者向け保護者向けなど、対象者別にリーフレットが作成されている。 オープンキャンパスにおいては、学校、学科の説明だけでなく、目指す資格や職業がイメージしやすい職業体験や、個別相談の時間が設けられ参加者目線に立った運びとなっている。運営は教職員だけでなく在校生から起用した学生スタッフもあたっている。昼間に行われるオープンキャンパスに参加できない社会人やクラブ活動をしている高校生に対しては、平日の夜にナイトオープンキャンパスを実施している。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	南谷　菜々子

7-34　学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
7-34-1　学生募集活動は、適正に行われているか	広告倫理委員会をもとに正しい情報を受験生に伝え、適正に行っている。	広報担当者を中心に学生募集を行っている。		・学校パンフレット ・ホームページ ・リーフレット ・SNS
7-34-2　学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	志望者のみならず保護者の理解も得られる広報活動を目指している。	志望者や保護者など、対象別のリーフレットを作成している。保護者対象進学説明会をオープンキャンパスで行っている。		・学校パンフレット ・ホームページ ・リーフレット ・SNS
7-34-3　志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	志望者や保護者の問い合わせに対応できるシステムを構築している。	入試・国家試験・就職・学費など用途別の相談に対応できるよう案内している。		・学校パンフレット ・ホームページ ・LINE
7-34-4　募集定員を満たす募集活動となっているか	定員（募集目標数）を満たす学生募集を目指している。	定員を達成するために弱点学科に対する対策を毎年計画し実行している。		・基礎資料調査

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
大阪府専修学校各種学校連合会の規定に基づき、適正に行っている。広告倫理委員会・個人情報保護委員会などを設置し管理している。	毎年、広報担当者を中心に綿密な広報計画書が作成されている。入学者アンケート、非入学者アンケートによる客観的なデータをもとに募集活動内容の見直しや変更を適時行っている。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	南谷　菜々子

7-35　学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
7-35-5　学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか	実績や卒業生の活躍、業界情報は正確に志望者に伝えることを目標としている。	就職実績や資格取得実績は学校案内・ホームページ等で数字化したデータに加え詳しく説明している。合格率だけでなく、受験者数、合格者数も記載している。	より理解しやすい提示方法を今後も立案実行していくことが重要である。	・学校パンフレット ・ホームページ ・リーフレット ・SNS
7-35-6　卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	志望者に卒業生の活躍を紹介し、自らの将来像をイメージすることが重要であると考えている。	学校案内での紹介だけでなく、実際に卒業生が来校するオープンキャンパスも行っている。志望者の入学理由においても、就職実績という理由が多い。		・入学後アンケート

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
正確に伝えられているといえる。国家試験結果・就職結果を伝えるだけでなく、志望者に将来像を抱かせ明確な目標目的を持たせることが重要である。卒業生の活躍はその具体例として明確であると考えている。入学前の期間を入学前教育と位置づけ、在学中はもちろん卒業後教育まで一貫した教育を実践している。	教育成果だけでなく、その成果に達するまでのプロセスの重要性も伝えていかなければならない。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	南谷　菜々子

7-36　入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
7-36-7　入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	入学選考基準は適正かつ公平な基準に基づき行われるべきだと考えている。	入学試験判定会議によって合否が判断され、議事録にて記録されている。		・入試判定会議議事録
7-36-8　入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	入学選考の状況は、全教職員が関心事として取り組むべき課題と考えている。	広報担当者から朝礼や会議での報告に加え、適時教職員が確認できるよう教務室に掲示されている。		

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事、学校長に加え各セクション責任者と各学科教員とで構成される入学試験判定会議が試験ごとに開催される。適正かつ公平な基準をもとに行われている。	

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	南谷　菜々子

7-37　学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
7-37-9　学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	充実した教育と快適な学校生活を提供するため学納金を設定すべきものと考えている。	学納金による負担の軽減策として分納制度や奨学金、教育ローンを紹介している。		・募集要項 ・奨学金教育ローンのサポートBOOK ・学費支援のご案内
7-37-10　入学辞退者に対する授業料等の返還について適正に処理されているか	入学辞退者に対する授業料等の返還は適正に処理されるべきものと考えている。	辞退者の授業料返還に関しては募集要項に記載しており、適正に処理している。		・募集要項
7-37-11　学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	学校運営の基礎となる学納金について、会計担当者を中心に常に把握しておくべきものと考えている。	本部会計より学校会計担当者に適時報告されるシステムが構築されている。		・経理資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金は妥当だと考えている。分納制度を導入し負担の軽減を図っている。学納金は募集要項への記載だけでなくさらに詳細に説明が記載された専用のリーフレットを作成している。また研修を何度も経験したフィナンシャルアドバイザーの職員が説明を行っている。	貸与奨学金や高等教育の修学支援制度、各種教育ローンなどの学費サポートシステムを活用し、経済的負担の軽減に努めていきたい。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	南谷　菜々子

基準８　財務

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務状況は健全であるといえる。また収支計画書に沿った運営が出来ている。予算・収支計画は有効かつ妥当に執行されており、充実した教育を提供できる環境にある。中長期的に安定が見込める。 監査による指摘点は即時是正されている。また情報公開に向けた取り組みとして、適正な資料が作成されている。	年々、教育に必要な教材や資機材、光熱費、設備工事、修繕費にいたるまで、あらゆるものの価格が高騰している。教育の質または教職員の職場満足度を下げることのないよう、時代の流れをよんだ学費設定も今後は必要になると考える。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎

8-38　中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-38-1　中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	財務基盤の安定を運営目標としている。	毎年作成される予算計画において 5 年後までの収支を作成し、収支計画書に沿った運営がなされている。		事業報告書
8-38-2　主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	財務数値にかんする情報は常に正確に把握されるべきものと考えている。	本部会計より適時変動状況の報告があり把握している。		事業報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務状況は健全であるといえる。また収支計画書に沿った運営が出来ている。	

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎

8-39　予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-39-3　年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして有効かつ妥当なものとなっている。	年度予算、中期計画は、目的目標に照らして有効かつ妥当なものとなっており、毎年 5 年先までの収支計画が立案されている。		・事業計画書 ・事業報告書
8-39-4　予算は計画に従って妥当に執行されているか	予算は計画に従って妥当に執行されなければならない。	計画的に執行されている。		・事業計画書 ・事業報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
予算・収支計画は有効かつ妥当に執行されており、充実した教育を提供できる環境にある。中長期的に安定が見込める。	

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎

8-40　財務について会計監査が適正に行われているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-40-5　財務について会計監査が適正におこなわれているか	財務について会計監査が適正におこなわれるべきであると考えている。	定期的に外部の会計監査法人による会計監査を実施している。		・決算書類 ・監査報告書
8-40-6　会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	決算終了後すみやかに行われ、監事による指摘を是正していく必要があると考えている。	毎年 5 月に監事・本部会計担当者で監査を実施している。		・決算書類 ・監査報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
会計監査は適正に行われており、監事による指摘点は是正されている。	

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎

8-41　財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-41-7　私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	財務情報は公開されるべきと考えている。	適正に資料の作成が行われている。		・財務情報公開用決算書
8-41-8　私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	私立学校法に則った財務情報公開資料の作成が必要と考えている。	適正に資料の作成が行われている。		・財務情報公開用決算書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
適正な資料が作成されており、情報公開がなされている。	

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	柿原　伸一郎

基準９　法令等の遵守

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は専修学校設置基準に基づき学校を設置し、歯科技工士学校養成所指定規則・救急救命士学校養成所指定規則・あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設認定規則、柔道整復師学校養成施設指定規則に基づき学科を設置している。 また理事会をベースにコンプライアンス委員会、個人情報保護委員会などを設置し、法令順守に基づき適正な学校運営をおこなっている。 教育においては各学科（各国家資格）でコンプライアンスの重要性をカリキュラム（関係法規等）に落とし込み実施している。 個人情報保護法に基づき、厳重な管理体制となっている。個人情報保護規定を定め個人情報保護委員会が中心となり運用している。オリエンテーションにおいて学生にも個人情報保護の教育を実施している。志望者に対しては、募集要項にその情報の用途を明記し、学校の姿勢を示している。 自己点検自己評価の実施を現在進めており、学校関係者評価の準備を開始している。	個人情報保護の観点からも重要となるITリテラシーの向上を目的とし、滋慶学園グループではすべての教職員、学生がIT、DXについて高いリテラシーを持てているかどうかの確認テストを毎年全員が合格するまで行っている。 また、近年問題視されているサイバーセキュリティ向上に向け、グループ内にCSIRTを設置。情報セキュリティの向上と問題発生時の報告体系、迅速に対応できるよう体制が整えられている。

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	柿原　伸一郎

9-42　法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-42-1　法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	コンプライアンスに沿った適正な学校運営がなされるべきと考えている。	法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされている。監事に監査も適時おこなわれている。	法令は遵守すべきものであり、特に指定養成校にとっては細かな法令も理解していかなくてはならない。	・学校基本調査 ・基礎資料調査 ・5 条報告
9-42-2　法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	教職員全員がコンプライアンスに沿った教育活動を行うべきと考えている。学生においてもコンプライアンスの理解は重要であると考えている。	教職員については運営会議や全体会議での研修を実施している。学生においては、各学科での医療概論や関係法規の授業で行っている。		・議事録 ・シラバス

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法令遵守は教職員のみならず国家資格有資格者となる在校生の理解も重要であると考えている。現在本校はコンプライアンスに沿った学校運営がなされているといえる。	

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎

9-43　個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-43-3　志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	学校が保有する個人情報は厳重に管理されるべきと考えている。	学校が保有する個人情報は厳重に管理されている。個人情報保護規定を定め、個人情報保護委員会が設置されている。 また適時、エイドトラストエージャンシーによる個人情報保護の取り組み状況ヒアリングが行われている。ホームページにおいては、TRUST e プライバシーライセンスを取得している。	SNS における個人情報の流出や被害防止を目的に教職員、全学生を対象に IT/DX リテラシーの勉強会、テストを開催している。今後も定期的に開催し、周知徹底に努める。	・個人情報保護規定 ・ホームページ ・TRUST e 認証ライセンシー
9-43-4　個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	教職員全員が個人情報保護法に基づいた教育活動を行うべきと考えている。学生においても個人情報保護法の理解は重要であると考えている。	教職員においては学内に設置された個人情報保護委員会により全体会議などにおいて啓発が行われている。 学生においても、個人情報保護委員会より学年始めのオリエンテーションを利用し啓発している。	学校グループで行っている IT/DX リテラシーテストを教職員、講師、学生全員に合格するまで受験させている。 学校は個人情報の集積であるとも言える。教職員や講師、学生において更なる理解が必要である。	・個人情報保護規定 ・IT/DX リテラシー

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報保護法に基づき、厳重な管理体制となっている。個人情報保護規定を定め個人情報保護委員会が中心となり運用している。オリエンテーションにおいて学生にも個人情報保護の教育を実施している。	

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎

9-44　自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-44-5　自己点検・自己評価を定期的に実施し、問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価の定期的に実施、それによる問題点改善が重要と考えている。	自己点検自己評価による学校関係者評価委員会も実施されており、問題改善に向け取り組んでいる。	PDCA サイクルで、より良い学校を目指していかなくてはならない。	・自己点検自己評価報告書 ・学校関係者評価委員会報告書
9-44-6　自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	自己点検・自己評価に関する方針の確立が重要と考えている。	学内に横断的な自己点検自己評価委員会を設置し実行方針を定めている。	PDCA サイクルで、より良い学校を目指していかなくてはならない。	・自己点検自己評価報告書 ・学校関係者評価委員会報告書
9-44-7　自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝えるべきだと考えている。	学校関係者評価委員会で話し合われており正確に伝わっている。	PDCA サイクルで、より良い学校を目指していかなくてはならない。	・自己点検自己評価報告書 ・学校関係者評価委員会報告書

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己点検・自己評価を実施し、それをもとに学校関係者評価委員会、さらには養成学科ごとに教育課程編成委員会も実施している。外部委員からの意見も参考に、PDCA サイクルを実践、改善に努めている。	

最終更新日付	20256 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎

9-45　自己点検・自己評価結果を公開しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-45-8　自己点検・自己評価結果を公開しているか	自己点検・自己評価結果の公開は重要であると考えている。	公開している。		ホームページ
9-45-9　自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されなければならないと考えている。	方針は定められている。		
9-45-10　自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝えるべきだと考えている。			

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己点検・自己評価を行い、学校関係者評価委員会で話し合われた内容について必ず議事録を残し、ホームページに公開している。	

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	柿原　伸一郎

基準１０　社会貢献

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「職業人教育を通して社会に貢献する」というミッションをもって学校が運営されている。教職員や学生たちがそれぞれの専門性と学校が持つ教育資源を活かし、企業や地域団体などと連携しながら、さまざまな分野で社会貢献活動に取り組んでいる。 　生涯教育においては同窓会が中心となって活動しているが卒業生だけでなく、地域・社会に開かれた学校を目指して取り組んでいる。 　学校施設については地域の津波避難所として提供している。また学園祭では、献血ステーションとして会場提供している。 　社会問題への取り組みとしては、地球温暖化防止を目指しエレベーターの使用制限（2 アップ 3 ダウン)、廊下電灯の間引き点灯、空調の温度設定 28 度キープ、使用電力メーターを設置している。ゴミの分別、ペットボトルのキャップ集め（ワクチン）も行っている。クールビズも実施している。 学内外に目を向け、より開かれた学校作りを目指している。	大阪教職員自主研修支援事業「大学・専修学校等オープン講座」を開催している。 大阪市の取り組みである OEN（Osaka city Education Network）に登録、地域の中学校に体験授業などを実施している。 学園祭の売り上げの一部をユニセフに募金している。赤い羽根の共同募金にも協力している。また献血活動を行っている。 大阪市淀川区と連携協定を結び、全教職員、全学生に認知症サポーター養成講座を実施。東洋オレンジチームを結成し、教職員、学生ボランティアで地域の高齢者対象に健康運動教室を開講。 【救急救命士学科の活動】 ・学生及び教職員が日本 DMAT、大阪 DMAT に協力。 ・他専門学校や高等学校、近隣の企業に BLS 講習会を実施。 ・淀川警察の防犯キャンペーンに協力。 【柔道整復師学科の活動】 ・大阪府柔道整復師会淀川支部救護部として協力。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎

10-46　学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
10-46-1　広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流は重要と考えている。	学校関係者以外が参加可能な講習会や講演会が実施されている。柔道整復師学科においては、地域スポーツ大会などにおいての救護班。救命士学科においては、消防の防災非難訓練参加や運営スタッフ、高等学校中学校の BLS 講習会などで協力している。学園祭では、大人だけでなく地域の子供が参加しやすい環境を整えている。大阪府教育センター主催の府下の幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭対象のサマーセミナーも開催している。	資格の法的な性質上、学生の直接的な行為が制限されるため、現在は教員が中心となって連携、交流が図られている。今後、学生も参加できる交流連携を計画していきたい。	特に無し
10-46-2　学校の資源を活用し、生涯学習事業や雇用促進への支援を行っているか	学校の資源を活用し、生涯学習事業や雇用促進への支援は重要であると考えている。	生涯学習・卒後教育に関しては同窓会が中心となって講習会等が行われている。雇用促進に関しては、在校生だけでなく、卒業生に対しても就職支援を行っている。	今後さらなる生涯学習事業や雇用促進への支援を強化していきたい。	特に無し
10-46-3　学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	学校の施設・設備を開放するなど、地域社会との連携は重要だと考えている。	学園祭での献血会場や、津波避難場所として校舎を使用している。	市民講座の開催など、さらに地域社会に貢献できる連携を考えていきたい。	特に無し
10-46-4　諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発は重要だと考えている。	中国浙江中医薬大学との同時入学制度（鍼灸師学科）や、本校教員が、浙江中医薬大学生に日本研修として授業を行っている。各学科において海外研修を実施している。	卒業後、国外において国家資格を生かせる状況が望ましい。	特に無し

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
10-46-5　重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	専門的な教育のみならず、重要な社会問題についての認知と理解は重要と考えている。	教職員には講習会や朝礼、会議等で啓蒙し、学生においてはホームルームなどで説明している。	重要な社会問題に関する啓蒙活動は、キャリア教育の一環として、今後システム化していく努力が必要である。	特に無し
10-46-6　学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	学校として重要な社会問題に取り組むことは重要であると考えている。	IT リテラシーの問題や、地球温暖化、節電対策など、講習会の実施や空調の温度調整、エレベーターの使用制限（2 アップ 3 ダウン）無駄な電気の消灯などに取り組んでいる。赤い羽根募金や学園祭での収益金の一部をユニセフに募金している。	重要な社会問題への具体的な取り組みをシステム化させ、個人差の大きい取り組みレベルの全体的な底上げが今後望まれる。	特に無し

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の教育資源を活用した教育機関や企業、業界との連携は重要であると考え取り組みを行っている。 専門的な教育のみならず、重要な社会問題についての認知と理解、それへの取り組みはキャリア教育の観点からも行っている。 地球温暖化に関してはグループ全体の取り組みで消費電力の節約に留意して日常生活を送っている。しかし、まだまだ個人レベルでは差が激しい。 教職員だけでなく学生一人一人が真剣に取り組めるよう指導を徹底していきたい。	広く社会に目を向けるための啓蒙活動は、キャリア教育の一環として今後システム化が望まれる。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎

10-47　学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
10-47-7　学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	学生のボランティア活動を奨励、支援する体制が必要であると思われる。	淀川マラソン、篠山マラソンの救護班ボランティアなど 専任教員も引率として同行している	今後、さらなる学生のボランティア活動を推奨していきたい。	特に無し
10-47-8　学生のボランティア活動の状況を把握しているか	学生のボランティア活動状況の把握は重要である。	学校から学生に提示したボランティア活動は把握可能であるが、学生が個人的に活動した場合の把握は出来ていないものがある。	特に無し	特に無し

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校から学生に提示するボランティアについては、内容とその意義が十分に検討され安全面の確認がとれたものとなっており、学校が把握している。しかし、学生個々で行ったものに関しては自己申告によるものに対応しているのが現状である。 今後は学校としても状況を把握して定期的継続的に奨励。支援の体制を検討しなれければならない。 また授業時間との兼ね合いも検討していかなくてはならない。	特になし

最終更新日付	2026年6月12日	記載責任者	柿原　伸一郎

基準１１　国際交流

点検大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国際交流を通じ世界に目を向けた教育を展開していかなければならない。 本校の建学の理念の一つである国際教育は、昨今の多様化する国際情勢に鑑みて非常に重要な位置を占めることになっている。 またグローバル化が進む産業界においては国際的素養を持った人材の育成は急務である。スペシャリストの養成をベースに世界を視野に入れた考え方や世界で通用する技術知識を含めた教育を実践していかなければならない。 在学中から海外の文化やテクノロジーに直に触れる機会を数多く設け、十分な語学力や国際的な視野を養い、これからの社会や産業界を牽引できるグローバルな人材を育てていきたいと考えている。	コロナ以降、渡航費の高騰や海外情勢などを鑑み、積極的な海外研修は実施できているとは言えない状態である。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎

11-48　グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

点検小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
11-48-1　各学科において国際教育は実践されているか	国際教育は実践されていると考える。専門職を活かした国際的に活躍する人材育成に取り組んでいる	目指す専門職における海外での最先端の技術や、異文化交流を学ぶために、各学科において海外研修が実施されている。 鍼灸師学科においては中国浙江中医薬大学との同時入学制度により多くの卒業生が留学している。また双方向に 20 年以上にわたる学術交流（歯科技工士学科）も続いている。	経済的理由から海外研修や留学を断念する学生が増えてきている。計画的なサポート指導が必要となってくる。	海外研修のしおり
11-48-2　グローバル人材育成に向けた取り組みは整備されているか	グローバル人材育成に向けた取り組みは重要であると考える。各業界における国際的な情報の提供、国際的コミュニケーション能力の向上を目指している。	中国・韓国・台湾等との学術交流を通じて、業界の情報収集を行い、海外での活躍を目指す学生の為に、カリキュラムに含まれる医療英語・英会話・中国語講座以外にも、学科横断的な英会話セミナーが実施されている。	国際的コミュニケーション能力向上に向けた、さらなるモチベーションアップの指導が重要である。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各学科の専門性を考慮した海外研修が行われている。自らが目指す世界の最先端に触れることにより、世界的視野を持った職業人の養成をめざしている。具体的な取り組みとしては、国家試験のためのカリキュラムに加え、申し込み制の英会話セミナーを実施している。	海外渡航費用の高騰に伴う希望者の減少、渡航先の情勢も考慮し現状はオンライン海外研修を中心に実施している。 2025 年度は鍼灸師学科のみ海外研修が行われた。 今後も教育効果、価格帯、情勢などのバランスを考慮し、すべての学科で実施に向けて柔軟に動いていく。

最終更新日付	2026 年 6 月 12 日	記載責任者	柿原　伸一郎